

補助事業の実績

Ⅰ 目的

これまでの事業の成果を踏まえ、教育・保育アドバイザーを配置する市町村を拡充し、そのネットワークを活用強化することにより、地域や園種の垣根を越えた研修や人材育成を支援する。

「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期の教育の重要性についての理解啓発をすすめるとともに、県内全ての子どもたちへの質の高い幼児教育の保障に向けて、市町村における幼児教育推進体制の充実強化を図る。

Ⅱ 方法

「県（幼児教育センター）の取組」「県と市との連携による取組」「市町村の取組」を実施

Ⅲ 実施内容

県と市町村との連携による取組

1 市町村教育・保育推進体制の支援

(1) 市教育・保育アドバイザーの育成及びネットワークの充実・強化

①目的

県教育・保育アドバイザーを核とした市教育・保育アドバイザーの育成・支援や、市教育・保育アドバイザーのネットワークを構築する。

②内容

ア) 県教育・保育アドバイザーの配置

イ) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催(5回)、参加者の拡充

・具体事例による保育の見方や保育者に対する助言方法についての演習・協議 等

ウ) 指導主事等訪問への市アドバイザーの同行

(指導・助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有)

エ) 市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援

(園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わり方や支援の仕方、悩みに対する指導・助言、市主催の研修会の企画・運営等への指導・助言等)

オ) 県主催所管研修会へ参加

(市アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画・運営方法を学ぶ機会)

(市の保育者の実態をつかむ)

カ) 「他市のアドバイザーに学ぶ研修会」の開催

(他市のアドバイザーの取組を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ。全員で保育を参観し、保育についての協議を行い、保育の見方を共有する)

③内容の詳細

ア) 県教育・保育アドバイザーの配置(市教育・保育アドバイザーの育成・統括的役割)

市教育・保育アドバイザーの育成と活動支援を担う目的で、県に教育・教育アドバイザーを配置している。統括的役割を担い、園や保育者の課題の共有、課題解決に向けた協議を進めるとともに、教育・保育内容に関する指導の方向性の統一を図るための取組を進めている。市教育・保育アドバイザーとのネットワークを構築し相談役にもなり、その存在が精神的な支えとなっている。

イ) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催(5回)、参加者の拡充

前年度に引き続き県教育・保育アドバイザーのコーディネートのもと、より実践的な内容を取り入れ、年5回実施した。保育者に対する具体的な指導・助言に向けたロールプレイによる演習や協議、事例検討、情報交換を行った。また、市アドバイザーからも要望があった乳幼児(3歳未満児)の遊びや生活について講義を受け、子どもにとっての園生活について演習・協議を行い、園や保育者の課題に対するよりよい指導・助言や支援の在り方、関わり等について考える機会とした。

【参加者】（計 13 名）

県教育・保育アドバイザー（以下 県AD）1 名

事業実施市教育・保育アドバイザー（市負担AD含 以下 市AD）11 名

指導主事 1 名

【実施日程・場所・主な内容】

	期 日（曜）	場 所	主 な 内 容（予定）
1	令和 5 年 4 月 24 日（月） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎 6 階 総 605 会議室	・令和 5 年度の県と実施市の連携・協力体制の確認 ・実施市の計画等について ・幼小接続について ・教育・保育アドバイザーに求められること
2	6 月 23 日（金） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎 6 階 総 610 会議室	・講義・演習「乳幼児の発達の理解について」 ・実施市開催の研修会及び園訪問予定について
3	8 月 24 日（木） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎 6 階 総 610 会議室	・特別支援教育について ・市の課題等への対応（具体事例による協議）
4	10 月 24 日（火） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎 6 階 総 610 会議室	・ロールプレイによる事例検討 ・保育者に対する助言方法についての協議 ・市の課題等への対応（具体事例による協議）
5	令和 6 年 1 月 23 日（火） 10:30～16:00	秋田地方総合庁舎 6 階 総 605 会議室	・令和 5 年度の成果と課題の共有 ・令和 6 年度の活動の見通し

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・県幼保指導員による講義・演習「乳児の発達の理解について」は、未満児の見方・捉え方と助言について学び、見方を深めることができた。訪問等で出会うような事例がたくさん出てきて、保育者の気付きを意識した助言をしていきたいと思った。
- ・特別支援については最重要課題と考えていた。子どもや保護者を支える様々な会の存在、切れ目のない支援のための様々な会の在りようやメンバーについて、特別支援に関わる上で参考になる話だった。
- ・ロールプレイによる事例検討は、主体性を育む保育について深く考え合うことができた。保育者役になることで、アドバイスの仕方を見直したり、アドバイザーとしてどのように関わっていったらよいのかを考えたりする上で有効だった。
- ・他市のアドバイザーに相談する時間や各市の取組についてテーマを設定した情報交換の場は、自市の仕事の進め方について考えていく上で参考になった。
- ・集合型で協議会を行うことで、細かい悩み等についても相談しやすく、同時にアドバイザー同士のネットワークづくりにも生かされている。
- ・各市の課題やニーズに応じてテーマを設定した情報交換の場や、他市のアドバイザーに相談する場は貴重であり、今後も日程を調整してこのような機会と場を設けて欲しい。
- ・今後もアドバイザーに求められる資質能力や専門的な知識を学びたい。

ウ) 指導主事等訪問への市アドバイザーの同行

(指導・助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有)

実施市における、園種の垣根を越えた全園種を対象とした各種訪問時に、市アドバイザーが県指導主事及び幼保指導員に同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。

市アドバイザーは県指導主事等と園や保育者の課題解決に向け指導・支援するポイントを共有し、園へ継続的に指導・支援を実施した。

【市ADの同行数】

実 施 市	回数	前年比
大 館 市	19	0
男 鹿 市	9	+3
横 手 市	5	+2
潟 上 市	5	0
仙 北 市	8	-3
大 仙 市	22	-6
にかほ 市	0	-4
能 代 市	10	-2

エ) 市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援

園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わりや支援の仕方、悩みに対する指導・助言、市主催の研修会の企画・運営等の具体的内容に関することなど、市教育・保育アドバイザーへの支援を行った。

R5. 4～R6. 3

オ) 県主催所管研修会へ参加

(市アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画・運営方法を学ぶ機会)

(市の保育者の実態をつかむ)

市アドバイザーが幼保推進課主催の研修会に参加することを通して、教育・保育内容等の理解を深めた。また、研修会開催の企画や運営方法を学び、市主催研修会及び園訪問で活用し、研修内容の充実に努めた。各市の園に在籍する保育者の実態把握の場にもなっている。

市アドバイザーの代替わりや新規の市のアドバイザーの参加、配置人数の違いにより回数に差が見られるが、意欲的に研修に参加している。

【市ADの県所管研修参加数】

実 施 市	回数	前年比
大 館 市	8	+3
男 鹿 市	10	0
横 手 市	4	-4
潟 上 市	6	-3
仙 北 市	4	-1
大 仙 市	13	+7
にかほ 市	3	+1
能 代 市	3	+2

R5. 4～R6. 3

カ) 「他市アドバイザーに学ぶ研修会」の開催

(他市のアドバイザー活動を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ、全員で保育を参観し、保育についての協議を行い、保育の見方を共有する)

【市アドバイザーに学ぶ研修会】

期 日	場 所	主な内容・参加者
7月12日(水)	男鹿市立船越保育園	保育参観・担任との振り返り・園内研修参観・研修リーダーとの振り返り・園長等との振り返り・アドバイザー会議 市AD2名、県AD1名、県指導主事1名
7月19日(水)	潟上市立出戸こども園 潟上庁舎	【中止】
9月6日(水)	社会福祉法人仁賀保保育会 にかほ保育園	保育参観・担任との振り返り・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD3名、県AD1名、県指導主事1名
9月14日(木)	社会福祉法人はなさき仙北 幼保連携型認定こども園 角館こども園	【中止】
9月28日(木)	社会福祉法人 育童会 樽見内保育園	保育参観・担任との振り返り・アドバイザー会議

	横手市役所平鹿地域局	市AD 4名、県AD 1名、県指導主事 1名
10月19日(木)	社会福祉法人 大曲保育会 大曲南保育園 花火伝統文化継承資料館	保育参観・担任との振り返り・園内研修参観・ アドバイザー会議 市AD 3名、県AD 1名、県指導主事各 1名
10月26日(木)	大館市立有浦保育園	保育参観・アドバイザー研修会 市AD 5名、県AD 1名、県指導主事 2名
11月7日(火)	淳城幼稚園・ていじょう 保育園 能代市役所	保育参観・園経営説明・アドバイザー研修会市 AD 9名、県AD 1名、県指導主事 2名

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・他市のアドバイザーの支援の仕方が大いに参考になった。各園の課題や困りごとについて精通しており、常に温かい言葉掛けやアドバイスによって、職員を励ましている。自市でも、大切にしていることである。この研修会の必要性、重要性を十分に感じ取ることができた。
- ・アドバイザーの幼児教育の考え方及び大勢の保育者の経営者としての視点が明確で、園や保育士の実情や心情をよく理解し、尊重しながら保育を改善していこうとするところが参考になった。
- ・アドバイザーが市として環境の構成について力を入れて関わってきたことで、園が実践され向上している様子を見せていただくことができ大変参考になった。これから自市に生かしていきたい。
- ・アドバイザー全員で園の見学や視察を行い、保育を共有したり保育の捉え方を学んだりしたことが有意義であった。本研修で子どもの内面理解の大切さを感じ、今後も自己研鑽に努めていきたい。



(2) 市町村主催研修会の支援

①目的

県からの指導者（幼児教育担当指導主事、小学校生活科担当指導主事等）派遣により、市町村主催研修会を支援し、市町村の課題や園のニーズに応じた研修会を市町村が主体的に企画・運営できるようにする。

②方法

A D配置市及び未配置市町村の要請に応じた指導者（指導主事・幼保指導員・県AD）の市町村主催研修への派遣

③実施内容

市や園の課題やニーズに応じた研修会を主体的に企画・運営できるように、市の要請に可能な限り対応した。県から指導者（県指導主事、幼保指導員、県アドバイザー等）を派遣し、市主催研修会を支援した。

保育実践や市の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。

(参考) 市主催研修への指導主事等を派遣した研修会

市	研 修 会
大館市	ファシリテーター研修会 2回、5歳児研修会
男鹿市	市就学前・小学校合同研修会、キャリアアップ研修会（3回）
横手市	保育実践力向上研修会
潟上市	公開保育研究会、ファシリテーター研修会、保育実践研修（4回）
仙北市	ファシリテーター研修会 3回、就学前・小学校仙北市合同研修会、乳児保育研修会（2回）

大仙市	保育実践力向上研修会(2回)、就学前・小学校大仙地区合同研修会
にかほ市	市就学前・小学校合同研修会、年齢別研修(3回)
能代市	保育研修会、就学前・小学校能代地区合同研修会、市幼保小連携推進協議会(3回)

【実施市における教育・保育アドバイザーの活用、研修会の実施状況】

ア) 推進体制(各市の状況、政策決定、周知方法等)

市	対象施設数 a 幼 b 保 c 幼保 d 他	a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 目指す方向性	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	市AD活用 促進の工夫
大館	a. 1 b 公 9 私 1 c 私 8 d 12	aH21 福祉課に保育 AD 配置 H28 教育委員会に市 AD 配置 b 県の指導者、市 AD を継続活用	教育・保育の質 の向上 教職員の専門 性向上 小学校教育と の円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と 市の課題を共 有し協議	小中学校長 会、各園長 会、研修会、 園訪問時の指 導等で周知	リーフレッ トや、幼保 小連携だよ り「つな ぐ」の配付 による周知
男鹿	a 私 1 b 公立 7 d 1	a H28 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	市担当者と園 長会議で周知	園長会議で 基本の活用 方法決定、 幼保連携通 信「ぶらん こ」配付
横手	a 私 4 b 公 3 私 21 c 私 4 d 7	aH28 に市 AD 配置 R1 市指導主事配置 b 市の指導主事が 在籍。県の指導者 の活用は多くない		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協 議	独自広報紙発 行や施設訪問 時による周知	幼小連携だ より「よこて のめんこ」配 付
潟上	a 私 1 b 公 1 c 公 4 d 8	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継 続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協 議	市担当者と園 長会議で訪問 周知	毎月の園長 会議で活用 の基本確 認、幼保小 連携だより 「かたっこ すまいる」 配付
仙北	b 公 3 c 私 5 d 3	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	園長会議や園 訪問での周知	訪問を通じ 基本的な活 用を周知
大仙	b 私 17 c 私 9 d 4	aR1 に法人から派遣 の市 AD 配置 R2 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	周知パンフレ ットの配布や 施設訪問時 による周知	AD 派遣事業 実施要項の 周知、幼小 連携だより 「だいせん 元気っこ」 の配付
にかほ	b 私 4 c 私 4	aR3 に市 AD 配置 b 県の指導者を継 続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	園長会議や園 訪問での周知	訪問を通じ 基本的な活 用を周知
能代	a 私 2 b 公 4 私 8 c 私 4 d 1	aR4 に市 AD 配置 b 県の指導者を継 続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局内で 協議	就学前施設、 小学校への訪 問時による周 知	訪問を通じ 基本的な活 用を周知、 幼児教育・ 保育 AD 通信

							「てのひら」の配付
--	--	--	--	--	--	--	-----------

イ) 市アドバイザー訪問回数と訪問実施率

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	にかほ市	能代市
R3 実績(回)	189	105	548	143	226	115	47	—
R4 実績(回)	185	98	757	300	178	148	59	101
R5 目標値(回)	200	116	500	105	137	149	149	100
R5 実績(回)	269	153	623	246	169	147	84	105
R5 実施率(%)	134.5%	131.8%	124.6%	234.2%	123.3%	98.6%	56.3%	105.0%

- コロナが５類になったことにより、計画どおり実施することができた市が多かった。各市の実情に合わせ、目的を明確にしながら園や保育者への支援がなされている。
- 計画的・継続的に、園への訪問がなされていることが、園や保育者と市アドバイザーとの信頼関係構築に効果を生んでいる。
- これまでの周知活動が効果を生み、園側のアドバイザーの受け入れ体制が進んできた市もある。

ウ) 市アドバイザー訪問内容

市	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	その他
大館	8.0(18.2)	0(1.4)	2.3(7.3)	8.2(5.5)	48.8(29.7)	5.7(8.7)	27.0(29.2)
	-10.2	-1.4	-5.0	+2.7	+19.1	-3.0	-2.2
男鹿	13.4(24.0)	1.6(4.0)	25.9(33.2)	13.3(16.0)	25.3(8.4)	2.5(2.4)	18.0(12.0)
	-10.6	-2.4	-7.3	-2.7	+16.9	+0.1	+6.0
横手	10.1(8.3)	4.4(2.5)	1.8(2.8)	4.6(1.7)	68.4(64.2)	1.2(0.3)	9.5(20.2)
	+1.8	+1.9	+1.0	+2.9	+4.2	+0.9	-10.7
潟上	14.4(13.0)	5.9(3.4)	32.7(29.4)	6.8(6.1)	17.3(39.0)	1.2(1.1)	21.7(8.0)
	+1.4	+2.5	+3.3	+0.7	-21.7	+0.1	+13.7
仙北	18.7(15.1)	7.7(12.1)	20.9(10.4)	17.4(15.6)	8.9(13.0)	5.5(4.8)	20.9(29.0)
	+3.6	-4.4	+10.5	+1.8	-4.1	+0.7	-8.1
大仙	9.2(7.7)	2.9(1.5)	23.2(21.8)	23.5(22.5)	18.4(7.4)	8.1(10.3)	14.7(28.8)
	+1.5	+1.4	+1.4	+1	+11	-2.2	-14.1
にかほ	23.3(21.4)	7.5(9.2)	38.3(28.6)	5.0(12.2)	21.7(9.2)	0(4.1)	4.2(15.3)
	+1.9	-1.7	+9.7	-7.2	+12.5	-4.1	11.1
能代	11.2(11.2)	0(0)	1.3(0)	52.3(36.8)	14.6(33.6)	7.3(9.6)	13.3(8.8)
	0	0	+1.3	+15.5	-19	-2.3	+4.5

[上段：R5年度(R4年度)の％ 下段：前年比]

エ) 地域で学び合う機会の充実、園や市町村を越えた研修会開催

【実施市での研修会の開催数と参加者】

	大館	男鹿	横手	潟上	仙北	大仙	にかほ	能代	計
R5開催数(回)	38	5	34	30	13	3	4	7	134
R4開催数(回)	34	5	20	11	11	3	3	6	93
前年比	+4	0	+14	+19	+2	0	+1	+1	+41
R5参加者(人)	1195	43	628	517	295	146	44	160	2806

R4参加者(人)	1128	50	340	152	209	94	38	165	2176
前年比	+67	-7	+288	+365	+86	+52	+6	-5	+630

[上段：R5 年度（R4 年度）の実数 下段：前年比（回数、人数）]

【分野別研修会開催数】 [上段：R5 年度の回数（参加者数）、中段：R4 年度、下段：R4 年度比]

市	市全体	課題別	キャリア ステージ別	担当年齢 ・職種別	公開保育	その他 (幼小研修 会他) ※	開催数 (参加者)
大館	-	11(268)	-	8(192)	5(119)	9(616)	38(1195)
	-	6(181)	-	8(234)	10(218)	10(495)	34(1128)
	-	-2(-27)	-	+4(+120)	+6(+129)	+6(-113)	+4(+67)
男鹿	-	-	1(8)	2(20)	中止	1(15)	5(43)
	-	-	2(15)	0(0)	0	1(12)	5(50)
	-	-	-1(-7)	+2(+20)		0(+3)	0(-7)
横手	-	3(135)	1(25)	-	28(412)	2(56)	34(628)
	-	1(32)	2(56)	-	16(202)	1(50)	20(340)
	-	+2(+103)	-1(-31)	-	+12(+210)	+1(+6)	+14(+288)
潟上	-	8(232)	1(17)	1(25)	4(44)	3(199)	30(517)
	-	1(15)	3(52)	1(20)	3(26)	3(39)	11(152)
	-	+7(+217)	-2(-27)	0(+5)	+1(18)	0(+160)	+19(+365)
仙北	-	10(157)	-	4(57)	-	1(81)	13(295)
	-	9(125)	-	1(20)	-	1(64)	11(209)
	-	+1(+32)	-	-3(-37)	-	0(+17)	+2(+86)
大仙	-	2(100)	-	-	-	1(46)	3(146)
	-	2(51)	-	-	-	1(43)	3(94)
	-	0(+49)	-	-	-	0(+3)	0(+52)
にかほ	-	3(27)	-	-	-	1(17)	4(44)
	-	3(38)	-	-	-	中止	3(38)
	-	0(-11)	-	-	-	+17	+1(+6)
能代	-	2(38)	1(8)	-	-	5(114)	7(160)
	-	2(38)	-	-	-	4(127)	6(165)
	-	0(0)	+1(+8)	-	-	+1(+13)	+1(-5)

※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市内研究発表会等

○市主催の研修として、地域の様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、前年度の評価や反省を生かし、各市で実態やニーズ等に応じた様々な研修会を企画している。

○幼小合同の研修会を市主催研修として各市で実施できるよう、県でも支援をしながら開催した。

○地域で学び合う研修会となるよう、市内で公開保育または、指導主事訪問、園内研修等に参加し合う体制を整えている市が増えてきている。合わせて、小学校からの参加者も増えつつある。

○アドバイザーのネットワークを生かし、男性保育士の研修会を一緒に行うなど広域での研修会が実現している。

(3) 県と市町村の連携による園の重層的支援

①目的

県と市町村の連携体制を活用し、園の課題解決等に向けた情報提供をするとともに、園訪問で県指導主事等と市町村教育・保育アドバイザーが園の支援方針を共有し、同一の方向性で支援する。

②方法

- ・ 外部専門家や関係課・所との連携による情報提供
- ・ 指導主事等と市アドバイザーとの情報共有による支援の方向性の統一、園への継続的な支援
- ・ 未配置市町村の園の要請に応じた支援

③実施内容

- ・ 県指導主事による園訪問への同行
- ・ 市町村研修支援、園支援訪問

【園支援訪問】

北地区

	訪問園	訪問日	種類	日程	対象	内 容
	米内沢保育園	5/23	要請	午後	保育者	保育研究大会の発表リハーサル
2	花輪にこにこ保育園	6/8	要請	午後	園長、副園長、研究担当者	研究の進め方等 (R 6 年度保育研究大会関連)
3	藤里保育園	6/16	要請	午後	園長、保育者	園内研究について (R 6 年度保育研究大会関連)
4	花輪さくら保育園	9/5	要請	一日	管理職等、保育者	保育参観(指定クラス)、協議、管理職等との懇談
5	峰浜ポンポコ子ども園	10/5	計画	午後	管理職、研究担当者	研究の進捗状況、まとめ方 (R 6 年度保育研究大会関連) 系列園園長及び保育者が同席
6	鷹巣中央保育園	10/18	要請	一日	管理職、クラス担任等	保育参観(指定クラス)、協議
7	鵜川保育園	1/17	要請	未定	未定	園内研究の進め方について (R 7 年度保育研究大会関連)

中央地区

	訪問園	訪問日	種類	日程	対象	内 容
1	岩谷保育園	6/5	要請	午後	法人 園長・主任	要請訪問について (由利保育士会 亀田・ゆり・下川大内・鳥海)
2	本荘幼稚園	6/8	認こ	一日	保育教諭等	保育参観 研究について (10 月下旬東北大会)
3	井川こどもセンター	7/25	計画	午後	副園長、 クラス担任、 研究担当者	研究の進め方について
4	八郎潟たいようこども園	10/18	要請	一日	管理職・担任 職員	未満児にふさわしい生活と遊びについて
5	風の子保育園	10/25	要請	午後	管理職、研究 担当等	研究の進め方やまとめについて 保育研究大会に向けて

南地区

	訪問園	訪問日	種類	日程	対象	内 容
1	千畑なかよし園	9/20	計画	午後	保育教諭	研修計画や研修の進め方について
2	六郷わくわく園	12/6	計画	午後	保育教諭	要録の記入の仕方について
3	仙南すこやか園	12/15	計画	午後	保育教諭	研修計画や研修の進め方について
4	双葉幼稚園	4/27	認こ	午後	保育教諭	園内研修のあり方について
5	双葉幼稚園	7/6	認こ	午前	幼・保・小	幼保小連携について
6	みたけこども園	6/23	認こ	午後	幼・保・小	幼保小連携について
7	いわさきこども園	1/19	認こ	午後	保育教諭	指導要録の書き方について
8	なるせ保育園	5/19	要請	午後	保育士	研修の進め方、未満児の週案について

市町村研修支援訪問

	市町村名	訪問日	日程	対 象	内 容
1	八郎潟町	11/15	午後	副園長、 主任、ク ラス担任	指導計画の書き方について
2	東成瀬村	5/31	午後	保育補助	保育所・保育補助の役割、共有したいこと等

2 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進

(1) 幼児教育スタートプラン推進のための会議

①目的

幼保小の接続期の教育・保育の質的向上に向け、「幼保小架け橋プログラム」の在り方等について協議し、以後の幼児教育スタートプラン推進体制の充実強化に資する。

②期日・場所

5月30日 秋田県庁第二庁舎

1月31日 秋田県庁議会棟

③実施内容

第1回

説明

- ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について
- ・令和5年「わか杉っ子！幼児教育スタートプラン推進事業」概要について
- ・幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレット「もうすぐ1年生」について
- ・質疑応答

協議テーマ

「学びや生活の基盤をつくる乳幼児教育と小学校教育と接続について」

協議1 幼保小の連携の一層の推進に向けた市町村支援「架け橋プログラム推進訪問について

視点

①幼保小の一層の推進に向けて、その現状から市町村における組織体制の構築を目指した今年度の取組の方向性

②架け橋プログラム推進訪問」の訪問の進め方や提示資料の在り方

協議2 幼保小の協働による架け橋期の教育の充実について

視点

①就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図るために、関係者が共通認識のもとに取り組んでいくためには、どのような取組が効果的か。

②幼保小の協働による架け橋のカリキュラム作成に向けて、県としてどのように推進を図ればよいか。

第2回

説明

- ・わか杉っ子！育ちと学び支援事業「わか杉っ子！幼児教育スタートプラン推進事業」について

協議1 架け橋プログラムの理解促進と取組実践に向けた県の支援について

視点

①「架け橋プログラム」の理解促進と取組実践に向けた研修会の開催について

・架け橋プログラム理解促進・取組実践研修会（Ⅰ・Ⅱ）（仮称）

②幼保小連携に向けた基盤づくりやカリキュラムの開発・実施に向けた訪問について

協議2 「架け橋期のカリキュラム」（秋田県版）の開発について

視点

①「架け橋期のカリキュラム作成の取組概要（秋田県版）」（案）

②「架け橋期のカリキュラム（秋田県版）」（案）

（2）幼児教育スタートプランの市町村、各施設、保護者等への理解啓発

①目的

「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期の教育の重要性について理解啓発を図る。

②方法・スケジュール

- ・県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレット配付



- ・市町村における幼児教育スタートプラン推進に係るアンケート調査・分析（5月～8月）
- ・県小学校担当部局との連携

（3）「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（県内3地区）

①目的

地域における就学前及び小学校等の教育における円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の教職員間の相互理解を深めるとともに、教職員の資質の向上を図る。

②期日・場所

- 北 地 区 令和5年7月25日（火） 北秋田市交流センター（北秋田市）
園関係者24名、小学校関係者30名、行政関係者18名 計72名
- 中央地区 令和5年7月31日（月） 岩城会館（由利本荘市）
園関係者25名、小学校関係者17名、行政関係者2名 計44名
- 南 地 区 令和5年7月27日（木） 中央ふれあい館（美郷町）
園関係者21名、小学校関係者14名、行政関係者10名 計45名

③対象（中核市及び事業実施市以外の市町村、実施市は市の課題・テーマに応じ単独開催）

市教育・保育アドバイザー配置市以外の自治体の公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の職員、小学校職員、行政関係者

④内容

接続期の子どもの育ちの共有による双方の教育の理解、小学校教育との円滑な接続に向けた具体的な取組や連携体制について 等

⑤令和6年度に向けて

- ・県主催と事業実施市主催の合同研修会をそれぞれ実施することで、各地区の連携の実態に応じた課題やテーマをもとにした計画で進められ、幼保小の相互理解を含めた研修の充実が図られた。次年度以降も県・実施市ともに、各地区の連携状況の実態把握を行い継続していく。引き続き、行政関係者にも参加を呼び掛けていく。
- ・国の幼児教育スタートプランを踏まえ、県としての方向性を示しながら、「幼保小の架け橋プログラム」について全県域に理解啓発を図る。

（参考）本県の幼小連携・接続の実践状況

「令和5年度及び令和4年度秋田県における就学前教育・保育に関するアンケート調査結果」

No.	質問項目	令和5年度	令和4年度	全年比
1	子ども同士の交流	80%	60%	+20%
2	保育者・教員間の情報交換	93%	87%	+6%
3	接続を意識したカリキュラムの編成	92%	91%	+1%
4	保育者による小学校の授業参観	82%	50%	+32%
5	保育者による小学校の授業参加	24%	22%	+2%
6	小学校教員による保育参観	55%	52%	+3%

7	小学校教員による保育参加	19%	15%	+4%
---	--------------	-----	-----	-----

- (4) 県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレットの配付
配付対象：入学予定児、市町村（福祉部局・教育委員会）、就学前施設、小学校等

3 教職員の専門性の向上

(1) 保育士等が習得すべき資質・能力のガイドライン（改訂版）の活用

①目的

保育士等がキャリアステージに応じて習得すべき資質・能力のガイドラインを活用し、県内就学前・教育保育施設等や県及び市町村就学前教育・保育行政が共通の方向性をもって教職員の人材育成を図ることができるようにする。

②方法

- ・「教職キャリア指標(保育者)」「自己到達目標評価表」の活用
- ・年次別研修会で活用（新規採用者、実践力習得、5年経験者、中堅教諭等）

③実施内容

- ・新規採用者研修、5年経験者研修、中研教諭等資質向上研修において、キャリア指標とともに、「自己到達目標評価表」の活用について説明を行っている。各キャリアステージで求められる資質能力の目安の理解、受講者自身に必要な資質能力の理解と、資質能力の向上を図る見通しをもてるようにしている。

④令和6年度に向けて

- ・各種研修会での活用及び周知
- ・園訪問等の際に、具体的な人材育成の指標として活用を促す

(2) 保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

ア. 中核リーダーの育成による園内研修の活性化への支援

イ. 「園内研修リーダー養成講座」の開催(基礎編・応用編)

①目的

公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等における園内研修のより一層の充実を図るため、園内研修を推進する保育者に対し、組織的・計画的・継続的な研修を目指した研修リーダーの役割に関する研修を行い、その資質の向上を図る。

②期日・場所

基礎編 令和5年6月30日（金）秋田県生涯学習センター（秋田市）

応用編 令和5年10月13日（金）秋田県生涯学習センター（秋田市）

③参加者

80名 県内公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の研修リーダー（次世代の研修リーダーを含む）、市町村教育・保育アドバイザー

④講師

秋田大学教育文化学部 講師 保坂和貴 氏

⑤内容

「園内研修計画の作成と研修の進め方」、「目的に応じた研修手法」、「ファシリテーターに求められる力」、「園内研修リーダー像、その役割」、「組織的・計画的・継続的な園内研修にするための工夫」、「反省的实践家としての保育者」等

他園に学ぶ研修課題の実施（他園の研修に参加もしくは自園での研修実践）

⑥令和6年度に向けて

園内研修リーダーとして研修を推進する役割を理解し、本研修での学びや成果を日常の現場での実践にどう生かしていくかが重要になる。講義から学んだ理論を、演習を通して深め、自園に持ち帰ってさらに実践していく往還型の研修を目指す。より園内研修に組織的・計画的・継続的に取り組めるように、内容を今年度までの応用編に絞り充実させていきたい。

(3) 「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

- ・子どもに「育みたい資質・能力」は何かを考え深め合う機会の提供
(各種園訪問、研修会等における機会提供)

県（幼児教育センター）の取組

4 教育・保育推進体制の拡充

(1) 幼児教育センター機能の拡充（未配置市町村支援）

- ・県内各市町村との連携と事業内容についての理解啓発
- ・市町村担当者会議（オンライン開催）による情報提供

(2) 「就学前教育推進協議会」の開催

①目的

県全体の教育・保育の質の向上を図るため、「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実施市の取組や「幼児教育スタートプラン」に基づく施策の実施状況を基に、地域に適した幼児教育推進体制の在り方や本県ならではの学びや生活の基盤を支える乳幼児期の教育・保育の内容等について協議し、各市町村における幼児教育推進体制の充実・強化に向けた取組を推進する。

②期日・場所

令和5年11月21日(火) 秋田県生涯学習センター(秋田市)

③内 容

【説明】

- ・事業概要
- ・同事業による取組実践の中間報告(県及び8市)

【協議】（グループ協議・パネルディスカッション）

参集範囲

- ・就学全教育推進協議会委員
(県内大学関係者、県内教育・保育団体関係者、就学前教育・保育施設関係者、県内小学校関係者、市町村教育・保育アドバイザー)
- ・県内市町村行政関係者
(県内市町村教育・保育行政関係者、県小学校担当課、県教育庁関係者)

協議題

「地域における幼児教育推進体制の充実・強化について」

① 協議1（グループ協議）

- ・視点1：小学校教育との円滑な接続を見据えて、各市町村が組織的・継続的・計画的に幼児教育推進体制を構築し、取組を進めていくには、行政関係部署の連携等はどうあるべきか
- ・視点2：架け橋期のカリキュラムを開発するためには、幼保小の協働はどうあるべきか
- ・視点3：子どもの育ちの中心に幼保小の関係者が対話を通して相互理解・実践を深めていくためには、市町村の支援はどうあるべきか

【A グループ】

- ・本グループは1校1園の市町村がほとんどであり、幼保小連携は教育委員会が所管している。
- ・幼保小の交流活動はずっと行われている。幼小中の職員合同で研修会を行っている市町村もあった。
- ・カリキュラムは作られていないところがほとんどである。しかしながら、架け橋プログラムの重要性には関心が高くなっている。重要性の周知に向けて動いていきたい。

【B グループ】

- ・部局間連携はうまくいっているのだが、幼保と小をつなぐ関わり方に課題を感じている。

- ・担当部局間の熱量の違いを感じる。幼、小でも熱量の差が課題である。アドバイザー配置があればコーディネートをしてもらっているが、いないところでは 何から始めればいいのかという意見もあった。
- ・カリキュラム作成に向けて具体的にどうしていけばいいのか。
- ・実施市では語り合う機会を設定してもらっていることで、垣根が低くなってカリキュラム作成につながっている。

【C グループ】

- ・各市町で幼保小お互いに子どもたちの様子を見合う会を行っている。
- ・新しく事業を起こすというよりは、今行っている事業について評価し、今後につなげていきたい。また、単独の事業をつなげてコーディネートしていければ よいのではないかな。それぞれが納得して進めていけるように、部局間、幼保小間で対話を通してつながってきたい。
- ・市町によっては担当者が一人ということもあり、そこも課題である。

【D グループ】

- ・0を1にする、動き出すきっかけは何だったのかという話をした。まずは担当者・子どもたちの名簿を交換するところから1つ1つ、といった具体的なお話も出た。部局間で連携することでお互いのことを初めて分かることがあった。アドバイザーは部局間、幼保小の横のつながりをつなぐ役目をしていけるとよい。
- ・部局間で相互に情報共有することが大切。一緒に事業を企画運営することもよい。大館市は事業を両輪で実施することが普通である。「のりしろの連携」

【E グループ】

- ・3つの共通点があった。1つ目は「一緒」。とにかく一緒にやってみようというスタンスが大切。気になる子どもについても。
- ・2つ目は「対話」。対話を進めていくことが大切。対話を進めることでお互いの取組や大切にしていることについて次第に分かり合うことができる。
- ・3つ目は「共通の視点」。何を視点に話合いをしていくか。同じ視点で話合いをする、同じ視点で子どもを見るということが大切。

② 協議2（パネルディスカッション）

座長：秋田大学教育文化学部 教授 山名 裕子 氏

- ・協議1を受けて

有識者

- ・連携しなければならないのは小学校も就学前施設も部局も同じだが、それを目的にしてしまうと本当の意味の学びの連続性から離れる。条件が先ではなく、どういう子どもを育てたいかという話合いをすることが大事。
- ・リーフレットが出ているが、子育て支援を推進していく立場として、親育ち支援チームを築くことも大事ではないか。
- ・目的が「連携を図る」になってしまいがちだが、どんな子どもがその地域にいて、どのように育てるかの視点が忘れられがちになる。「子どものため」「こういう子どもにしたい」というような先生方の気持ちを引き出すのが行政の役目と考える。

就学前施設職員

- ・大館市の体制は大変整っていて、子どもたちのために幼保小の連携を迷うことなく実践することができている。モデル地区として取り組んできたことを、よいモデルとして広めてもらってはどうか。
- ・幼保小の接続については、就学前が小学校に近付くという形だけでよいのだろうか。このままだと小学校の前準備をするというイメージにつながるのではないかな。

- ・架け橋を架けるのは現場の職員である。子どもたちの困っていることやどんなことを育てたいと思っているのかについて、職員で共有し伸ばしてあげようと思うことで、次につながる架け橋となるのではないかな。
- ・アドバイザーがいることや研修の場があることが当たり前となっている。また、その研修を生かして、職員の語り合いが普段から行われている。
- ・自園の子どもたちをどのように育てたいかは、各市町村の子ども育てにもつながる。これからカリキュラム作成につなげていくためには、まずは園長と校長がつながった上で、教育委員会や幼児教育アドバイザーの力を借りたいと思っている。
- ・保育者が小学校の先生方に、遊びが学びにつながっているという過程を丁寧に説明できるようにすることが大事だと考えている。
- ・協議では、幼保の先生方が頑張ってくれると小学校は助かるといった発言があった。我々は子どもたちのためにやっているのであって、小学校の先生のためにやっているのではない。どうやったら義務教育にスムーズに入っていけるようになるかを考えて日々生きている。
- ・行政からの支援については、長またはそれに準ずる方が、現場でどんな連携が行われているかという現状をきちんと把握してほしいと思う。

行政担当者

- ・大館市は膝を突き合わせて、共通する課題は何かについて話し合った。その課題が幼保小で合致した時に自分事となった。
- ・現段階の課題は、年長児の体験不足である。小学校の先生にも真剣に考えてほしい。このようなことを話し合うことでも、その学区の目指すべき子どもの姿が見えてくるのではないかな。
- ・教育・保育アドバイザーにより研修等が行われているが、連携自体が目的ではないという考え方に共感した。子どもを中心としてということが一番の目的である。行政が枠組みにとられすぎていることを考え直したい。

義務教育関係者

- ・協議では、やはり小学校への敷居が高いと思われていることが窺えたが、本校が属する地区では相互参観や協議への参加など、子どもの育ちについての語り合いが実践されている。また、協議の中で「共通の視点」をもつということの重要性を痛感した。共通の視点をもって子どもの育ちを見取り、子どもたちが安心して入学できるように体制を整えていきたい。
- ・始まりとしては相互参観を基に協議をすることが大事ではないかな。そういうことが行われてきた市町村は、その次のカリキュラム作成という段階になるのではないかな。
- ・高校生でここまで育っていなければいけないとすると中学生ではここまで、小学生では、幼保では...ということを知ってもらふ必要があると感じている。同様に、資質・能力の3つの柱が0歳から18歳まで一貫して育成されることについて、幼保小の関係者だけでなく、中高の先生やその他関係者に広く知ってもらふための何かを考えなくてはならない、と思った。

(3) 事業内容の発信

ア. 「わか杉っ子元気に！ ネット」への取組状況の掲載

- ・県及び事業実施市における取組状況の掲載
- ・県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレットの掲載

イ. 教育・保育アドバイザー未配置自治体の訪問

① 目的

県と市町村の連携による教育・保育の推進体制の拡充の必要性についての理解促進を図る。

② 方法

教育・保育アドバイザー配置市の取組状況及び成果等の掲載、就学前教育推進協議会での協議内容等の掲載

③実施内容

ア. 幼保推進課ホームページ「わか杉っ子元気に！ネット」の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」に前年度の県及び実施市の各事業内容や取組を掲載。次年度以降更に効果的に更新していく。

【掲載及び更新内容】

- ・事業計画書（県及び実施市）
- ・事業実施状況（県及び実施市）

※その他必要と思われる内容を随時更新

【URL】<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/77497>



イ. 市町村教育委員会と福祉部局担当者の両者に参加していただき、事業実施市の取組実践の中間報告を行った。地域における幼児教育推進体制の充実・強化についてのグループ協議とパネルディスカッションを行った。

④令和6年度に向けて

令和6年度以降の幼児教育スタートプラン及び身近なアドバイザー配置の必要性について、具体的な訪問や情報発信に努めていく。

(参考)市町村アドバイザー配置年度

年度	県北地域・実施市	中央地域・実施市	県南地域・実施市
令和元年(5市)	大館市	男鹿市 潟上市	横手市 仙北市
令和2年(6市)	大館市	男鹿市 潟上市	横手市 仙北市 大仙市
令和3年(7市)	大館市	男鹿市 潟上市 にかほ市	横手市 仙北市 大仙市
令和4年(8市)	大館市 能代市	男鹿市 潟上市 にかほ市	横手市 仙北市 大仙市

5 成果と課題（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 市町村教育・保育推進体制の支援

①市教育・保育アドバイザーの育成及びネットワークの充実・強化

ア)「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

○本協議会は、県教育・保育アドバイザーのコーディネートにより、保育者への具体的な指導・助言、園内研修への支援方法等を考える機会となっている。他市の取組状況の共有や共通する課題について情報交換するなど、ネットワークの構築に寄与している。

○他市の取組のよさを自市の実践に取り入れるなど、アドバイザー同士のネットワークの積極的な活用により、アドバイザーの意識の向上が多く見られた。

○市アドバイザーがそれぞれ感じている課題やニーズを共有し、協議する時間を設定することにより、他市の取組を細かく聞くことができ、市アドバイザーの意識と意欲の向上につながっている。引き続き、それぞれの市の課題解決となる話合いの時間を設定していく。

◇アドバイザーの増加や入れ替わりに伴う、就任前の経歴や経験年数の違いに配慮し、本協議会の内容の計画を立てる。度末のアンケート結果をもとに、各市アドバイザーのニーズや要望を取り入れながら検討する。

◇アドバイザー育成の重要な協議会である。令和6年度もアドバイザー未配置市町村の就学前教育・保育施設に関わる担当者も協議会に参加いただくなど、一層のネットワークの構築を図っていく。

イ) 市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援

○市主催の研修会においては、市が主体的に企画・運営できるように、市の課題やニーズに即した要請に県から指導者を派遣する形で支援することができた。また、市アドバイザーによる園訪問に県アドバイザーが同行する形で、アドバイザー支援を行った。

●実施市が増えたことにより、県アドバイザーの対応が難しくなっている。各市の実態を把握するために、全実施市を訪問する機会を設けていく。

◇令和6年度も指導主事等との同行を促し、園を重層的に支援していく。

◇年間に1回程度は様々な機会に全実施市町村を訪問できるようにするとともに、県南、県北のサテライトセンターと各市の取組内容や状況を共有する。

ウ) 県主催所管研修会へ参加

○県所管研修への参加は、市アドバイザーの専門性向上を図る機会、市主催研修の企画・運営方法を学ぶ機会となっている。また、自市の保育者が所管研修においてどのような研修を積んできたかを把握する上でも有効である。

○保育経験のないアドバイザーもあり、保育の見方・考え方、計画の立て方、記録の仕方、様々な研修手法のスキル等、園訪問時に指導・助言に役立てることができた。

エ) 「他市のアドバイザーに学ぶ研修会」の開催

○他市の園の保育や保育者とアドバイザーとのやりとり、園内研修等をアドバイザーたちが参観することで、園や保育者との関わり方や園内研修への参画の仕方について学ぶ機会となり、他市の取組のよさを取り入れていくことにつながっている。

○事前に各アドバイザーより、課題を挙げていただくことで、参観後のアドバイザー研修会での協議のテーマが絞られ、限られた時間の中で有意義な話し合いができた。

○全員で保育を参観し保育についての協議を行うことは、保育の見方、子どもにとっての「遊び」について共有できた。

②市町村主催研修会の支援

○市主体で企画・運営を行うことで、市の課題やニーズ、様々なキャリアに応じた研修の充実、キャリアアップ対象の研修の機会の提供など市独自の様座な取組が展開されている。

県は研修講師や助言者として市からの要請を受け支援するスタイルが定着してきている。

○アドバイザーを中心とした市の主体性を発揮した取組が充実してきている。園種や校種を越えた相互参観等の研修の場の充実、架け橋カリキュラムの作成など各市の工夫が見られた。

●事業実施市で主催研修の内容や機会が充実していく一方、未配置市町村への県からの支援に偏りがある。

◇次年度は、県の支援策としてアドバイザー未配置市町村の主催研修への支援を拡充するなど、近隣地域を巻き込んでの市町村と連携した一体的な研修支援の実施を目指す。

③県と市町村の連携による園の重層的支援

○県指導主事等の園訪問に市アドバイザーが同行する他、市内全園を巡回訪問するなど、園や保育者のよさ、課題等を共有し、同一の方向性で継続的な支援を心掛けている。

○市は、組織的・計画的な研修の推進やファシリテーションに関する指導を県指導主事等に依頼し、その指導の視点を基に市アドバイザーが園内研修支援を継続支援し、保育改善等につなげている。

○市アドバイザーが私立、認可外施設へ様々な角度からアプローチすることで、教育・保育の充実に向けた訪問への工夫につながっている。

●アドバイザー未配置市町村の園支援を増やしたが、アドバイザー配置市との支援格差が出

ている。

◇次年度も、計画訪問・認定こども園訪問・要請訪問の他、複数回の園支援が可能となるよう県の園支援策を実施し格差解消を図るとともに、保育改善や質の向上につなげる。

(2) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進

①幼児教育スタートプランの市町村、各施設、保護者等への理解啓発

- 園のニーズに応じて各園の保育者の専門性の向上、研修機会の充実につなげることができた。
- 要請訪問、園支援訪問実施後、更に学びを深めたいということから市町村研修支援訪問の活用を促し、担当課主催の研修としたことで、保育の質の向上についての担当課の理解につながった。
- 研究発表大会に向けた園支援において、実際の保育や実践を把握できないまま作成資料についての助言を求める園があったため実際の保育実践と合わせて支援できるようにしていく。
- 市町村が企画・運営する既存の研修がないことから、支援要請がないと推察する。
- ◇架け橋プログラムに係る市町村訪問を実施するが、他に支援要請があった場合は、市町村のニーズに応じて対応していく。

②「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（県内3地区）

- 研修を通して、受講者が子どもの育ちや学びの相互理解が円滑な接続につながっていくことを実感し、形骸化している取組を見直そうとする意識を高めることができた。
- 遊びを通して得られた育ちや学びが、小学校の生活や学習にどのようにつながっていくのかについて協議する中で、実際の子どもの姿を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに話し合うことの重要性を理解してもらうことができた。
- 行政関係者の参加があったことは、行政としての体制づくりの必要性を感じてもらうことにつながった。
- 「架け橋プログラム」の推進に向け、市町村担当者との連携を強化する必要がある。本研修会への参加についても引き続き呼び掛けていく。
- 地区ごとに幼小連携の実態が異なる。各地区それぞれの課題に応じた協議等を工夫し、その後の連携につなげていく必要がある。
- ◇研修会での成果を、その後に活かせるように市町村に働きかけていく。

③県版幼児教育スタートプランリーフレットの作成及び配付

- 就学時健診のもち方、説明の可否等について各教育委員会に事前に確認し、説明時間が確保できない場合にも、可能な限りリーフレット活用についての周知を依頼した。
- 就学時健診の際に、各市町村教育委員会のお力添えをいただき、可能な限りリーフレットの内容について保護者の皆様に説明していただいた。
- HPでリーフレット掲載QRコードからリーフレットの説明動画をダイレクトに視聴できるように令和4年度版から改訂した。
- 幼児教育スタートプラン理解啓発、育ちや学びの連続性や幼保小の協働による円滑な接続の重要性の理解を図る上で、子どもに関わる様々な立場の方々へリーフレットを活用した周知は有効であるとの評価をいただいている。
- 「教育あきた」（秋田県教育委員会 3月発行）でリーフレットについて掲載し、理解推進を図っていく。
- 小学校での活用を促進しているが、教頭、教務主任の元でとどまり活用されていない現状がある。義務教育課との連名での依頼文があることで、現場の意識改革が図られるのではないかな。
- 各市町村、小学校や就学前教育・保育施設におけるリーフレットの活用状況等を把握したり、多くの方々に理解促進するための策を講じたりする必要がある。
- 幼保小連携会議や架け橋プログラム作成における対話を通じた話合いの際に、活用していただくことで、共通の視点で育ちと学びの連続性について理解が深まるのではないかな。活用促進を図っていく。

(3) 教職員の専門性の向上

①保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

- 園内研修リーダー養成講座は、基礎編、応用編ともに集合型での開催となった。Ⅰ期の講義・演習で学んだことを自園での実践に活かして、レポートにまとめる往還型の研修を行うことができた。
- 演習・ワークショップを通して様々な研修方法に触れるとともに、園内研修リーダーを担う同じ立場の保育者と協議しながら園内研修の進め方を学ぶことができた。
- 他園に学ぶ研修を実施した受講者もいたが、園の事情により他園との行き来が難しい園もあった。レポートの目的に合わせて、実施できるようにしていきたい。
- 園内研修の話し合いの進め方等、基礎的なスキルを求める受講者が多かった。
- ◇組織的・計画的・継続的な園内研修が実現できるように、より自園の課題、研究と合わせて研修を進められるように内容の改善を図っていく。

③「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

- 各種訪問や研修会等において、乳幼児における見方・考え方を生かし、生活や遊びを通した総合的な指導により、子どもが自ら環境に関わり、発達に必要な体験を積み重ねる教育・保育の充実の重要性について理解促進を図ってきた。
- 育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育の計画作成、実施、評価、改善のサイクルの構築に向けた取り組みの支援について、機を捉えて行ってきた。
- 学びに向かう力とは、小学校教育の先取りをするのではなく、総合的な指導を通して、創造的思考や主体的な生活態度の充実など、乳幼児期にふさわしい展開をする中で育まれていくことの理解はできているが実践が結び付いていない園も見られる。
- ◇各種研修においてキャリアステージに応じて秋田県幼稚園・保育所・認知こども園等「自己到達目標評価表」（令和6年度版）を活用し、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や秋田の探究型保育を視点とした学びに向かう力の理解を図る。

(4) 教育・保育推進体制の拡充

①幼児教育センター機能の拡充（未配置市町村支援）

- アドバイザー未配置市町村の教育委員会及び福祉部局担当者を訪問し、県の構想の説明の他、市町村の就学前教育・保育推進体制の実態や質の維持・向上のための取組等、今後の見通しなど伺った。幼保小連携やアドバイザー配置に係る意見等を踏まえた、実態の把握や県への要望確認など、有意義な機会をもつことができた。
- 必要性を感じているが、人材、財政面で課題を感じている市があった。
- ◇令和6年度は、訪問や市町村支援の機会に全市町村の教育委員会及び福祉部局との関係性を構築しつつ、幼児教育推進体制の充実、活用強化のための理解啓発を図る。
- ◇市町村における幼児教育推進体制の構築に向けた市町村支援訪問を実施する。

②「就学前教育推進協議会の開催」

- 義務教育課・教育事務所指導主事に委員として参加していただいたことで、幼保の取組を理解していただく有益な機会になった。
- 義務教育に関わる方々の参集の割合が高くなったことは大きな前進であると捉えることができる。
- 事業実施各市からの報告内容は、アドバイザー未配置市町村にとっても大変参考になる発表だった。
- 市町村の実情に応じたグループでの協議を通して、幼児教育推進体制の構築のよさや部局間連携のよさについて理解が深まった。
- 福祉部局と教育委員会両部局からの出席が望ましい。
- ◇協議題、協議の視点、協議の在り方については、本協議会の目的が達成されるように検討し、自治体、委員、事務局を構成メンバーとしたグループ協議は継続したい。
- ◇各市町村の実態把握を明確にし、地域の実情や取組状況に応じたグルーピングでの協議を実施する。

実施市の具体的な取組（大館市）

1 教育・保育の現状と課題

- （１）教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。
- （２）多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。
- （３）小学校との情報共有と合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

2 令和５年度の目的、重点、実施内容

【目的】

ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。

【重点】

幼保小の架け橋期の保育・教育の改善を図る。幼保小の架け橋期のカリキュラム（市共通版）の見直しと各小学校区における架け橋期のカリキュラム完成。各小学校区の各園と各校の交流や職員間の共通理解を図る。

【実施内容】

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導

- ・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進
- ・各園の要望に応じた訪問、研修への支援
- ・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言（月１回）
- ・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言（月１回）
- ・小学校授業研究会への参加

② 共同開催事業の実施

- ・昨年度から就学前から中学校までの「個別の教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取組を開始した。
- ・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」（９～３月）～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。
- ・満５歳すてっぷ相談（年間１２回）～就学を見通し集団への不適応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子育て講話「安心して小学校入学を迎えるために」を教育委員会が担当。
- ・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の育ちと学びのつながり、子育てへの理解を図っている。

○「育ちの教室ぐんぐん」、「満５歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加者が増えており、幼保小の育ちや学びについ

ての関心が高まっている。

③ 研修会の実施

＜市主催研修会＞

- ・ 4歳児担任研修会（5/26, 6/16, 7/7, 7/28, 8/25, 9/22）
- ・ 幼保小連携推進会議（5/17）
- ・ 幼保小担任研修会（6/1）
- ・ 年齢別研修会（6回）
0歳児（7/31） 1歳児（8/30） 2歳児（10/3）
3歳児（9/7） 4歳児（9/27） 5歳児（7/21）
- ・ ファシリテーター研修会Ⅰ（7/14）
- ・ 大館市教職員夏季研修会（8/2）
- ・ 実技研修会（8/29）
- ・ 5歳児担任研修会（11/16）
- ・ ファシリテーター研修会Ⅱ（12/7）
- ・ 教職員研究実践発表会（1/9）
- ・ 子どもの虐待防止研修会（1/24 実施予定）

＊成果と課題については、

（３）「専門性の向上のための研修の充実」①市主催研修会の開催
の項目において記述。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

- ・ 私立の認定こども園への協力要請

◇令和５年度アドバイザーによる巡回訪問・指導の実施状況（大館市）

派遣実績 計４０施設／全４８施設 ２４７回	
数	・ 幼稚園：私立１園（９回） ・ 保育園：公立９園（６９回）、私立１園（７回） ・ 幼保連携型認定こども園：私立 ８園（５７回） ・ その他の施設：（へき地保育所７園（３５回）児童館０か所、小規模保育施設２か所（１８回）、 認可外保育施設０か所、事業所内保育施設４か所（３３回）） ・ 小学校：１７校（１９回）
内容	・ 園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、１６園（２５回）） ・ 公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、９園（１８回）） ・ 個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、４園（９回）） ・ 状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、６園（１５回）） ・ 周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、３２園（１４１回）） ・ 県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、１９園（２０回）） ・ 幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、８校（１９回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保小連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員の相互理解のために幼保小との連携を図る。

○子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への継続的な助言により、研究に深まりが見られる。協議方法では、独自の観点を取り入れている施設もあり特色が出てきている。

●訪問による指導・助言を生かして保育の質の向上につなげているところとそうでないところの差があるため、訪問後の状況確認と、園長や研究担当者との支援に取り組みたい。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

① 市主催研修会の開催

- 4歳児担任研修会 (5/26, 6/16, 7/7, 7/28, 8/25, 9/22) 4歳児担任等対象 27名参加
内容「満5歳すてっぷ相談」における保護者への講話と絵本の読み聞かせの参観
講師(講話) 大館市教育研究所 副主幹 山本多鶴子氏
(読み聞かせ) 公立保育園主任

<アンケートより>

- ・保護者と一緒に講話を聴くことで、今後、共通の認識をもって連携していくことができると思いました。
- ・普段から「10の姿」で保育を行っているが、保護者と連携を取る上で、保護者も「10の姿」について知識をもっといただくことが大事であり、今日の講話は、「10の姿」をコップに例えて保護者の方にも分かりやすく伝えていて、ありがたく思いました。

○担任と保護者が一緒に講話を聴く形は、入学を迎える子どもへの関わり、子どもの育ちについての理解など保護者との連携を図る上で有効であった。

◇この形は次年度も続けていきたい。

□ 年齢別研修会

- ・ 5歳児研修会 (7/21) 5歳児担当者対象 20名参加

内容 5歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・5歳児の担任同士、悩みをじっくりと話し合うことができ、保育を進める勇気やヒントをもらうことができました。事前に、話し合いたいことを出し合いそれに目を通すことができたのも、考える時間があって良かったです。
- ・悩んでいたことをグループの先生たちに聞いてもらいたくさんのアイディアをもらうことができ、これからの保育に生かしたいと思いました。
- ・自分も玩具を作り保育に生かしていきたいと思いました。

- ・ 0歳児研修会 (7/31) 0歳児担当者対象 23名参加

内容 0歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・改めて、0歳児の保育で大切なことについて確認することができたし、自分は何を大切にしているか、自分自身の保育の仕方について考えることができました。
- ・グループの話し合いが盛り上がりもう少し時間があってもよいと感じました。また、手作り玩具も作り方や遊び方を詳しく聞いて回る時間がもう少し欲しいと感じました。

- ・ 1歳児研修会 (8/30) 1歳児担当者対象 13名参加

内容 1歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・自分の日々の保育を振り返った時に、子どもに手をかけすぎたり、子どもの気持ちを先取りしたりしていないか考えさせられたので、子どもの「やりたい」という気持ちを汲み取った保育をしていくように心掛けたいです。
- ・子どもの「心揺さぶられる体験」を大切にし、一緒に感動しながら日々の保育をしていく

ようにしたいと思いました。

・3歳児研修会（9/7） 3歳児担当者対象 19名参加

内容 3歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・グループ協議を受けて、子どものケガや安全面にだけ気を取られてしまい、自分で遊びを見付けることや気付くことへの手立てが不足していたと気付くことができました。
- ・歯磨き一つでも園によって違いがあり、話を聞くことで参考になった。情報を共有することで、自分の保育を振り返ったり、他園の考え、悩みを共有したりすることができました。

・4歳児研修会（9/27） 4歳児担当者対象 21名参加

内容 4歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・たくさんの先生方からの意見や各園のおもちゃの工夫やアイディアを得ることができ、自分自身の保育に取り入れられる良い機会になりました。
- ・講話を聞いて、子どもと一緒に遊ぶ中で、目的をもった行動や社会性の育ち、協同的遊びへのつながりなど、次につながる発達を意識しながら保育をしていこうと思いました。

・2歳児研修会（10/3） 2歳児担当者対象 25名参加

内容 2歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・保育経験が長くなり「だいたい2歳児はこんな感じで保育していけばいいだろう」と漠然と保育していたところが、今回の研修で教育・保育の基本を再確認することができ、大変よい機会となりました。
- ・年齢が下の保育者にアドバイスしたことは（これまでそのような機会があまりなかった）、自分自身の振り返りにも繋がってよかったです。

○担当年齢の保育に大切なことを再認識し、自分の保育を振り返るきっかけとなった。

○保育の悩みや迷いを話し合う機会がもてたこと、保育に生かせる・参考になる実践やアドバイスをもらえた等々の声が多く、保育士等同士で聞き合い学び合うよい機会になった。

○担当年齢ごとに実施したことは、他園の取り組みを知り自身の保育に生かすことができ、保育の質の向上に繋がった。

●悩みや困りごとを話し合う時間、他園の手作り玩具の作り方や遊び方を聞く時間がもう少し欲しかったという声が多く、2時間の時間配分に工夫が必要である。

◇次年度も年齢ごとに実施したい。

□ファシリテーター研修会Ⅰ（7/14）

R4 ファシリテーター研修会Ⅱを受講した職員対象 22名参加

内容 ミニ公開保育（城南保育園分園）参観後、SOAPの視点に基づくKJ法の演習

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

<アンケートより>

- ・話しやすい場の雰囲気づくり、参加者の意見を引き出すための傾聴、問いかけ、サポート、

意見をまとめて結論へつなげるためのスキルの必要性を実感しました。また、具体的なゴールを参加者と共有することが大事で、よりよいゴールに導くためには、ファシリテーターの「見通す力」が必要であることや、Oの育ちや学びの読み取りが不足している時は問いかけや切り返しをして導いていくこと、Aは資質・能力、研究の視点、ねらいのどれでグループニングするのかを考えておくことで、願いや今後必要な経験が出しやすいこと等を学びました。

- ・ファシリテーターは研究を進めるリーダーであるが、「自分だけが」と気負わず、時には指名して先生達の思いを引き出したり質問を返したりして、研究を深めるようにするのが大切であると感じました。また、今回の研修で学んだことを他の先生たちにも伝え、自分だけがファシリテートするのではなく、園全体で研究に取り組めるようにしていきたいと思いました。

○前年度に研修会Ⅱで基本を学び、その後自園で実践を積んできている参加者なので、協議の進め方、記録の仕方、話し合う態度等に質の高さを感じた。各園の特色も出て、参加者からも自園の参考になったという声が多かった。

○ミニ公開保育と合わせて研修会を実施したことは、全年齢の保育と環境も見ることができ、協議もしやすかったと好評だった。また、会場が一つだったことも好評だった。

□実技研修会 (8/29)

新規採用者から5年経験した保育士、保育教諭、保育補助者対象 18名参加

内容 絵本・手遊び・ふれあい遊びの紹介（演習・情報交換）

講師 大館市公立保育園 主任保育士

＜アンケートより＞

- ・明日からすぐに取り入れられるような実践的な内容だったのでとても勉強になりました。また、主任の先生方から、様々なアドバイス・助言をいただけて学ぶことができました。
- ・手遊びは同じ年齢だけでなく、他の年齢（他のグループ）のも知れたら、次年度や合同保育の時に役に立つと思いました。

○昨年度も好評であり引き続き開催した。学んだことを自分なりに保育に取り入れていこうとする感想が多かった。

◇運動や外遊びの研修を要望する感想、他の年齢の内容も知りたいという感想等が複数あり、次年度の参考にしたい。

□5歳児担任研修会(11/16) 主任・年長児担当対象 44名参加

内容 保育要録の記入について

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

＜アンケートより＞

- ・日々の保育や職員同士、保護者との関係でもリフレーミングを活用していきたい。子どもはもちろん、相手のよいところに注目して理解できるように努めていきたい。
- ・要録は、スムーズに就学につなげるためだけではなく、保育者の子どもへの関わりや環境の構成などの指導の過程を振り返り、適切であったかどうかを評価し、よりよい指導を生み出す手がかりを求めることなのだと再確認しました。

◇市として要録について全体で研修するのは今年度で終わりとするが、次年度からは各園で研修理解を深めてほしいと各施設に伝えている。

□ファシリテーター研修会Ⅱ(12/7) 園内研究をリードする中堅職員対象 20名参加

内容 研究協議の実践

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

<アンケートより>

- ・他の園の先生がたとえ演習することにより、自園と異なる進め方を知ることができ、とても参考になった。取り入れていきたいと思った。
- ・願い（A）を育ち（O）や視点から導き出していくところが難しいと感じた。繰り返し経験を積まないと身に付かないと思うので、自園の先生方に協力してもらい経験を積んでいきたい。
- ・ファシリテーターとして進めていく上での進め方や話し方の流れの説明がもう少しあれば、戸惑った時に幾分分かりやすかったのかなと思いました。

○グループのメンバー全員がファシリテーターとして協議を進める演習方法は、自分とは異なる進め方や記録の仕方を学ぶことができて良かったという声が多数あった。

○この研修会を通して協議の重要性や普段の保育の中での語り合いの必要性に気付いたという声も多数あった。

△演習中に分からなくなったり迷ったりすることがあったので困ったという参加者もいたので、研修の内容や演習の流れについて、指導主事と検討していきたい。

◇ファシリテーター研修会は、コロナ感染症の影響で、ここ2年は基礎編と応用編が年度越し開催になっていたが、次年度からは年度内に基礎編・応用編を終えるようにしたい。

□子どもの虐待防止研修会(1/24)実施予定 園長・主任・保育士等対象（36名参加予定）

内容「子どものSOSが聞こえますか」

講師 大館市子ども課児童相談係 社会福祉士 松田さとみ氏

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立・指定管理園・乳児保育園10園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に生かせるようにした。

□釈迦内保育園（7/4） 小学校校長・教頭・1年担任、就学前教育・保育職員、計28名参加

<アンケートより>

- ・各学年に水場があり、各学年が自分たちの遊び場に台車で玩具を運ぶことができるなど、一人一人が十分に遊びこめる環境が整えられていました。
- ・年齢を経て用具の使い方が上手になっていく様子が遊びを見ていて楽しかったです。年齢各々が常識的な使い方だけでなく自分なりの発想や予想で用途を広げていく様子が素敵でした。
- ・遊びがどこのコーナーも自然発生していた。そのような環境の工夫や仕向け過ぎない保育士等の関わりがとても勉強になりました。

□城南保育園分園（7/14） 保護者会代表、就学前教育・保育職員 27名参加

<アンケートより>

- ・多くの種類の草花を植え自由に使える環境がつくられていると感心しました。自分たちで遊びに使っているうちに、どろどろになる草、においのする葉などの気付きにつながっていくと思いました。
- ・各年齢に合わせた環境づくりがよかったです。未満児はコーナーに分かれていて、自分のやりたいことをじっくりできるように配慮されていました。以上児も、子どもたちの声から、釣りごっこやお化け屋敷と子どもの製作がたくさんあり、楽しい、温かい雰囲気を感じました。

□城南保育園（8/4） 小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 25名参加

<アンケートより>

- ・子どものやりたいことが実現できるように玩具や泡・花などの自然の素材が十分に用意され、思

いっきり遊ぶことができる環境だったので、どのクラスもやりたい遊びをじっくりと満足するまで楽しんでいました。

- ・先生たちが子どもの思いを一つ一つ丁寧に受け止め応えることで、遊びが次々と発展して楽しい遊びになっていたと思います。

□西館保育園(9/26) 就学前教育・保育職員 18名参加

<アンケートより>

- ・クラスの枠がなく自由に自然に異年齢の交流が行われ、それを通して年下の友達へのやさしさが育っていると感じる場面がたくさんありました。
- ・5歳児の遊びの中では、イメージを形にできるように子どもと話し合いながら遊びを進める様子があり、「どうやってつくる?」「どうしたい?」の言葉は大切だと感じました。

□扇田保育園(9/29) 小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 21名参加

<アンケートより>

- ・2つ3つとあるごっこ遊びが混じり合っても遊びが続けられる保育士等の橋渡し。そのことから、子どもたちも「〇〇していいよ。」と認め合う、譲り合う場面が見られました。保育士の関わり大切さを再認識しました。
- ・室内で遊ぶことの多い材料(ヒモ、毛糸、ストロー等々)を外でも使う発想に驚きました。

□たしろ保育園(10/11) 小学校職員、就学前教育・保育職員 20名参加

<アンケートより>

- ・広々とした空間で、一度に製作、野球ごっこ等のたくさんの遊びができることがとてもよい環境だと思いました。室内で遊びたい子どもも、戸外での様子を見ながら一緒に空間で遊んでいるのを感じられる環境作りが素晴らしいと思いました。
- ・恵まれた自然がいっぱいな環境で、子どもたちがのびのびと遊び、保育士等も子どもたちの遊びたい思いを汲み取りながら関わっている様子が素敵でした。

□東館保育園(10/19) 就学前教育・保育職員 18名参加

<アンケートより>

- ・文字や数字が遊びの中で自然に使われ、その良さに気付いて活用している姿が素晴らしい。
- ・移動販売をして、いろいろなクラスの子と関りをもって遊んでいる姿が良かった。4、5歳児のアイデアが2、3歳児にも伝わり、園の文化になっていくとよいと思います。
- ・4、5歳児のクラスは、遊びの過程や作り方の掲示もあって、子どもたちが遊びの途中で見て遊びを進めていて、とてもいい工夫だと思いました。

□有浦保育園(10/26) 小学校職員、就学前教育・保育職員、町内会長、
県幼保推進課指導主事・アドバイザー等 29名参加

<アンケートより>

- ・キャンプごっこのテントや寝袋など大人もわくわくできる環境で参考になりました。テーマの通り「わくわくするための環境の構成・・・」ですね。
- ・未満児クラスには手作り玩具がたくさんあり、温かさを感じる中で年齢に応じた遊びを楽しめるようになっていて、参考にさせていただきたいと思いました。
- ・縄跳びのとんだ回数を書けるようになっていて、自分なりに目標をもったりうれしい悔しい気持ちを感じたりしながら、何度も挑戦する年長さんの姿、素晴らしかったです。

□大館乳児保育園(10/31) 就学前教育・保育職員 16名参加

<アンケートより>

- ・0歳児1歳児ではなく月齢に合ったクラス分け方で、遊びが一人一人ののびのびとできていると思いました。

- ・絵本コーナーとままごとコーナーを離れているので、ままごとコーナーでにぎやかに調理を、絵本コーナーでゆっくりと本を読むことができると思いました。コーナー分けがとてもうまいと思いました。
- ・ピーマンやパプリカ、柿、マリーゴールド等自然物にあふれていて、採る数も制限せずふんだんに使えていて良いと思いました。

□十二所保育園（12/7） 就学前教育・保育職員、県幼保推進課指導主事・アドバイザー等
26名参加

<アンケートより>

- ・「次どうする?」「これは!!」「よし、あとこれでできるじゃん!」「あと切るだけで完成!」など、年長の子どもの発した言葉から、作る・作ってできあがっていく過程を存分に楽しんでいると感じました。また、作ると決めたものを作るスピード感にも驚きました。このような活動を繰り返し経験してきたことからくる自信なのかなあと思いました。
- ・時に遊びに入り、時に見守り、子ども主体の保育を支えながら一緒に楽しんでいる先生の姿がよかった。また、先生方は「今日はどんな遊びになるのかな?」という楽しむ気持ちで関わったり準備したりしているのが伝わり、素敵だと思いました。



ミニ公開保育の様子

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。また、公開園も参加者の感想が保育改善の参考になったり、励みになったりした。

◇今年度は10園（昨年までは9園）がミニ公開保育を実施したが、今後、認定こども園にも拡充していきたい。

◇ミニ公開保育への参加者は保育の参観だけであるが、今後は参観後の協議にも参加できるように検討したい。

③ 基幹保育園（5園）主催の研修会：オーダーメイド研修会

- ・公立園長会で研修内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにしている。

実施園	実施日	内 容	講 師	参加者
大館感恩講	6/28	「保育の質の向上」 （講話及び演習）	西館保育園 園長 佐藤和博 氏	22 名
	11/22	「不適切な保育に陥らないために」		22 名
有浦保育園	8/23	「心が楽になりたい ですか」 （折れない心の育て 方）	ファミリーネットワ ーク代表 緑の牧場 牧師 村岡 昇 氏	25 名
たしろ保育園	9/14	「もしものための救	大館消防署田代分署	

		急講座」	富樫 氏・長内 氏	27 名
城南保育園分園	10/25	大館市の防災 「災害図上訓練 IDF」	大館市危機管理課	24 名
城南保育園	9/ 4	「心軽やかに 笑顔 の花を咲かせよう」	心を育むここはぐ 代表 伊藤孝子 氏	29 名
扇田保育園	2/15	キッズ食育講座	大館市健康課 長谷部 朋子 氏	23 名

4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

① 就学前教育と小学校との円滑な接続のための支援

□小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育者体験

たくさんの小学校で園の先生方による1年生の授業参観が実施されている。1学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。保育園では、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。また、夏休みを利用して、小学校教諭が保育者体験をする研修や、小学校が保育士等と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした研究協議も増えている。



今年度は、架け橋充実期のカリキュラム作成に向けて、園と小学校の職員が子どもの姿や育ちについて話し合う機会が増えている。

就学前教育・保育施設と小学校職員との研究協議の様子

○架け橋カリキュラム作成合同会議では、学区の共通課題や目指す子どもの姿が明らかになり、じっくり語り合うことで、先生方が気楽に語り合える関係づくりにもつながった。

◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の研修は必須であり、参観によって同じ子どもの姿から、成果と課題を協議する必要がある。

□幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

- ・大館市の全就学前教育・保育施設（31施設）のほか、全小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザーに配布。
- ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修や交流の実施状況、感想等を掲載している。
- ・保育と教育双方の理解を深めるための特集として交流の実践例、合同協議の内容・様子などを掲載している。
- ・架け橋期のカリキュラム作成に向けての各学区の動きや取組を紹介している。

○園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加、幼保小連携便りの情報提供等により、相互理解が深まってきている。交流の内容が見直され、気軽に継続してできる交流、互惠性のある交流が増えてきている。

○架け橋充実期のカリキュラム作成に関する情報提供、取組の手順、進捗状況等をこまめに知らせることによって、先生方の共通理解の手助けとなり不安や疑問などの解消に繋がっている。

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

□幼保小連携推進会議（5/17） 園長・主任、教頭等対象 47名参加

内容 「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取り組み状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子氏
「架け橋期のカリキュラム作成の年間予定・交流計画」についての協議
(学区ごと)

○どの学区も熱心な協議が行われ、連携の充実を目指す意気込みが感じられた。

○交流計画をさらに充実させる学校区が増えている。

□幼保小担任合同研修会 (6/1) 年長児・小1担任等対象 41名参加

内容 「これからの幼児教育と小学校教育の在り方について」

講師 國學院大學 教授 田村 学氏

「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取組状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子氏

<アンケートより>

- ・子どもの主体的にやってみようという気持ちがよりよい学びにつながることに、保育者の指導力、見取り力が大切になることが分かりました。普段の保育での活動や遊びをイメージし、子どもの学びにつながる遊びが何かを見直したいです。
- ・教科書にあるからとか、1年生は毎年これをやるからとか、いつも教師主導であることを反省しました。意欲や心が動く活動であるように脳が活性化するのなら、我々は責任をもって体験活動の在り方や価値を見直す必要があると思いました。

○オンライン受講も設定することで、担任だけではなく、小学校長の参加が増え、連携やカリキュラム作成への理解につながった。

○他市町村、他県からの参加があり、本市の取組を発表する機会になった。

□大館市教職員夏季研修会 (8/2) 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「保護者に寄り添った支援～信頼を築くポイント」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝氏

参加者 122名

<アンケートより>

- ・保護者の面談について、「保護者の視点」から、そのあり方を考え直す機会を与えてもらいました。どちらかというと学校の困りごとを一方向的に伝え、それをどうするかという面談が多く、保護者の気持ちを置き去りにしていたことに気付かされました。
- ・たくさんのご経験をもとにしたお話が、本当に勉強になりました。すぐに実践に生かせる講演内容には、共感と納得しかありませんでした。しかも、演習しながら実感を伴って学ぶことができました。今日の学びを保護者面談で必ず生かします！

「幼児期～小学校低学年の言葉に発達について」

NPO 法人 LD/Dislexia センター 理事長 宇野 彰氏

参加者 132名

<アンケートより>

- ・就学前の読み書き習得では、練習より、能力ということが納得できました。全く触れずに小学校へ入学するよりも、環境として目に触れる、関心を寄せる程度で刺激していき、触れる経験はしてもよいように感じました。
- ・個人によって違うことは通常学級でも感じています。一斉指導が難しい子どもたちの実態を知って、的確な合理的配慮ができる余裕があればと思います。特学を担当すると個別に対応できることが多いが、通常学級はととても大変だと思います。

○就学前施設職員と小学校教諭が「文字」や「言葉」について同じ講話を聞くことで同じ認識をもつことができた。グループ協議によって、校種が違っても保護者支援では同様の悩み

をもっていることが分かり、共感し合えた。

- 読み書き障害に限定した内容だけではなく、年長から1年生にかけての「読み」「書き」への関心の高まりや習得についての内容だったが、就学前施設職員の参加が例年より少なかった。

◇研修内容については、受講者のニーズ（アンケート）をもとに、来年度の内容、講師を選定し、より多くの参加を促したい。

□大館市教職員研究実践発表会（1/9） 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「生涯の学びを支える「幼保小の架け橋プログラム」

～その成果と手応え（中間報告から）～

大館市教育委員会教育研究所 副主幹 山本 多鶴子氏
架け橋コーディネーター
大丸 ふさ子氏

参加者 64 名

<アンケートより>

- ・現在、架け橋プログラムの作成をしていて、来年度からの実施に不安を感じていましたが、モデル地区の子どもたちの姿を見て、子どもたちと話し合いながら様々な経験を楽しめるようにしていきたいという思いが強くなりました。
- ・就学前の経験のため込み時期に経験不足が補えるよう、全ての児童に多様な経験ができるよう各保育園・子ども園・小学校が連携をとり、架け橋カリキュラムを作成し、保育の月案・週案等に盛り込んでいくことができるようしっかりと生かしていきたい。

「わくわく やりたい 心動くぼくたちの遊び」

～友達との関わりの中で やりたいことに

向かっていく心の育ちを支える保育を目指して～

大館市沼館保育所 主任保育士 奈良 佳名子氏
前2・3歳児担任 藤嶋 美希氏

参加者 39 名

<アンケートより>

- ・子どもの姿からその行動の価値や成長を細やかに見取っていて驚いた。また、そこから次の保育のねらいを考えていて、常に子どもを中心にしていることが分かった。1年生担任として、保育園までに子どもたちがどんな力を付けているのか改めて確認したいと思った。
- ・カンファレンスの中で、効果的だった援助と今後の課題を具体的にすることで、継続していくこと、改善していくことが分かりやすくなり、先を見通した保育につながっていくように感じた。混合クラスだから見える子どもの育ちや変容にも注目していて、今後、異年齢児の関わりの深まりになっていくように思う。

「メディアコントロールは 子どものミライ（未来）コントロール」

大館市立有浦小学校 養護教諭 山本 幸子氏
大館市立有浦保育園 主任保育士 北林 富士子氏
大館カトリックこども園 主幹保育教諭 柴田 綾子氏
年長児担任 齊藤 優菜氏

参加者 62 名

<アンケートより>

- ・中学校で勤務していますが、中学校でもメディアコントロールは非常に問題となっており、今回の講話の中で幼保の現状を知ることができてよかったと思いました。幼保小で培ってきたルールや取組を生かし、中学校でも段階的に継続して指導していかなければならないと改めて実感しました。

・幼児期からのメディアコントロールの必要性をととても感じた。幼保小の連携がなせる取組でした。小学校から始めたのでは遅いので、是非参考にして実践化していきたい。

○各発表を通して幼保小連携の必要性や有効性が多方向から示された。幼保小関係者のみならず、中学校教諭や養護教諭、大学生の参加もあり、広く成果を発信することができた。

△1年生担任はじめ小学校教諭の参加が少なく、さらに関心を高めたい。担任は毎年替わることから、幼保小の連携の内容は毎年続けていく必要がある。

◇モデル地区では実践を通して、学びの深まり、子どもの変容をはじめ様々な成果が得られていることから、それを教育関係者のみならず地域や家庭にも発信する機会を設けたい。

(5) 「県との連携体制の充実」

□県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

- ・園長等運営管理協議会（4/26, 8/25）・就学前・小学校等地区別合同研修会（5/17, 6/1）
- ・園内研究リーダー養成講座ⅠⅡ（6/30, 10/1）・教頭・主任等研修会（5/24, 11/2）
- ・教育・保育AD連絡協議会（4/24, 6/23, 8/24, 10/24, 1/23）
- ・県就学前教育推進協議会（11/21）・県アドバイザーによる支援訪問（10/26, 11/7）

○アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に生かすことができた。

□秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

- ・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(19 施設)
- ・北教育事務所指導主事等との打合会の開催（年2回）

〈具体的な連携〉

- ・北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
- ・市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
- ・同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。

○県による教育・保育アドバイザー等の研修会参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり園訪問での助言に生かすことができた。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

○これまでも職員間・子ども同士の交流は行われていたが、「幼保小架け橋プログラム事業」のカリキュラム作成をきっかけに、就学前教育・保育施設と小学校の職員と一緒に研究協議や話し合いをもつ機会が多くなり、互いの教育・保育の理解や子ども理解を共有化することができてきた。つながりがより深まった。また、教育研究所・子ども課からの発信だけではなく、幼保小の先生方からの問い合わせや勉強会の要請等も増えている。

○新たに2つの認定こども園を訪問し、保育参観と協議に参加することができた。大館市主催の研修会にも初めて参加した認定こども園もあった。「幼保小架け橋プログラム事業」のカリキュラム作成を大館市全体で取り組んでいることがきっかけとなったと思われる。これから続けていくことで、大館市の教育・保育の一貫性に繋がっていくのではないかと考えている。

●研修会への職員参加が各園の負担にならないように研修会内容を精査していく。

実施市の具体的な取組（男鹿市）

1 教育・保育の現状と課題

(1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。

- (2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

- ・教育・保育アドバイザーが市内就学前施設の巡回訪問をし保育内容や保育者の支援、園内研修や園内研修担当者への助言等を行い質の高い保育の向上を図る。また、保育補助やミドルリーダー等のキャリアに応じた研修会を開催し、専門性の向上を図る。
- ・担当課や教育・保育アドバイザーが市教育委員会や市指導主事との連携を積極的に行い、男鹿市就学前・小学校合同研修会を開催し、幼保小が互いに接続期の重要性を学び、幼保小の円滑な接続の強化に努める。また、保育参観や授業参観等を通して、幼保小の職員が共に学び合う体制づくりを構築する。

【重点】

- ・キャリア別研修や園訪問を通して保育の改善と質の向上を図る。
- ・小学校との円滑な接続が充実するよう、市教育委員会との連携を図る。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・市民福祉部子育て支援課子育て支援班に教育・保育アドバイザーを配置
- ・市教育委員会との連携の実施
- ・市教育委員会指導主事との連携強化

4月：幼保小の連携の方向性について

6月：教育委員会、市指導主事、子育て支援課が「男鹿市就学前・小学校合同研修会」の詳細について確認

7月：「男鹿市就学前施設・小学校合同研修会」開催

10月：市指導主事同行の園訪問

～1月：各小学校職員が保育参観及び協議参加

- ・「特別支援会議」に市指導主事、市健康推進課の臨床心理士と保健師、教育・保育アドバイザー、その他専門機関の職員が参加し、それぞれの協力体制のもと幼児理解につなげる。

○担当課と教育委員会との連携を密にしたことにより、小学校の就学前施設の受け入れ体制がスムーズになってきている。また、特別支援会議では様々な専門機関と協力し合いながら進めていることが幼児理解と保育の質の向上や入学後のスムーズな生活につながっている。

- 部局間の連携が充実するために、互いの年間計画の中に具体的な内容を入れていく必要がある。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設を月1回は訪問し、保育参観や保育者支援、園内研修や園内研修担当者の支援を行う。
- ・公開保育や要請訪問、こども園訪問や認定こども園サポート事業等における日程や保育内容、園内研修等の事前相談や打合せを行ない、当日や当日以降の職員や園を支援する。
- ・園運営の相談等に対する支援等を行う。
- ・専門機関職員による特別支援会議参加や指導主所要請訪問の同行を通して、教育・保育アドバイザーとしての知識や技術等を学びスキルアップにつなげる。
- ・4月の園訪問は園運営や本事業に対する方向性について話し合い、3月の園訪問は園運営や本事業に対する1年間の成果と課題、要望等について聞き取りをし、次年度につなげていく。
- ・個人面談の対象者は、主に新規採用者、臨時保育士、保育補助とする。

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（男鹿市）

派遣実績 計15施設／教育保育施設全9施設 小学校6施設 154回	
回数	・幼稚園：私立1園（17回） ・保育園：市立6園（75回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（7回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（53回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（51回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、1園（6回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（96回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（93回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（9回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（54回）） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（11回））
理由	・各園を継続的に園訪問することにより、保育参観や振り返り、園内研修や研修担当者の振り返りを通して、保育者の専門性の向上や保育の質の向上を図る。また、事業所内保育を訪問し、保育や環境等の状況の把握に努める。 ・市内の小学校を訪問し、円滑な接続のための連携理解を進める。

保育参観や保育の振り返りを通して、保育者が自分の保育について考えをまとめて話すことができるようになってきている。また、園内研修では、「自分のための研修」として捉えるようになってきていることが、園全体の保育の質や保育力の向上につながっている。

- 保育内容や保育の振り返りの仕方に個人差がある。また、園内研修では、話し合った結果を実践に活かすことが難しい園もある。

△保育参観後の振り返りでは、「自分の保育を考える」ための時間をもつようにする。また、園内研修では、内容や進め方について一緒に考えていくことができるように、園内研修担当者の振り返りの時間をもつようにする。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①キャリアアップ研修「保育補助研修会」

日 時：令和5年5月10日（水）

9：30～12：00

場 所：男鹿市役所若美庁舎

テーマ：「保育補助としての在り方、
子どもとの関わりについて」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 白畑展子 氏

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目 的：保育の質の向上のために、就学前施設における保育補助として、子ども一人一人の発達や内面の理解や保育に携わるものとしての基本的在り方について学ぶ。

方 法：講義・演習

参加者：13名

参加者の学びや感想

- ・子どもに寄り添うことで安心感、信頼感、達成感などが得られていることや、子どもや保護者と関わる場合は否定的ではなく、肯定的に捉えることが大事であることが分かった。
- ・保育の進む方向性を理解して行動しなければいけないことや、色々な思いを汲み取り



子どもの姿から気持ちを読み取るとは…

ながら関わらなければいけないということが分かった。

- ・保育補助として「笑顔」「安全」「寄り添い」など細やかな気配りを忘れずに子どもたちと接していきたい。

○保育補助が研修を受けることが殆どないため、今回は貴重な学びの時間になった。参加者の態度や感想から向上心をもって参加していたことが分かった。研修会後の園訪問では、学んだことを実践に活かし、子どもへの対応に変化が見られるようになった。

●園全体の質の向上を図るためには、有資格者だけでなく、保育補助も学びの場が必要である。また、普段気になっていることや悩んでいることを知ることができたため、自由に話し合える時間も必要である。

△今後も保育補助が学ぶことができる研修を計画的に実施していく。また、今後の保育補助研修では、緊張感が和らぐためのアイスブレイクや自由に話し合えるフリースタイルタイムを入れるようにする。

②キャリアアップ研修「保育補助研修会」

日 時：令和5年5月22日（月）

13：30～16：00

場 所：男鹿市役所若美総合庁舎

テーマ：「保育補助としての在り方、
子どもとの関わりについて」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 白畑展子 氏

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目 的：保育の質の向上のために、就学前施設における保育補助として、子ども一人一人の発達や内面の理解や保育に携わるものとして基本的在り方について学ぶ。

参加者：7名

参加者の学びや感想

- ・保育の心構えや子どもへの関わり方、このような場合はどうするのか等を知ることができた。また、演習では自分の考え方に片寄ってしまいがちだったが、自分とは違った様々な意見があることや、自分では気付くことがなかったことを知り学ぶことが多かった。
- ・自分の判断で決めるのではなく、近くにいる保育士との連携を密にしていくことが大事であるということが分かった。
- ・今後は様々な視点から物事を捉えていきたい。また、子どもの心に寄り添うことを心掛けていきたい。

○前回の改善策にあがったフリースタイルタイムを入れたことで、話しやすい雰囲気が生まれ、自分の考えや思いを伝えることができていた。保育について学ぶ機会が殆どない保育補助であるが、一生懸命講義や演習に取組み、「保育」を学ぼうとする前向きな気持ちが感じられた。

●園内で保育補助が学ぶ場や時間を持つことの大切さを管理職等に伝えていく必要がある。

△保育補助も週案を見る、職員会議に参加する、クラス会議に参加する、子どもについて語る、保育補助会議を実施する等を管理職に伝えていく。また、今後も計画的に保育補助研修を実施していく。

③キャリアアップ研修「ミドルリーダー研修」

日 時：令和5年10月25日（水）

13：30～16：00

場 所：男鹿市役所若美総合庁舎

テーマ：「ミドルリーダーの役割について」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 高橋亜希子 氏



寄り添うとはどういうことか…



ミドルリーダーの役割とは

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目 的：市内の就学前施設における教育・保育の充実と資質の向上を図るため、園運営の中核的な役割を果たすことが期待されるミドルリーダーとしてその職務を遂行する上で必要とされる役割について学ぶことを目的とする。

参加者：8名

参加者の学びや感想

- ・ミドルリーダーとして、任せることの大切さ、丁寧に伝える、教えることの重要性等、本日学んだことを少しずつ実践していきたい。
- ・園のキーパーソンという言葉が心に響き、大切な存在であることが分かった。
- ・若手の思いを聞く役割があることを知り、現場での困り感に気づくように、寄り添ったり発信したりしていきたい。橋渡し役を意識していきたい。
- ・役割を果たせるように、保育や園経営等の場面で本日の学びを活かしていきたい。本日の「カード」を意識していきたい。
- ・認める、コミュニケーションを図る等を意識して行ない、若手保育士の力になっていきたい。

○ミドルリーダーとしての役割を講義や演習を通して学ぶことができてよかったという話を園訪問で聞いた。また、園内研修等で若手を支えている場面が観られるようになりミドルリーダーとしての自覚が感じられるようになった。

●協議の様子やアンケートから一人一人が悩みながら過ごしていることが分かった。ミドルリーダー研修は今後も計画的に実施する必要がある。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・4月、担当課と教育委員会が令和5年度の幼保小の方向性について確認
- ・4月、市校長会に担当課の職員と教育・保育アドバイザーが出向き、挨拶、幼保小の連携の必要性について伝達
- ・5月、市指導主事と「男鹿市就学前・小学校合同研修会」の詳細内容について協議
- ・7月、市教育委員会と担当課の協力のもと「男鹿市就学前・小学校合同研修会」を開催
- ・第1回5月頃、第2回2月頃、各小学校の幼保小連絡協議会へ参加
- ・1月、担当課と教育委員会が令和6年度の幼保小の方向性と男鹿市就学前・小学校合同研修会の開催日程等を決定
- ・1月、学校行事調整委員会参加。男鹿市就学前・小学校合同研修会の日程再確認と周知
- ・近隣同士の園や小学校の保育参観や協議、授業参観や協議への相互参加

①「男鹿市就学前・小学校合同研修」

日 時：令和5年7月27日（月）

9：30～16：00

場 所：5歳児保育提供園：認定こども園男鹿市立船川保育園

講義・協議：男鹿市民文化会館

テーマ：「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

目 的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育園、認定こども園と小学校の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

参加者：15名

参加者の学びや感想

- ・実際に子どもたちの活動を参観し、その活動を通して話し合ったことで、園での学びと小学校での学びの共通点や相違点について相互理解を深めることができた。子どもと保

育士とのやり取りや子ども同士の関わりでは、小学校でもつながる共通するものがあると感じた。

- ・講師の話を聞いて、保育と教育のつながりを理解することができたり、遊ぶ子どもたちの姿にどのような意味があるのかに気付いたりすることができた。
- ・入学までに育まれてきた力をゼロにならないように、幼保小での情報交換を大事にしていきたい。また、幼保小のつながりについて自校の職員に伝達し共通理解を図っていきたい。
- ・話し合った内容は、入学してきた子どもたちの育ちを理解し、指導に活かすことができる。また、保護者の思いや家庭環境を理解することで、保護者や子どもに安心感をもたせることができると思った。



同じ目的に向かって、友達と協力しながら



自分の気持ちに折り合いをつけている時間

【男鹿市教育委員会指導主事 佐藤智子 氏より】

※当日、その場でご感想をいただきましたので紹介します。

園の先生方が何をねらい、どのような指導・支援をしているのか、また、年長児の実態（学びの様子）はどのようなものか、小学校の先生方がより具体的に知るためのよい機会になったと思います。参観の視点について事前に丁寧に示していたこともとても良かったです。

協議会では、子どもたちの活動の中にある「10の姿」を先生方がしっかりと見取り、価値付けていました。こうして振り返り、価値付けることの積み重ねが、よりよい支援につながると思います。小学校の先生方も参加していることにより、「～は、小学校での〇〇の学習につながっている」という視点でも話し合われていました。「10の姿」や「園と学校の円滑な接続」について、先生方がより強く意識するための場になっていたと思います。

アプローチプログラムやスタートカリキュラムはあるものの、紙面だけでは見えないことがたくさんあると思います。相互参観や協議を重ねることにより、園と学校がそれぞれの学びを理解し、歩み寄っていくことができると思います。今日が、その機会となりました。市教委としても、本研修会の成果を各小学校に周知し、先生方の実践につなげられるように努めます。



子どもの育ちをつなげていくためには



相互理解は、話し合うことから（教員発表）

- 保育参観は初めてという教員が殆どであったが、「10の姿」を手がかりに参観し、その後の協議につなげたことで遊びの中で何を学んでいるのか、どのような育ちにつながっていくのか等を共有することができた。
- 当日、教育委員会の出席が参加者に与えた影響は大きかった。合同研修会後の訪問において、積極的に幼保小の連携をしていかなければいけないという前向きな気持ちが伝わってきている。
- 今後は架け橋期をつなげていくために、5歳児の参観だけでなく、小学校での様子等も参観し、「育ちの連続」や「円滑な接続」について共有していく必要がある。
- △円滑な接続の意識づけのために、今後も教育委員会と協力しながら幼保小の連携や合同研修の詳細について話し合う場を持つ。

②各小学校と就学前施設との連携

ア：男鹿市立船川第一小学校

令和5年	5月23日（火）	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日（金）	体験入学・保護者説明会
令和6年	2月28日（水）	幼保小連絡協議会

イ：男鹿市立脇本第一小学校

令和5年	6月2日（金）	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日（金）	体験入学・入学説明会
令和6年	2月 日	幼保小連絡協議会

ウ：男鹿市立船越小学校

令和5年	5月19日（金）	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日（金）	体験入学・入学説明会
令和6年	2月9日（金）	幼保小連絡協議会

エ：男鹿市立北陽小学校

令和5年	6月19日（月）	幼保小連絡協議会
令和5年	10月3日（火）	体験入学
令和6年	2月7日（水）	入学説明会・5歳児と1年生の交流会
令和6年	2月19日（月）	幼保小連絡協議会
令和6年	2月21日（水）	P T A授業参観

オ：男鹿市立払戸小学校

令和5年	4月7日（金）	入学式
令和5年	6月9日（金）	幼保小連絡協議会
令和6年	2月9日（金）	幼保小連絡協議会

カ：男鹿市立美里小学校

令和5年	4月7日（金）	入学式
令和5年	6月2日（金）	幼保小連絡協議会
令和5年	11月10日（金）	体験入学
令和6年	2月27日（火）	保小連絡協議会



引き続き小学校で育てていくために

③相互職場体験（1日保育士体験・1日教諭体験）

ア：男鹿市立船川第一小学校と認定こども園男鹿市立船川保育園

- ・令和5年7月12日（水）1日小学校教諭体験
- ・令和5年8月7日（月）1日保育士体験

イ：男鹿市立船越小学校と男鹿市立船越保育園

- ・令和5年7月12日（水）1日小学校教諭体験（中止）
- ・令和5年8月3日（木）1日保育士体験



5歳児の思いに寄り添う教員

④研修会等をまとめた広報誌の発行

- ・男鹿市幼保小連携通信「ぶらんこ」

○幼保小の職員が話し合いを重ねる毎に、就学前教育と小学校教育の生活の流れや環境、指導方法や考え方等、それぞれの特徴の違いについての相互理解や幼児期の育ちの理解が深まってきている。

●園側は小学校からの受け身体制が強く、垣根の高さを感じる。また、小学校では積極的に幼保小の連携に取り組んでいかなければいけないという気持ちはあるが、なかなか進まない現実がある。また、保育参観や授業参観には参加するが、その後の協議への参加は難しく今後の課題である。

△幼保小の連携について共通理解できるように、月1回、教育・保育アドバイザーと市指導主事が園と小学校の現状について話し合う時間をもつ。また、今後も引き続き園訪問や小学校訪問時、各協議への参加の必要性を伝えていく。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県と連携しながら就学前施設や保育士等の課題解決に向けた継続的指導や支援

・県主催研修会への参加

- 4月26日(水) 園長等運営管理協議会Ⅰ
- 5月24日(水) 教頭主任等研修会Ⅰ
- 6月 7日(水) 就学前教育理解推進研究協議会
- 6月30日(金) 園内研修リーダー養成講座Ⅰ
- 7月 5日(水) 保育実践力習得研修
- 7月14日(金) 幼稚園・保育所・認定こども園中堅教諭等資質向研修Ⅱ
- 8月25日(金) 園長等運営管理協議会Ⅱ
- 9月15日(金) 幼稚園・保育所・認定こども園5年経験者研修Ⅱ
- 10月13日(金) 園内研修リーダー養成講座Ⅱ
- 11月 2日(木) 教頭・主任等研修会Ⅱ

・教育・保育アドバイザー連絡協議会、「市に学ぶ研修」、就学前教育推進協議会等への参加

- 4月24日(月) 第1回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 6月23日(金) 第2回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 8月24日(木) 第3回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 10月24日(火) 第4回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 1月23日(火) 第5回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 6月 1日(木) 「幼保小の架け橋プログラム」講演会：大館市主催
- 7月12日(水) 「市に学ぶ研修」：男鹿市立船越保育園
- 11月 7日(火) 「市に学ぶ研修」：能代市
- 11月21日(火) 令和5年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」就学前教育推進協議会

・県教育・保育アドバイザーによる育成支援のための活用

- 6月14日(水) 県教育・保育アドバイザー同行(男鹿市立脇本保育園)
- 8月22日(火) 県教育・保育アドバイザー同行(男鹿市立若美南保育園)

・指導主事要請訪問や認定こども園サポート事業、その他の園訪問等に同行し、指導や助言の方法の

観察

- 6月15日（木）こども園訪問（認定こども園男鹿市立船川保育園）
- 8月 8日（火）指導主事要請訪問（男鹿市立五里合保育園）
- 8月29日（火）指導主事要請訪問（男鹿市立北浦保育園）
- 9月 6日（水）指導主事要請訪問（男鹿市立脇本保育園）
- 10月 4日（水）指導主事要請訪問（男鹿市立玉ノ池保育園）
- 10月20日（金）指導主事要請訪問（男鹿市立若美南保育園）

- 6月27日（火）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）
- 9月27日（水）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）
- 12月13日（水）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）

○県主催の研修会や指導主事への同行、県教育・保育アドバイザーによる同行等を通しての様々な学びが教育・保育アドバイザーとしてのスキルアップにつながっている。また、学んだことは園訪問において保育者や園内研修担当者に対してアドバイスをしたり、一緒に考えたりしていく際に役立っている。

○県との連携を密にしていくことで、教育・保育アドバイザーの不安や悩みの解消につながっている。

△今後も保育の基本を学ぶために、様々な研修会への参加、指導主事への同行、「市に学ぶ研修」への参加、県教育・保育アドバイザーによる指導助言を受ける等を継続していく。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

- 各就学前施設の訪問は月1回を計画している。都合によりキャンセルになる場合もあるが、その代替日を指定しての依頼があることから、保育の質を高めていこうとする前向きな気持ちが感じられる。その気持ちが職員間で自分たちの保育を意識するようになってきていることにつながっている。
- 幼保小連携通信「ぶらんこ」を今年度から各小学校を訪問し直接手渡し配布をしたことで、学校側から様々な話を聞くことができるようになった。幼保小の連携を意識するようになってきていることが感じられる。
- 新設される認定こども園に向かって、市内の就学前施設が気持ちを一つにして「認定こども園サポート事業」に取り組んでいる。市内の各園の職員が主園の船越保育園に集合し、保育参観や園内研修の協議等に参加していたが、船越保育園の保育を3回観て学ぶ以外にも、共に学び合う体制づくりとしての他園の公開保育は必要である。
- 小学校との円滑な接続については、少しずつ前進してきているものの、各小学校によって温度差が感じられる。架け橋期の充実を目指して幼保小の連携が前に進むために、まずは担当課から教育委員会への働き掛けが必要である。

実施市の具体的な取組（横手市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。
- (2) 幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。
- (3) 小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

本市において継続実施してきた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制の更なる構築を目指す。

【重点】

前年度事業の課題を見直し、地域の実態に合った接続推進、訪問支援への継続実施

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化

◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携

◇健康推進課との連携、5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通しての連携

○5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。また、年長児、年中児について配慮の必要な子どもたちを中心に参観したり、担任と面談したりしながら支援を行っている。また、必要に応じて関係機関につなげている。年中児から園訪問をし、参観聞き取りをするとともに、日常の保育に関して有効と思われる支援・援助の情報を提供している。また、年長児については、就学児健診前に各小学校へ情報を伝えている。

●市民福祉部幼保担当課との情報交換をし、更なる連携を深めたい。

- ・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年2回の協議会開催と各団体との会議・研修会開催）

◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和5年6月15日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（10名中9名）事務局（10名）

○今年度は、事務局に健康推進課から保健師2名にも入ってもらい、より子どもを支えるという視点に基づいて協議を行った。また、国が進めている「幼保小の架け橋プログラム」についても、本協議会を母体として進めていくことを確認した。

●各団体での共通理解をさらに図ってもらえるよう、より働き掛けていく必要がある。

◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和6年2月6日実施

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（10名）事務局（10名）

【内容】今年度の接続推進の成果と課題

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育指導課に教育・保育アドバイザー2名の継続配置
- ・「公開保育研修会（公開保育）」の実施による園同士の更なる学び合いの場づくり
- ・要請訪問に向けてアドバイザーが事前訪問し、園内研修会の持ち方や諸帳簿作成等について支援
- ・要請訪問での保育者との振り返り、研修後の園長・主任等との振り返りを重視し、次につながるものとなるよう具体的に支援
- ・訪問後もアドバイザー独自で、保育や園内研修を継続支援
- ・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（横手市）

派遣実績 計 54 施設／全 54 施設 500 回

回数	・幼稚園：私立 4 園（37 回） ・保育園：公立 3 園（27 回）、私立 22 園（270 回） ・幼保連携型認定こども園：私立 4 園（30 回） ・その他の施設：（へき地保育所 園（ 回）児童館 か所（ 回）、小規模保育施設 か所（ 回）、認可外保育施設 4 か所（24 回）、事業所内保育施設 2 か所（12 回）） ・小学校：14 校（100 回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33 園（65 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、32 園（32 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、7 園（10 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、28 園（30 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、39 園（305 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、7 園（8 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14 校（50 回））	
理由	ほぼ全園で公開保育をすることができ、その実施のための事前訪問を丁寧に行うことに努めた。 また、認可外や事業所内保育施設への保育状況や聞き取り調査を実施することも今年度行うことができ、就園に向けた状況把握もできた。周知活動は、こちらの伝達説明だけではなく、園や小学校の考えを聞き取りながら、アドバイスすることに努めた。	

令和5年度 公開保育研修会実績					
					2023/12/15
No	期 日	会 場 園	他園からの参加（人数）	総計	小学校の参加態勢等
1	6月13日	さんない保育園	白梅保育園（3）	14	山内小学校校長 栄小学校教頭
2	6月21日	大森保育園	川西保育園(3)	14	大森小学校長・研究主任
3	6月22日	吉田保育所	醍醐保育園（1）	9	吉田小学校長
4	6月28日	川西保育園	大森保育園（3） たいゆう保育園（3）	14	大森小学校長・1年担任
5	6月30日	常盤保育園	なし	9	横手北小学校
6	7月4日	ますだ保育園	三重保育所（2）	19	増田小学校長
7	7月13日	横手マリア園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（3）	15	横手南小学校教頭
8	7月19日	醍醐保育園	雄物川保育園（1） 青田保育所（1） 樽見内保育園（1）	12	醍醐小学校教頭
9	8月2日	にしの杜保育園	十文字保育園（3） こひつじ園（2） 三重保育所（1） ますだ保育園（1）	16	十文字小学校教頭
10	8月8日	三重保育所	十文字保育園（1） こひつじ園（1） にしの杜保育園（1） ますだ保育園	13	十文字小学校校長
11	8月10日	旭保育園	たいゆう保育園（2）	12	旭小学校校長
12	8月29日	十文字保育園	三重（2） にしの杜（1） ますだ （1） こひつじ（1） 相愛（2） 和光	6	十文字小学校教頭
13	9月5日	みいりの保育園	なし	15	朝倉小学校長
14	9月6日	たいゆう保育園	大森保育園（3） 川西保育園（3） 雄 物川保育園（1） 旭保育園（3）	20	大雄小学校校長・教諭
15	9月12日	認定こども園こひつじ	にしの杜保育園（1） 十文字保育園（2）	9	十文字小学校教頭
16	9月13日	相愛こども園	市内各園（園長・保育士）（22） 沖籠県（9）	56	各市内小学校教頭・教諭（8）
17	9月20日	雄物川保育園	沼館（1） たいゆう（3） 樽見内（1） 醍醐（1）	15	雄物川小学校教頭
18	9月21日	上宮第二幼稚園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（1） 湯沢市内幼稚園（3）	12	横手南小学校教諭
19	9月22日	上宮第一幼稚園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（1） マリア園（1）	9	横手南小学校教諭
20	9月27日	明照保育園	土屋幼稚園・保育園（2） 上宮第一・第二（3） マリア園（2）	17	横手南小学校教諭
21	9月28日	樽見内保育園	浅舞感恩講（1） 下鍋倉（1） 醍醐（1） 雄物川（1）	10	浅舞小学校研究主任
22	10月5日	アソカ保育園	白梅保育園（1）	14	朝倉小学校教務主任
23	10月14日	和光こども園	金沢（1） 常盤（1） 十文字（1） 相愛（2）	16	横手北小学校研究主任
24	10月18日	土屋幼稚園・保育園	上宮第二（1） 明照（2）	13	横手南小学校教諭
25	11月28日	横手幼稚園	みいりの保育園(2)アソカ保育園(1)	14	朝倉小学校教頭
26	12月1日	下鍋倉保育所	浅舞感恩講(1)樽見内（1）	11	浅舞小学校教頭
27	12月14日	沼館保育園	和光(1)雄物川(1)むつみ(2)	16	雄物川小学校教頭
28	12月15日	浅舞感恩講保育園	下鍋倉保育所(1)樽見内保育園（1）	12	浅舞小学校校長

○事前訪問を通して、市として目指したい研修内容や方法について具体的にアドバイスすることができた。また、担任との振り返りも、午後の協議に向けての課題を見付ける場としても効果的であった。さらに園長・主任等との振り返りにより、自園の職員のよさを価値付けたり、今後への期待を持ってもらったりする機会となっている。

○ほぼ全ての園で公開保育を行っており、小学校を交えて地域で学び合う体制作りが強化された。

●要請訪問を保育者自身が実際の保育の課題を見つめ直す機会にしたり、チームでよりよい保育を考えていこうという研修にしたりすることが次のステップとなる。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和5年5月25日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員）32名

【内容】講義「各園の特色を生かした研修計画（特に週日案）の立案」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 自園の計画内容を紹介しながら意見交換し、見直しに生かそう



研修計画を見合いながら演習

☆参加者の感想

計画を立てる上で、子どもの姿・実態をしっかり捉えることの大切さを改めて感じた。他園の週日案を見せていただく機会は、とても貴重で、それぞれの園の伝統や特徴が表れていた。他園のよさを取り入れたいところも見付かった。

◇第2回横手市保育実践力向上研修会：令和5年9月29日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員

（採用2、3年目の職員）25名

【内容】講義「乳幼児の教育・保育で大切にしたいこと」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 レッツ トーク！



互いの園のよさや悩みをトークし合う

☆参加者の感想

自分の今に当てはまる内容が多く、共感したり、今後意識したりしようと前向きになれた。同年齢の方と話すことで、心が少し楽になったように感じる。気持ちを受けとめられるって大切だなあと改めて感じた。

◇第3回横手市保育実践力向上研修会実施：令和6年1月18日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員 35名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション」

秋田県教育庁南教育事務所

指導主事 石山 潤 氏

☆参加者の感想

園内研修でファシリテーターをするとき、担任と事前に打ち合わせや話し合いをしておくこと、ポイントを確認しておくこと等、準備が大切であることを学んだ。話し合いの内容に応じながらも、最終的にはクラスのねらいに沿った内容に掘り下げることができるよう、事前に質問を考え、出た意見から願い・計画へとつながる話題の引き出し方や広げ方を意識することを大事にしていきたい。ファシリテーターを行うときは、保育計画と保育者の意図を確認し、そこから協議を焦点化すること、意見を引き出しまとめていくことを大切にしたい。

- ・保育協議会、保育士会、横手市教育推進委員会等との協力による研修会実施

◇横手市保育地区セミナー

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員 58名
小学校教諭 10名

【内容】保育研究大会発表園からの発表
テーマに基づいたグループ協議 等

◇幼小連携特別委員会研修会

【会場】浅舞地区交流センター

【参加者】連携委員会委員（小学校教諭） 9名

【内容】講義・協議「幼保小の架け橋プログラム」作成に向けた取り組み状況について

○各施設から参加があり、日々現場で感じていることを同年代の保育者同士で話し合う機会は貴重であると感じた。また、保育も含め物事の感じ方や相手とのコミュニケーションに難しさを感じている実情が分かり、より保育者に寄り添って支えていくことが大切であると感じた。

○研修計画について、なかなか他園のものを目にするということがないということで、とても好評であったし、横のつながりになる研修会となった。

●これが最善ということと言い切れない、それぞれのケースに応じることの多さに、より日常の中で力になることが必要と感じる。来年度のテーマを考えたときに、これまでのものを継続するよさを見直す必要性両面から考えていきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・幼小教職員の合同研修会の継続開催

◇横手市幼小合同研修会：令和5年8月17日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】小学校研究主任等14名
幼児教育施設主任または副主任33名

【内容】講義「幼保小の架け橋プログラム作成に向けて」
横手市教育委員会教育指導課
指導主事 小川由美子
協議 プログラム作成に向けた協議



視点に基づきプログラム作成に向けて協議し合う

☆参加者の感想

目指す子どもの姿の共通点を確認められて、大変有意義だった。必要とする経験を挙げるのが難しかった分、そのような思考の仕方の大切さにも気付くことができた。顔の見える研修、子どもが中心の研修だった。

○「幼保小の架け橋プログラム」についてよく分からないという方も多く、基本的なことについて理解を進めることができたことと、これまで本市が行ってきた幼小接続の取り組みがプログラム作成のベースになることを共通理解できた。

●協議では、小学校区ごとにプログラム作成に必要なことを話合った。目指す子どもの姿についての共通部分については見付けられていたものの、そのために大切にしたい経験や学びのプロセスについては、先生方を悩ませてしまった。より具体的に理解を深めていけるような取り組みが必要だと感じている。

- ・小学校区内での職員体験事業継続実施
◇小学校教職員参加者 35名
幼児教育施設職員 32名 参加

☆体験報告書より

今回の体験を通し、園の先生方は子どもの自主性を重んじ、温かく見守る姿勢を基本としているように感じた。普段の自分は、45分の授業時間の中でめあてを達成させなければいけないという意識にしばられ、考え方のルールを敷いたり行動を急がせたりしている部分が多いような気がした。



小学校教師による保育体験

○今年度は、コロナ禍を過ぎ、どの施設でも体験事業に参加してくれた。継続実施による幼小の職員同士の関係も良好になってきており、その後の交流にもつながっている。

- ・互いの授業参観・保育参観の継続
○各小学校区ごとの公開保育研究会、要請訪問、計画訪問を通して、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議に参加し合うことが多くなってきた。
●小学校への幼児教育施設の先生方の参観、さらに研究協議への参加がより進むよう働き掛けていく必要がある。



保育者による小学校体験

- ・各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援
○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介していくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。
●年度末の連携委員会にも参加し、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら各小学校の温度差の改善に努めていく。
- ・横手市幼小連携だより「よこてのめんこ」の提起発行（月1回）
○アドバイザーが幼児教育施設（40）と小学校（14）を直接訪問し、渡している。その際、日常の保育、教育について話題にしながら園の課題解決につなげる努力を継続している。
○中学校にも配布したり、子育て支援課、健康福祉課へも情報提供し、より多くの市民の目にも触れるよう努めている。

（５）「県との連携体制の充実」

- ・県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加
- ・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化
- ・県要請訪問への同行訪問
- ・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施と参加
◇令和5年9月28日：横手市樽見内保育園（他市アドバイザー等7名の参加）
◇令和5年10月20日：大仙市大曲南保育園
◇令和5年10月26日：大館市有浦保育園
◇令和5年11月7日：能代市淳城幼稚園・ていじょう保育園
- 年度始めに南教育事務所指導主事と訪問について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができた。また、年度途中でも、訪問した際の園の様子について共通理解することができ、訪問する際の見通しをもつ機会となった。

○他市町村の実践を参考にしながら、研修、訪問を進めることができた。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

○地域の公開保育研究会の開催がさらに広がり、幼小の接続、幼児教育施設同士の横のつながりが強まった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が広がっている。

○研修会の内容を基本にして、今年度の園内研修が進められており、各園の訪問でもそこに合わせた指導助言をすることができた。事前のアドバイザーの訪問によるアドバイスが研修の焦点化を図ることにもつながっている。

●コロナ禍を過ぎ、新しい形の連携、交流等が行われてきている。一方で、幼児教育施設での保育参観、協議参加は増えているものの、小学校への幼児教育施設職員の参加が増えていない感じがする。広報紙を活用しながら、小学校への声掛けを広げていきたい。

●研修会や公開保育等の開催回数が増えることと、そこへの参加が負担にならないかを危惧している。一番は、自園の保育のためであるので、持続可能な実施を進めていけるよう心掛けていきたい。

●「幼保小の架け橋プログラム」作成に向けては、カリキュラム完成が目的ではないので、これまで本市が大切にしてきたこと（互いの教育・保育を参観し合い、子どもの学び（資質・能力）を協議し理解し合うこと）を今後も大切にしていきたい。

実施市の具体的取組（潟上市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各園の形態や地域性を生かした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。
- (2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組には差が見られる。
- (3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。

園訪問を通して園内研修の充実と保育の質の向上を図る。

【重点】

架け橋期カリキュラムの作成、園同士の情報交換等の体制構築

園・小学校の職員の合同研修（幼小連携の意識を高める）

【実施内容】

1 幼児教育アドバイザーによる就学前施設への支援

○訪問により各園の実態や課題を把握し、教育保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもち、各園の教育及び保育の質向上を目指す。

・訪問支援

（市に配置されている特別支援教育専門の教育支援アドバイザーも園訪問して、必要な支援等について助言する）

・主体的な園内研究への支援と助言

・体力向上事業（保育士同士の研究ネットワークづくり、基幹園への助言等）

- ・研修リーダーの育成
- ・就学前施設の連絡会の実施（施設間のネットワークづくり）
- ・園主体の就園連携合同研修会の実施、園主体の運営となる仕組み作り

2 専門性向上のための研修の充実

○園訪問等で把握した課題をもとに、市全体の課題に対する研修等を実施する。園の形態の区別を超えて学び合う体制を構築し、保育者の専門性の向上を図る。

- ・特別支援教育についての研修
園経営・保育計画への特別支援教育の視点
担任・加配保育士の悩みを聞き取り、課題解決につながる研修の実施
専門機関との連携（地域の特別支援教育アドバイザー、天王みどり学園、医療・福祉機関）
- ・キャリアステージに応じた研修会の実施（ミドルリーダー、男性保育士、保育補助等の研修）
- ・公開保育研究会（実施園6園）
- ・保育実践研修会（市内全就学前施設対象）

3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実

- ・市幼保小理解推進事業を実施し、小学校への円滑な接続を図る。
- ・相互職場体験の質の向上（全小学校区で実施・幼児教育アドバイザーの同行）
- ・児童・園児の交流（好事例の紹介、交流に向けた事前・事後の連携、検証）
- ・相互理解を深めるための、園の公開保育への小学校教員の保育参観・協議への参加、園職員の小学校の研究授業の参観・協議への参加又は生活科の授業参観の促進
- ・幼保小合同研修会の開催（先進市町村の取組から学ぶ）
- ・幼保小連携便り（月1回発行）

4 接続期カリキュラムの改善

- ・市内の学校区の好事例の紹介
- ・他市町村の取組についての情報収集
- ・園と小学校が行うカリキュラムの修正作業へのアドバイザー参加・助言

5 県との連携体制の強化、他市町村とのネットワークの構築

○他市との情報交換、先進市の視察訪問、県との連携などアドバイザーの育成支援により、本市事業を円滑に進める。

- ・県アドバイザーの訪問指導による市幼児教育アドバイザーの育成支援
- ・県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加
- ・他市アドバイザーに学ぶ研修会

（1）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

①特別な支援を必要とする子どもへの支援の視点からの連携の充実を図る。

- ・教育委員会と子育て応援課で実施されている乳幼児検診、年中児相談（4歳児対象）、専門検査員による園訪問（4・5歳児対象）、わくわく教室（5歳児対象の幼児通級教室）、就学に向けた保護者相談、ことばの検査（小学1年対象）等の事業の目的の再確認と共有、課題の見直し等を行った。
- ・子どもの情報を共有し、切れ目ない支援へつなげる体制づくり。

②研修を担当する教育委員会と、施設管理・職員の勤務等を担当する子育て応援課との連携

- ・園での施設面・保育面の課題や、職員一人一人の思いなどを情報共有しながら、支援していく体制づくりを進める。

○特別支援に関する園と小学校で作成する資料の様式を統一することで、職員の負担軽減を図るとともに、小中学校への引継ぎ資料としても活用できるようになった。

●△職員が変わっても、連携が持続するような仕組み作りが必要である。

（2）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

①園訪問により各園の実態や課題を把握し、保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。

- ・市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問の実施。
- ・園内研修や公開保育への支援。
- ・個別相談の実施。
- ・ケース会議への参加。
- ・就園連携事業の推進。

②公立園の園長会議や就園連携合同研修会等に参加し、教育課程や園内研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かすようにする。

- ・園長会議への参加、情報提供、助言(月1回)
- ・主任会議への参加、情報提供、助言(随時)
- ・就園連携合同研修会 (4月、11月、2月)
- ・小規模保育施設連絡会 (4月、11月)

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（潟上市）

派遣実績 計 14施設／全14施設 105回	
回数	・保育所：公立1園（22回） ・幼保連携型認定こども園：公立4園（127回） ・幼稚園型認定こども園：私立1園（10回） ・その他の施設：小規模保育所2か所（12回）、認可外保育施設5か所（26回）、事業所内保育施設1か所（5回） ・小学校：6校（43回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（75回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（25回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（68回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6園（92回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、14園（71回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校6園（69回））
理由	・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進を図るため。

○保育参観、園内研修ともに、自分の考えや思いを積極的に伝える保育者が増えてきた。意見交換を通して他者から刺激を受けながら保育改善に取り組んでいる。研修前後の管理職との話し合いでは、職員の成長や園の成果・課題を共有することで今後の園運営の方向性を確認してきた。

○保育参観の振り返りでは、子どもが主体的に遊ぶ姿やの学びの過程を写真で可視化しながら話し合うことで、保育者の子ども理解が深まったり、保育への手ごたえが高まったりしている。

●△園内研修では、子ども理解の深化や話し合いの焦点化が課題である。また、園によって話し合いの深まりに差が感じられる。各園の願いを生かしながら、計画訪問や要請訪問時の指導・助言を基に、園内研修の進め方や話し合いの深め方について園と共に考えていきたい。

△昨年度より、園の研修日が他園の訪問や小学校訪問と重なってしまい、参加できないことが増えた。日程調整をしながら、できるだけ参加できるように努めたい。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

①市主催保育実践研修会の開催

ア 保育実践研修会①

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和5年4月13日（金）

参加者：13名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「0・1・2歳児の育ちの理解と保育者の援助」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足13名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

・0・1・2歳のうちに、たくさん気持ちを受け止めてもらうこと、たくさん自己主張すること等、大切な根っこ部分を育てていくことの大切さを改めて学んだ。分かっていたようで、分かっていなかった。

○昨年12月に同内容の研修を実施した際、園長会から再度要望のあった研修である。参加者のアンケートからも、研修内容に対する高い満足度と今後の保育への意欲が感じられた。

○3月に研修予定を各園に知らせ、園児数が一番少ない年度初めに研修会を実施したことにより、小規模保育施設からの参加者が昨年度に比べ格段に増えた。

イ 保育実践研修会②

目的：1・2歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年4月21日（金）

参加者：14名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「1・2歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足14名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

・指導計画を書くにあたり、一人一人の子どもをしっかりと「観る」ことの大切さを実感した。記録は、研修シートのように書くことで、次のねらいにもつなげていけることが分かった。

○乳幼児理解や子どもの見方、チームで多角的に意見を出し合い子ども理解を深めていく重要性を、講義や演習から参加者は学ぶことができた。また、保育記録や指導計画の基本を再確認することもできた。

ウ 保育実践研修会③

目的：3～5歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年4月28日（金）

参加者：7名

場所：かたりあん研修室2・3

内容：講話「3～5歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 白畑 展子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足6名 ② やや満足1名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

・映像を見て子どもの姿の話合いをしたときに、気付かなかった見取りがたくさんあった。自分の考えのみで保育するのではなく、園の職員と盛んに意見交流し、多面的に子どもを見られるようにしていきたい。

・環境構成の中で「状況をつくる」ということは大事だと思った。子どもたちが興味をもって自らやってみようとする雰囲気づくりをしていきたい。

○参加者のほとんどが園のリーダー的存在であった。じっくり意見交換をすることで、より

一層子どもの読み取りや発達の理解を深めることができた。園内研修でも活用したいとの声が多かった。

●△研修リーダーを対象としたために、参加者が限定されてしまった。可能な限り多く参加してもらうために、研修対象者について再考したい。

エ 保育実践研修会④

目的：0歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年5月15日（月）

参加者：12名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「0歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足12名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

・0歳児はすべての年齢の基礎となっていることを、改めて学んだ。一人一人とじっくり関わりながら思いに寄り添って安心して過ごすことができるように、チームで連携していきたいと思う。

○子どものしていることの中の隠れている学びに気づき、客観的に捉えて記録する「育ちの言語化」の重要性について、参加者は学ぶことができた。0歳児だけでなく全学年で意識してほしい内容であり、園での研修報告を通して職員に周知を図るようにした。

○グループによる話し合いは短時間であったものの、それぞれの見取りや考えを共有することができ、参加者からも好評だった。

オ 保育実践研修会⑤

目的：特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援の在り方について理解を深める。

日時：令和5年5月29日（月）

参加者：14名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援」 演習

講師：秋田県立支援学校天王みどり学園 教育専門監 小野 直子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足12名 ②やや満足2名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

・支援の必要な子どもの行動を止めるのではなく、感じている困難さを読み取り、それを取り除けるよう援助したり、その上でその子どものよいところを十分に発揮できる場を作ったりするという考え方に変えていきたい。

○担任や支援児担当、主任が参加した。特別な配慮を必要とする子どもへの基本的な関わり方について学ぶことができた。

○特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方で悩んでいる園も多い。より多くの職員に研修内容を知ってもらうため、講話のDVDを作成して市内全園に配付し、園内研修に活用してもらうようにした。

カ 保育実践研修会⑥

目的：保育補助者として、子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的な態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。

日時：令和5年6月14日（水）

参加者：保育補助職員 25名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「こどもをみるとは」 演習

講師：聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足25名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・子どもの今の気持ちを表情や動きから感じることの大切さや、見守ることの大事さを改めて学ぶことができた。大人から見て、ただの遊びや動きに見えるものでも、子どもにとっては必ず意味のあり、子どもなりに考えていることなのだと気付くことができた。

○子どもに関わる立場として「子どもをみる」とはどのようなことか、演習を交えて分かりやすく講話をしていただいた。保育補助職員の意欲を高める講話・演習であった。

△保育補助職員の研修を大切にしたいと保育補助職員全員が参加した園があった。子どもの育ちを園全体で支える観点からも、研修会の回数や参加しやすい園体制について検討していきたい。

キ 保育実践研修会⑦

目的：園内研修の一層の充実を図るため、研修の進め方や手法に関する専門性を高めるとともに、研修リーダーとしての資質向上を図る。

日時：令和5年7月21日（金）

参加者：17名

場所：潟上市役所2階第1・第2会議室

内容：講話「園内研修の充実とファシリテーターの役割について」 演習



【ファシリテーター研修会】

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石 郁子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足17名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・ねらいに立ち返ることの重要性や、ゴールはどこかを念頭に置くことの大切さが分かった。
- ・参加者の意見をいかに出せるようにするか、ねらいに向かって方向性を定められるかというところが大切だと思った。

○研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだことで、その後の園内研修の改善の参考にする園が多く見られた。

△どの園でも園内研究を行い輪番でファシリテーターをしているが、園内研究の雰囲気や深まりは、個人の力量によるところが大きい。今回は基礎編の研修であったが、今後も基礎編、応用編と同様の研修を継続して実施し、より多くの職員が研修に参加する必要性を感じた。来年度の研修会計画に提案していきたい。

ク 保育実践研修会⑧

目的：先進園視察や自園の課題解決のための研修を通して、保育実践力やマネジメント能力の向上を図る。(男性保育者対象)

研修① 日時：令和5年7月26日（水）

場所：昭和こども園 2階会議室

内容：自園の研修の取組や課題把握、情報交換

研修② 日時：令和5年7月28日（金）

場所：中仙ワイワイランド

みつば保育園

内容：先進園を2班に分かれて視察・実践研修、協議

研修③ 日時：令和5年8月9日（水）

場所：昭和こども園 2階会議室

内容：課題解決のための今後の取組計画作成、情報交換



【男性保育者研修会
大仙市みつば保育園職員との協議】

参加者：4名

＜参加者アンケート結果＞

① 満足4名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

- ・一緒に保育に参加しながら他の男性保育士の保育を見ることができる貴重な機会となり、普段自分が保育している姿を俯瞰的に考える機会となった。
- ・実際に保育に参加して行う研修、その後の協議は初めての経験であったが、子どもの姿を読み取り、保育者の思いを深く知ることができた研修方法だった。

○園に配置されている男性保育者は各1名である。男性保育者同士で話し合う機会がこれまでなかったため、男性保育者の研修会を初めて実施した。研修①③では、保育実践の取組や現状について積極的に意見交換がなされた。

○大仙市アドバイザーや大空大仙男性保育会の協力を得て、他市の男性保育士とともに保育参加をしたり協議したりすることにより、より客観的な目で自身の保育を振り返る機会となった。また、保育改善のヒントやアイデアを得ることができ、保育への意欲を高めることができた。

△研修内容を検討しながら、男性保育者の思いを話し合える場を今後もつくっていききたい。

※保育実践研修会全般の成果と課題について

○年度始めに年齢別研修会を実施した。今年度の保育に生かそうと熱心に研修する姿が見られ、研修内容も概ね好評価を得た。

○研修内容については、園の管理職・保育者の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修を実施することができた。さらに、園内研修や特別支援教育に関する研修には主任の参加を促し、園運営や職員の助言に生かせるようにした。

△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会議での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していききたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア 公開保育研究会

期日：10月27日（金）

会場：追分保育園

参加者：11名 小学校職員1名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明 保育の振り返り）、協議会、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 白畑 展子 氏
幼保指導員 阿部 真理 氏

イ 公開保育

ア) 期日：6月22日（木）

会場：若竹幼児教育センター

参加者：10名

内容：保育参観、協議

イ) 期日：6月30日（金）

会場：追分幼稚園附属追分ベビー園

参加者：5名 小学校職員2名 評議員4名

内容：保育参観

ウ) 期日：7月19日（水）

会場：出戸こども園

参加者：10名 小学校職員1名

内容：保育参観、協議

○協議を深めたり園内研修に生かしたりするために、参観者と公開園職員でテーマに基づいて協議を実施する園が増加した。



【公開保育…小学校職員も協議に参加】

○自身の保育を振り返ったり環境構成の参考にしたりしようとする声が多く、日常の保育改善への意欲が高まっている。

●△昨年度より小学校の職員の保育参観が増えたものの、協議に参加することは少なかった。管理職や1年生担任だけでなく多くの小学校職員が保育参観や協議を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、働き掛けを工夫していきたい。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア 基幹園での実践

ねらい：遊びや経験を通して健康なところと丈夫なからだづくりを目指す。

内容：運動遊びを取り入れ、乳幼児期の心身の発達を促す。

発達段階を考慮した運動・遊びについて講師による講話を実施する。

心や体を十分に動かして遊ぶ取組を家庭に発信し、調和のとれた発達の大切さを知らせていく。

講師：ジュニアスポーツ指導員 本庄ゆかり 氏

研修日程：令和5年6月～令和5年10月まで9回講師による園児への実技指導や職員への講話・実技指導を行う。

対象：0歳児～5歳児、職員

内容：6月26日 講話「乳幼児期の運動遊びの大切さについて」

参加者 16名

7月13日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 12名

講話「苦手意識を吹き飛ばせ」 参加者 9名

7月20日 実技（未満児の運動遊び） 参加者 21名

8月29日 実技（未満児の運動遊び） 参加者 19名

8月31日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 10名

講話「Q&A」 参加者 11名

9月14日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 11名

2月8日 実技（4・5歳児の運動遊び） 参加者 13名（小学校職員4名）

公開保育：期日 10月31日（火）

会場：天王こども園

参加者：10名 小学校職員3名

内容：保育参観、協議

イ 基幹園以外の公立4園での実践

各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

ウ 体力向上担当者会議の実施

ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題について検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が広域的に学び合う体制を構築する。

期日：5月31日、8月7日、10月10日、12月13日、1月22日

○今年度は講師による講話を3回行った。保育者が運動遊びの大切さを改めて理解することができ、実践に生かすことができた。また、未満児、以上児ともに実技を設定したことにより、小規模保育施設を含め市内全園が研修会に参加した。

○2月の研修会には、小・中学校職員にも参加を呼び掛けた。参加は、小学校職員だけだったが、子どもの発達や指導方法をともに学ぶことができた。

○担当者会議では、各園の実践を共有している。実技を通しての研修は、環境設定や遊びの工夫のヒントになるとともに、保育者の気付きも多いとの報告があった。また、一つの学年で行った運動遊びが他学年に波及している園も多かった。



【実技 未満児の運動遊び】

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア 小規模保育施設連絡会の開催 4月18日（火）11月29日（水）

- ・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、幼児教育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。
 - ・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。
- イ 就園連携合同研修会の実施 4月18日(火) 11月29日(水) 2月19日(月)
- ・今年度の潟上市「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」の周知をする。
 - ・小規模保育施設と連携園で、今年度の連携計画作成、進捗状況の確認、成果と課題等について情報共有をする。
- ウ 相互保育参観の実施
- ・連携する園で相互に保育参観をし、保育内容の情報交換や情報共有を図る。
- エ 園児の交流の実施
- ・連携する園で、子どもたちの実態や職員間の話し合いを基に、子どもの交流する場を設定する。
- 就園連携合同研修会では、潟上市内全就学前施設の全園長が参集し、今年度の「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」を確認したり、連携計画を作成したりした。11月には中間評価を、2月には年度末評価と次年度の計画作成を行った。研修会や交流を通し、普段から気軽に相談し合う関係性が構築されてきている。
- 相互保育参観や園児の交流については、各園でアイデアを出し合いながら実践する園が多かった。
- △就園連携合同研修会については、今後も子育て応援課と教育総務課が連携して両課でサポートはするものの、運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進めていきたい。
- △就学前施設間の横の連携強化は、小学校との接続にも好影響をもたらすと考える。継続して取組を後押ししたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」小学校教育との円滑な接続に向けて

①就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

・第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会

期日：7月31日(月)

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 12名

園の園長または主任と5歳児担任等 15名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講師 大館市教育委員会教育研究所副主幹 山本多鶴子 氏

地区ごとのグループ協議「学区の子どもたちを10の視点で」

・第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会

期日：1月10日(水)

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 14名

園の園長または主任と5歳児担任等 14名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について
～子どもの姿から」

講師 聖園学園短期大学准教授 加藤順子 氏

小学校区ごとのカリキュラム作成作業

○就学前教育と小学校教育との円滑な接続について、考え方や具体例を大館市の実践や講師の講話から学ぶことができた。

○学区の子どもたちのよさや課題、期待する姿を共通理解した上で、カリキュラムについて話し合うことにより、具体的な子どもの育ちや学びを意識した単元構成や支援・援助、環境構成



【合同研修会…小学校区ごとのカリキュラム作成の話し合い】

について検討することができた。

②就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア 情報交換会

5月25日 2月21日 東湖小学校・天王こども園
5月29日 2月13日 出戸小学校・出戸こども園
6月8日 3月1日 天王小学校・天王こども園
6月9日 2月21日 大豊小学校・昭和こども園
6月9日 2月27日 追分小学校・追分保育園・追分幼稚園
6月23日 2月26日 3月25日 飯田川小学校・若竹幼児教育センター

イ 相互職場体験

7月29日 追分保育園
7月27日、8月2日 天王こども園
8月8日 昭和こども園
8月22日 若竹幼児教育センター
8月30日 天王小学校
9月4日 大豊小学校
9月8日 追分小学校
9月21日 出戸小学校
10月11日 出戸こども園
10月17日 東湖小学校
11月10日 飯田川小学校



【園職員による職場体験
…生活科】

※小学校の職場体験では、生活科の授業を体験内容に含むこととした。

ウ 相互授業・保育参観

天王小学校区	2名授業参観	3名保育参観・協議参加
出戸小学校区	2名授業参観・協議参加	2名保育参観・1名協議参加
追分小学校区	2名授業参観	1名保育参観・協議参加
大豊小学校区	2名授業参観・協議参観	2名保育参観・1名協議参加

エ 園児・児童の交流

オ その他

- ・5歳児通信と1年生学年通信の交換
- ・5歳児の1年生授業参観、図書室訪問
- ・招待状やお礼状の交換 等

○小学校での職場体験では、生活科の授業の提示をお願いした。保育者は、生活科の授業での子どもの様子から、園での経験や学びが小学校につながっていることを実感することができた。

○相互職場体験の授業参観や保育参観、子どもの交流、事前打ち合わせ等を通して、幼保小の職員同士で話し合う機会が増えた。小学校教育と就学前教育の特徴や相違点、子どもの育ちや学びについて、理解が深まってきている。

●△地区ごとに連携の組織体制は整っているものの、特に、小学校において取組内容や職員の意識に温度差が見られる。公開保育への小学校職員の参加は、働き掛けを必要とする学校区もあった。今後も、授業・保育参観、協議には、アドバイザーもともに参加し補足説明するなど橋渡し役をすることで、少しでも幼保小の敷居を低くしたい。

③架け橋カリキュラム作成推進のために

ア 大館市幼保小担任合同研修会への幼児教育アドバイザー、教育支援アドバイザーの参加
期日：6月1日

内容：「これからの幼児教育と小学校教育の在り方について」

講師 國學院大學 教授 田村 学 氏

「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取組状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子 氏

イ 第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会 7月31日

大館市の実践から学ぶ (4) ①参照

ウ 先進校・園研修会視察 大館市川口小学校、釈迦内小学校 8月21日

市指導主事、幼児教育アドバイザー

エ 架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会 10月24日

小学校、就学前施設の職員6名を架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員として委嘱し、「潟上市版架け橋カリキュラム」の原案や今後の作成手順について話し合った。

オ 校長への説明、園長会議での説明 11月

カ 教頭会・主任会議での説明 11月

キ 潟上市「架け橋カリキュラム作成の手引き」作成、各校・園へ配付

ク 各校・園での話し合い（各校・園のよさ、課題） 11月～12月

ケ 各学区での話し合い（期待する子ども像について）

12月18日 天王小・東湖小学校区

12月18日 飯田川小学校区

12月20日 追分小学校区

12月25日 出戸小学校区

12月25日 大豊小学校区

ケ 第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会 1月10日

（4）①参照

コ 先進校・園視察 大館市立花岡小学校、釈迦内保育園参観 1月31日

架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員2名、市指導主事、幼児教育アドバイザー

サ 各学区での話し合い、架け橋カリキュラムⅠ期完成 1月～3月

○各校・園や各学区で、子どもの実態や期待する子ども像について具体的で活発な話し合いが行われた。

●△話し合いを重ねるに従い、園と小学校で言葉の違いや言葉の捉え方に違いがあることが認識されてきている。相互理解を深めるために、今後も相互参観や話し合いへの働き掛けを一層大事にしていきたい。

△架け橋プログラムのモデル地区である大館市の実践を参考に、本市でも架け橋カリキュラム作成に取り組んできている。学区の話し合いの過程を丁寧に支援していきたい。

△今年度の幼保小連携事業やカリキュラム作成の話し合いを通して、幼保小のつながりや相互理解が深まっている。この空気を次年度に確実に引き継ぎ、継続していくためには、就学前施設の園長や小学校の校長等の理解や役割、職員への周知が重要であることから、管理職研修の充実を図りたい。



【追分小学区での幼保小職員による話し合い】

④特別支援教育の視点からの幼保小連携について

ア 年度初めの小学校訪問・情報交換会

1年生授業参観と情報交換、就学支援事業説明を行った。

参加者：管理職、1年生担任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任
市指導主事、教育支援アドバイザー、
幼児教育アドバイザー

4月19日 飯田川小学校

4月20日 追分小学校

4月25日 大豊小学校

6月1日 東湖小学校

6月2日 出戸小学校

6月8日 天王小学校

イ 市職員研修会や支援員研修会への参加

小・中学校職員が参加する市職員研修会や支援員研修会へ保育従事者も参加した。

ア)市教職員研修会

目的：潟上市学校教育の重点に基づいた研修を通して、各校の児童生徒及び地域等の実態に即した今後の取組や指導の充実に資する。



【年度初めの小学校訪問・情報交換会】

日時：令和5年8月7日（月）

参加者：就学前施設職員6名 小中学校職員138名

場所：羽城中学校

内容：講話・演習「特別な配慮を要する支援及び学校体制づくり」

テーマ別研修

講師：能代市教育委員会 特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏

秋田県総合教育センター支援班 指導主事 島津 憲司 氏

秋田県総合教育センター支援班 指導主事 牧野 幸枝 氏

イ) 支援員研修会

目的：市内就学前施設で支援を担当する保育士・保育補助と小・中学校に配置されている特別支援教育支援員に対して、役割や適切な支援の在り方等に関する研修を行うことにより、特別な支援が必要な子どもに対する支援の充実を図る。

日時：令和5年9月6日（水）

参加者：6名 小中学校支援員27名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な支援を必要とする子どもへの対応について」

講師：秋田県教育庁中央教育事務所 指導主事 高橋 基裕 氏

ウ 特別支援地区別連絡会

8月18日 天王中学区

8月21日 天王南中学区

8月22日 羽城中学区

各小・中（管理職1名・特別支援コーディネーター1名）

各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

エ 幼児通級教室（年中児親子相談会サポート事業）

市教育支援アドバイザーが園を訪問し、1回30分程度の活動を行う。

公立5園で実施。（12名）

オ 関係機関と連携したケース会議の計画的な実施

公立5園では、特別支援学校地域支援部と連携し、教育専門監を招聘しての年2回のケース会議を特別支援教育年間計画に位置付けた。指導助言を日常の保育や保護者との関係構築、就学指導に生かしている。

2回目（12月）のケース会議には、小学校の特別支援教育コーディネーターが保育参観や協議に参加した学校もあった。

カ 部局間連携による事業の見直し・改善について

配慮を必要とする子どもの切れ目ない支援を行うために、子育て応援課健康支援班、施設運営支援班との連携を強化し、現在実施されている事業について見直しや改善を図った。

・4月13日 幼児通級教室「わくわくタイム」について

・4月28日 年中児相談会について

・6月30日 就学指導に関する事業について

・8月29日 就学指導に関する事業について

○教育委員会と子育て応援課との部局間連携の見直しや、関係機関との連携、幼保小中の連携の強化等、一人一人の教育的ニーズに応じて継続的で一貫性のある支援の充実が図られるように体制整備を行った。

●△管理職や特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制の機能の強化を図る必要がある。

⑤ 幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行（月1回程度）

・潟上市の全就学前保育施設（14施設）、全小学校（6校）、市子育て支援課、他市アドバイザーに配付。

・「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」や「潟上市幼保小連携理解推進事業」について、就学前教育・保育と小学校教育の連携のための情報提供や研修、実践の取組等を掲載している。

・架け橋カリキュラム作成に向けての各学校区の取組を紹介している。

○園や小学校、各学校区の実践を紹介することにより、相互理解が深まってきている。

○円滑な接続や架け橋カリキュラム作成に関する情報を提供し、共通理解の一助となっている。

△潟上市ホームページに掲載し、幼児教育や小学校との円滑な接続について保護者や市民への周知を図るようにしていく。

（５）「県との連携体制の充実」

○昨年度末に幼保推進課指導主事と研修計画等について話し合う場をもち、助言をいただいた。課題を明確化し、取組を具体化することができた。

①県主催協議会への参加

・アドバイザー連絡協議会 ４月 22 日 ６月 24 日 ８月 25 日 10 月 25 日 1 月 24 日

○他市アドバイザーとの話合いや各地区の取組状況についての情報交換は、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、自身の園への関わり方のヒントになったりしている。

○他市アドバイザーとのネットワークができたことで、今年度は情報交換のみならず、本市の研修会に他市の協力を仰いだり参考資料のやり取りをしたりすることができ、研修の充実を図ることができた。

②県主催研修会への参加

・園長等運営管理協議会 ４月 26 日

・教頭・主任等研修会 ５月 24 日

・就学前教育理解推進研究協議会 ６月 7 日

・教頭・主任等研修会Ⅱ 11 月 2 日

・就学前教育推進協議会 11 月 21 日

○教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。

●園訪問や学校訪問が増加したため、予定していた研修会に参加することができないこともあり残念であった。

△6 月の就学前教育理解推進研究協議会における秋田喜代美先生の講話は大変参考になった。就学前施設職員はもとより、小学校職員にとっても、架け橋期の子ども理解を深める内容だったと感じる。このような研修は、ぜひ幼保小で共有したい。また、大館市で実施された田村学先生の講演会もとても有意義であった。可能であれば、モデル地区である大館市の授業研究会や研修会を広くアナウンスしていただき、先進的な実践を学ぶ機会を得たいと思う。

③県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

・追分保育園 10 月 27 日

○園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。園の課題解決や助言、公開研究会の運営に生かすことができている。

④県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

・追分保育園 9 月 7 日

・昭和こども園 9 月 21 日

・天王こども園 10 月 3 日

・出戸こども園 10 月 5 日

・若竹幼児教育センター 11 月 28 日

○計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。訪問での指導助言を、その後の園訪問で確認した

り話し合いに生かしたりしている。指導内容を園と一緒に考え、保育者の意欲や具体的な改善に結び付くようにしていきたい。

⑤他市アドバイザーに学ぶ研修会

- ・出戸こども園 7月19日…県内豪雨のため中止
- ・男鹿市船越保育園参観 7月12日
- ・能代市湊城幼稚園・ていじょう保育園参観 11月7日

○各地区のアドバイザーの実践を参観したり、これまでの経験も含めて参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。特に、園内研修の進め方や深め方を実際に参観できたことは有益だった。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

○幼保小連携についての職員の意識の向上

- ・相互職場体験の内容の充実（「10の視点」で子どもを見ること、生活科の提示、TT等）
- ・子ども同士の交流活動の充実（事前の計画作成、当日のTTでの進行、事後の振り返り等）

○園内研修の充実と職員の意識の向上（幼児教育アドバイザーの助言・支援等による）

- ・園の実態や、職員の希望を活かした研修内容の工夫

○特別な支援を必要とする子どもへの支援の向上

（園内研修や専門機関との連携による「子どもの困り感を見取る力」の向上、意識の向上）

○潟上市版の架け橋期のカリキュラムの作成に着手

○小規模保育施設と公立園との連携体制の構築

- ・0歳～5歳までの切れ目ない支援につながる連携
- ・小規模園同士の連携や情報交換、日常的な子ども同士の交流や、職員の研修への活発な参加

○他市との連携・情報共有

大館市（架け橋期のカリキュラム作成） 大仙市（職員研修の在り方） 能代市（特別支援教育） 男鹿市（幼児教育アドバイザーの助言の在り方）等

●架け橋期のカリキュラム作成に向けた小学校の管理職の意識の向上と校内体制づくり

●特別支援教育の園内支援体制づくり、管理職の意識の向上

実施市の具体的取組（仙北市）

1 教育・保育の現状と課題

- （1）各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関りが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。
- （2）幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む

- ・幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために、教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む
- ・小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化

- ・副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとして育成を図る
(教育・保育の質と専門性の向上)

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

(幼小連携の強化)

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

【重点】

就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組みの強化に努める。

【実施内容】

令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む

- ・幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために、教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む
- ・小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化
- ・副園長がアドバイザー的業務を担えるようにミドルリーダーとして育成を図る

1 教育・保育アドバイザーによる園の支援

(1) 教育・保育アドバイザーによる園の支援(園内研修、保育実践)

◇アドバイザーに関する具体的な目標(仙北市)

- ・園の良い点、課題を分析し支援につなげる
- ・定期的な訪問による園内研修支援
- ・園内研修支援(研修方法の紹介、保育者への演習、研修内容等への助言)
- ・園内での公開保育、保育支援(指導計画作成、保育の振り返り等への助言)
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」、乳幼児期に育みたい資質能力を視点にした保育の振り返りを実践する
- ・指導計画作成支援、保育者の意図と幼児の遊びから「保育者の援助、環境の構成」を考える
- ・園、個人からの相談への対応

2 専門性の向上のための研修の充実

(1) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

○キャリアステージや課題に応じた研修、キャリアアップ研修の充実

- ・保育補助研修会(実技研修)(同じ内容で2回実施)
- ・ファシリテーター研修会(4回実施)
- ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修(会議)を実施
- ・乳幼児理解研修会
- ・幼児理解研修会
- ・男性保育士等研修会

3 小学校教育との円滑な接続に向けた取り組み

(1) 部局間連携(教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課)

- ・学区(園・小学校)の情報交換時に参加(地区別幼小連絡会)
- ・学校訪問に同行する
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催
(角館こども園:公開研究会を開催、角館小学校を会場に協議)10月11日開催
- ・幼小連携に関する研修会

- ・仙北市で掲げる研究テーマを小・中・就学前教育まで広げ、相互で長期的に実践していく
- ・小学校、園、指導主事訪問（授業参観、保育参観、協議）
- ・小学校（保育体験）

4 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成

- ・指導主事訪問に同行する
幼保連携型認定こども園 5園 要請訪問（保育園）3園
- ・県の幼児教育推進協議会に参加
- ・アドバイザー連絡協議会へ参加（年5回）
- ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーとの連携、情報共有
- ・他市アドバイザーとの相互研修、情報共有

（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

○学校訪問

R5.6月29日(木)	白岩小学校	教育委員会・教育委員 白岩小百合保育園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー
	生保内小学校	教育委員会・教育委員 だしのこ園副園長・保育教諭 教育・保育アドバイザー
	桧木内小学校	教育委員会・教育委員 ひのきないこども園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー
R5.7月3日(月)	神代小学校	教育委員会・教育委員 神代こども園副園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー
R5.7月4日(火)	角館小学校	教育委員会・教育委員 角館こども園長・保育教諭 角館西保育園長・5歳児担任 中川保育園長・5歳児担任
R5.7月5日(水)	西明寺小学校	教育委員会・教育委員 にこにここども園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー

R5.11月2日(木) 仙北市教育研究大会
(会場) 仙北市立生保内小学校・仙北市立生保内中学校
園から授業参観・協議に参加

R5.12月20日(水) 仙北市教育研究会 評議員会

※仙北市教育研究会研究大会について

「言語活動の充実」を柱に市内全ての小・中学校が研究への方向性を同じくし本大会の授業参観・授業研究を通してテーマに関わる成果と課題を共有しその育成につなげることを目的としているが、そのベースである子どもの育ちを園も一緒に考えていく視点をもつ。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（仙北市）

派遣実績 計	施設／全17施設	169回
--------	----------	------

回数	・保育園：公立 3園（42回） ・幼保連携型認定こども園： 私立 5園（101回） ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（0回） ・小学校：6校（26回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園（44回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園（18回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園（49回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（41回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園（21回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（13回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（49回）
理由	・園内研修は事前の準備、当日、事後の振り返りに入り園内研修で深めたいポイントを探るとともに振り返りの時間を保育者達と大事にしていく。 ・保育者等への指導を管理職からの実態把握で園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・小学校区の幼小連携の会議にADも出席できるように努めていく。学区ごとの連携の話し合いが子ども姿の情報のみでなく、子どもの育ちの話し合いになるような提示等をしていきたい。 ・仙北市の研修会で学んだ内容が、いかされている良さや課題を吟味し保育者が主体的にやってみたいと思う研修内容を工夫していく。

○園内研修の中での保育公開では、事前の指導案の読み取りが深められてきている。

公開後の話し合いを深めるために、協議のファシリテーターや記録の担当者が指導案を基に公開する保育者に子どもへの援助の仕方や意図している思いを聞き当日の保育を見る視点を探し出している。

○KJ法で協議を進める園が多く、出された付箋を基に子どもに対してどんな手立てを考えるかなどその保育の場面を自分に置き換えて意見を出すことが多くなった。

○学区において保育参観、授業参加への出席が増え幼小の接続に向けての話し合いが多くなった。

●子どもの姿やその時の周りの子ども達の状況など場面を捉えた話題は活発にできるが、保育の中で取った手立てや環境の構成、子どもの育ちや力についてはなかなか話題が出にくい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

R5.4月21日（金）保育補助研修会①(実技研修会)

聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

参加者18名（保育補助12名・副園長4名・栄養士1名・主任保育士1名）

＜参加者アンケートから＞

保育補助

- ・身体を動かすイメージは、鬼ごっこやドッジボールと思いがちだが、指先も上半身や下半身も考えながら行うことで普段とは違う動きや運動の仕方ができることを感じた。上手くできなかった事もあったが最終的に上手くできなかったという感想ではなく、とても楽しかった。身体を動かすことっていいなと感じた。このことが「失敗しても大丈夫、そこから笑いが生まれたりする」ということなのだなと思った。

管理職

- ・保育補助の先生がすぐに実技研修で学んだことを実践してくれていた。たくさんの笑い声が聞こえていたのでクラスをのぞいてみると笑顔いっぱいに夢中で遊んでいる子ども達の姿があった。子どもと一緒に保育者も楽しむ姿と研修してきたことをすぐに実践していた姿をうれしく思った。保育者の環境作りをどのように引き出して子どもが笑顔いっぱいの園にできるか、今回の研

修でとても感じる事ができたと思う。

- ・「失敗しないように」「もっと上手に」は、向上するために大切なことだが「失敗しても大丈夫、みんな失敗している」は、なんと心強いのだろうと思った。失敗したことよりも取り組んでいる価値を認め、楽しみながら進んでいこうとする雰囲気を園全体で作っていきたいと思った。

○早い時期に開催することで、保育補助の人達にも保育に携わる意識を高めることができる感じがした。

○管理職も一緒に研修会に入ること、あらためて保育の大事な視点を考えたりできていることが成果と思う。

○同じ職場のチームとして、管理職の立場からいろいろな場面でいろいろな立場の人を認めている意識が高まっていることやすべきことの再確認が必要なことを意識する気持ちが高まっていると捉えることができた。



<持っているのは誰？みんなが真剣な顔>

R5.5月11日（木） ファシリテーター研修会①

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者（14名）

<参加者レポートから>

- ・園内研修：KJ法で進める場合事前の準備をしておくことが大切だと学んだ。指導計画について担任と意見交換をし、より具体的な考えや意図を聞くことで当日の保育のポイントが見えてくることが分かった。

- ・参加者の学びを深めるために協議をまとめるだけでなく、協議中にたくさんの意見を引き出せるような質問をしていくことが大事である。意見が広がったり深まったりする質問を身に付けられるよう実践を積んでいきたい。

○前日まで指導案の検討会をすること、当日出された付箋のポイントをしぼる、参加者から意見を引き出すための質問を考える等事前に準備をしておくことで、園内研修に向かう不安が緩和されることを実感できたようである。

- 協議を進めていくと付箋の説明が長くなり最後まで聞くべきか、途中で切り上げてもいいのか、悩む。多様な意見が出ると協議のゴールが分からなくなってしまいどのように進めたらいいか分からなくなってしまった悩みが見えた。

△これまでは園内研修リーダーを中心に研修会を開催していたが、今年度はファシリテーター研

修会を受けたことがない保育者を中心に進めた。

参加者は、話し合いの視点をどこにおくか、保育者の思いを引き出すことの難しさを感じていたが、園内でも実践を積み重ね、振り返りを通して協議の深まりの検証をしていくことが大事なことだと改めて感じる事ができたようである。

学んだことを園内で実践できるようにしていきたい。



<要点をまとめて伝える意識を持つ>

R5.5月17日（水）乳児保育研修会①

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者 21名（園 15名、保健課 6名）

<参加者：アンケートから>

保育者

- ・記録の書き方について：4つの段階を区別して書いていくことで子どもの育ちを捉えて保育につなげていくことができることを学ぶことができた。

今回学んだ記録の書き方を保育や指導計画にいかしていきたいと思う。

- ・自分の記録を見直すと、子どもが何を学んだり経験したりしているかの記述がないことに気付いた。そこで何を経験し学んでいるのかを読み取って記述していくことが大事であり、記録の仕方を工夫していきたいと思った。

保健師

- ・保育者さんがどのような研修を受けて日々の業務にあたっているか知ることができて勉強になった。日常を言語化（計画や報告）する難しさはどこも同じと改めて思った。PDCA サイクルをまわすための視点の持ち方等保健課の業務にもいかせるお話だった。

- 0歳児から2歳児保育のキーワードは、担任達にとってクラス運営や4月の子どもの姿と重なり、日々の保育を振り返る大きな手立てとなったようだ。未満児の保育は、個別の育ちの捉えが大事とわかっているが“みんなで一緒”に捉われてしまったり安全面から制限したりすることも多くなるという悩みが見えた。

一人一人の伸びようとする力をどのように捉えて保育者の関わりを考えていくか、大事な視点を保育者と明確にしながらアドバイスしていくことを心掛けていきたいと思った。

- 動画を見取る演習：子どもの姿は書くことができるが、その姿から何を経験しているか、学んでいること（子どもの内面理解）を書きとめることに時間を要し、育ちを読み取る3つの視点に分類することがなかなかできなかった。子どもの姿を事実として書きとめ、乳児保育に係るねらい及び内容、発達の3つの視点を意識することが大事なことでと再確認することができた。



△初めての試みとして、行政機関の連携を考え保健課に研修会への参加を声掛けした。

保育者の資質向上には直に結び付かないことかもしれないが情報を共有しながら子どもの発達を見ることは、保健師からの視点も入り前進できるように思った。

＜動画から子どもの姿、経験していることを見取る＞

R5.5月19日（金）ファシリテーター研修会②

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者（13名）

＜参加者：レポートから＞

- ・指導案を見て「ねらい」と「子どもの姿」はつながっているか「環境や援助」は今の保育に合っているか、どんなことを大切にしているかなどをポイントに読んでいくことを意識していきたいと思った。
- ・違う見方があるからこそ参加者の学びがある。多様な考えを認めて進めていくことがファシリテーターの役割でとても大切なことだと感じた。

- 指導案の読み取りは、保育者の援助や環境の構成等足りなさを指摘するのではなく、保育の意図を確認したり、当日の保育への意識を高めたりすることが大事であることを確認できた。

- 参加者の意見を引き出すために付箋への質問を考えておくことが大事であると学んでも、実際どんなことを質問したらいいのか、具体的な質問がなかなか浮かばず難しいと感じていた参加者が多かった。

△付箋の振り分けやポイントを絞ることに慣れていないせいか、指定された時間になかなかまとめることができずにいる姿があった。

保育公開の時期や学年によっても話し合いが同じように進むことはないので、ファシリテーターとの振り返りの中で子ども達への援助や育ちを予想することも大事であることを確認していきたい。

また、参加した職員達が自分だったどうするかなど、



＜出された付箋を振り分ける＞
話し合いのポイントをしぼる

それぞれの考えをたくさん出し合えるように
アドバイザーの関わりを考えていきたいと思う。

R5.5月26日（金）乳児保育研修会②

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者 19 名（園長 5 名、副園長 8 名、保育士等 6 名）

＜参加者：アンケートから＞

- ・動画からの見取りで、身体的発達、経験していること等の育ちの見取りが弱いと感じた。
- ・〇か月頃の発達はこうである！と当たり前に思い過ぎて、その子ども今の発達として見取れていない、KKO で保育していたのかなと深く反省した。動画での見取りはとても勉強になった。
- ・前回の研修者が記録したものを読み取って自分の思いや気付いてほしいこと等を書き込んでいく演習から学んだことがとても大きく自分の文章力やプロセスを重視した分析力のスキルをもっと高めていかなければならないという思いになった。

子どもにも、保護者にも、現場の保育者にも“こんな姿に” “こうなってほしい” という願いと共に「理解と励まし」の気持ちを忘れずに持ちながら自分の立場での関りをもっていきたいと思った。

同じ立場でグループを作り演習していくスタイルにとっても新鮮さを感じた。

- 同じ市内の園長同士が同じ場面を見て語り合うことは初めてだった。園長という職務でありながら子どもの姿の読み取りという部分で保育者と同じような悩みがあり、とてもいい機会であったという声が多く聞かれた。園長、副園長、保育士等のグループ分けは、研修会の企画がいかされたと思う。

- 管理職になるとなかなか幼児理解等の研修会への参加がないことを実感した。

時代の流れの中で情報を常にキャッチしていくことが大事なことを捉えながら仙北市の研修会が園に反映されていくことを考えていきたい。

- 指導案から読み取れることに園長達はどんどん言葉を出して進めていたが、副園長やリーダーのグループではなかなか話が進まないことが見えた。

子どもが何を体験しているのか、遊びを通して育っていることの意味付けが弱い面が見えた。

講師の助言から気付くことも多く、どんなところに視点を置いて見取ることが大事なのかを改めて考えさせられた。



＜読み取った指導案に
どんな助言をしたらいい？＞

R5.5月30日（火）仙北市保育研修会（男性）

参加者 5 名

- 公開を控えている保育者の指導案の読み取りから「ねらい」の立て方の難しさ、評価の観点の捉え方が話題になったが、今子どもたちの実態を捉えたうえで保育者の願いを明確にしていけることが大事なことであり共有することができた。

- △指導案の書いた部分を否定するのではなく、この場面はどんなふうに進めるの？と問いかけてくれることで保育者が意識していなかったことが明確になるという良さが参加者に伝わり、次回の公開保育に向けて指導案の検討会を開催することに進んだ。

R5.6月14日（水）仙北市保育研修会（他園に学ぶ）

思いっきり遊ぶ子どもを求めて

～育ちを捉えた振り返りを通して自分らしさを発揮するための保育者の関わりを探る～

仙北市立白岩小百合保育園 主任保育士 千葉貴美子氏

保育者に学ぼう（実技の講師・参加保育者）：歌遊び、手遊び、絵本の紹介、制作等

参加者 16 名（副園長 4 名・保育者 12 名）

- 鹿角市で行われた研究協議会に参加できなかった職員が、白岩小百合保育園の実践発表を聞くこ

とができたことが有意義な研修になった。県の指導講評を聞くこともできたので、令和5年度（大・仙・美の発表園）や来年度（県の発表園）に関しても取り組みのポイントや資料作りの参考になったと思われる。

- 園内研修の取り組みや子ども理解、職員間の情報共有等、自園でできる前向きな考えにつながったと思われる。
- 実技の講師になった保育者は、他園の保育者の前で導入の話をしたり実践したりすることに緊張したようだが子どもの前で声のトーンや雰囲気作り、教材の与え方等改めて考える機会になったようだ。
- 事前確認や準備はしたが、途中マイクが入らずマイク無しで行った。アクシデントが起きた時の対処を考える必要があった。

R5.6月21日（水）仙北市保育研修会

仙北市子ども家庭総合支援拠点について

～そだれん・あいのうのそれぞれの内容を理解し、親子への効果を知る～

仙北市子育て推進課 家庭援護係 主査 千葉 暁子 氏
家庭相談員 藤原 絵美 氏

参加者 15 名（副園長 4 名・保育者 12 名）

＜参加者：アンケートから＞

- ・ペアレントトレーニングは、子どもへの気付きとともに子育てへのヒントやコツを具体的に分かりやすく学ぶことができとてもよい取り組みだと思った。現在は支援を必要とする子の保護者が主な対象だと思うが子育てをしていくうえで全ての保護者の方々に役立つと思うので学べる機会があればいいと思った。
- 子どもの好ましくない行動やしている行為に目が行きがちになるが、その姿をどのように判断し、的確な言葉掛けをしていくか、保育の場面にも通じるところがたくさんあり具体的に考える場になった。
- いろいろな保護者や多様な家庭環境があることから、園としてどこまで支援したらいいのかという悩みも多かったが、行政との情報共有や連携機関をつなげていくことが子どもの育ちを保障していくということを知る機会になったと思う。
- 仙北市子ども家庭総合支援拠点の役割や業務が、園側に理解できていない面があることが明確になった。

↓
△「支援を必要としている子、支援を必要としている保護者」等に対して園全体で情報共有が正確にできているだろうか。を考えさせられた。個人情報になるので難しい取り扱いにはなるが、必要とする関係機関とつながるような配慮を課全体でも考えていきたい。

R5.7月14日（金）仙北市保育研修会

「子どもをみるとは…」～保育の中で大切にしたいこと～

講師 聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

参加者 16 名（保育士・保育教諭 15 名・子育て推進課 1 名）

＜参加者アンケートから＞

- ・泣いている子どもがいるとどうしたら泣きやむかを考えて接していたが、泣くというのは心が痛いことから回復していくのに大切な行動であることを教えていただき心にゆとりができた。無理に泣きやませようとせずそばに寄り添い安心できるように関わっていきたいと思った。
- ・子ども理解のために「見るのが大事！」見るときに何を感じているか、何でその動きをしたのか等様々考えることがあり、立ち止まって見る、考えることでより深く子どもを知る手立てに繋がっていくことを学ぶことができた。
- 参加者の経験年数を 1～4 年にしたことで、同じような視点で子どものことを考えたり、共有できたりすることが多いと感じた。



(年齢層や経験別での研修会も企画として考えていきたい。)

- 大雨の対策に伴い保健課からの参加ができず残念であった。
保健師の方から残念であり研修の機会があったら参加したい
という感想を聞くことができた。

＜横目で子どもを見る。どんな気持ちになる？＞

R5.7月26日(水) 副園長研修会

参加者 副園長10名 (欠席 2名)

＜参加者：アンケートから＞

- ・副園長の役割についての演習では、普段自分が感じている悩みや課題、手ごたえや充実感等自ら言葉に表してみることで日々忙しさの中でじっくり向き合うことができない思いに改めて気付くことができた。生の声を出し合っの演習は、とても充実した研修になった。
- 副園長同士での話し合いを聞いたり悩みを出しあったりすることから実態把握に務めたが、シフト作りや調査物の提出、行事の話し合いや園内研修等、副園長の業務の多さが見え、副園長同士で何を最優先していくべきかを明確にできた。
- ◇ファシリテーター研修の内容を取り入れながら進めたが、仙北市の研修会で学んだことを共有できるように伝えていくことで園内でも広がりがあることを実感できた。
時間配分に余裕をもたせるともっと話し合いが深まったように思う。研修方法を考えながら工夫していきたいと思った。

R5.9月12日(火) 仙北市保育研修会(男性) インフルエンザ感染者が園内で多くなり中止。

R5.10月3日(火) ファシリテーター研修会③

講師 教育・保育アドバイザー 佐々木 真貴子

参加者 20名

＜参加者レポートから＞

- ・指導案の読み取りでは、実際に質問してみることで担任の意図している部分や思い、子どもやクラスの姿等をより深く知ることができた。また、研修に参加している保育者の質問を聞き、質問のポイントなど自分では気づかないところがたくさんあり、指導計画を読み解く学びになった。
- ・指導計画だけを見て実際の話し合いをすることは難しかったが、当日のイメージがわきすごく貴重な時間と感じた。
- ・子どもの姿が見える指導計画、意図したことを書き出す環境構成、一人一人の子どもを大切にする保育者の援助を書くことで保育を参観する人達に伝わることを改めて感じた。「子どもに対してこれはどのように？」と自分に問い掛けながら作成することでより深く意味あるものになると学び今後指導計画を作成する時に意識して取り組んでいきたい。

＜公開保育5歳児担任から＞

自分達が作成した指導案を基に参加者の先生達から質問されたことで、当日の手立てが確かなものとして捉えることができたり、新たに気付かされたりすることが多くあった。自分が具体的に書いたつもりでも読んだ先生が保育者の意図を理解できずにいる箇所もあり、意図を説明する中で相手に伝わるように作成していく工夫が必要と感じた。

R6.1月15日(月) 保育補助研修会②(実技研修会)

聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

参加者 23名(保育補助15名・園長2名・副園長3名・主任保育士・保育教諭3名)

＜参加者のアンケートから＞

- ・手をたたいたり足踏みしたり、何も準備がいらない楽しいゲーム。ルールは年齢に応じて変えてもいい。役立つことが満載の研修会だった。
- ・「失敗するからおもしろい」と講師の先生が何度も言っていた言葉。子ども達と一緒に感じられたらいいなと思った。難しいかなとか、子どもにヒットしなかったらどうしようとかあまり考えないで保育にどんどん取り入れていきたいと思った。

- 「間違うからおもしろい！間違ってもいい」講師の言葉が参加者に強く響いたようだ。できることが当たり前ではなく、できるまでの過程で間違っても楽しい、みんなで笑うことができるからまたやってみようと思う気持ちが湧いてくる体験はとても大事なことで実感できた。

R6.1月17日（水）角館地区3園 園長、副園長研修会

講師 子育て推進課 主査 浅利 美智子 氏

参加者（6名）

- 身近な話し合いではあったが「研修会」と名前をあげることで気持ちが引き締められたような気がする。管理職は園運営のために保育者の質の向上だけに目を向けるだけでなく、事務的な業務も入るため行政からの確認やアドバイスは貴重と思えた。今後は、年度初め時期に開催していくことを検討したい。

R6.1月25日（木）ファシリテーター研修会④

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者 18名

- 合同研修会で保育参観後の協議を進めた（ファシリテーター、記録者）の実践を基に反省を出し合い、次年度の園内研修につなげる手立てを中心に研修会を進めた。
ファシリテーター研修会で学んだことを園でファシリテーターや記録者として回数を重ね、合同研修会に臨んだという声もあった。自分の役割に責任を持っている気持ちと「学んだことを実践している」といううれしい声を聞くことができた。
- 「話し合いを深めるためには？」という質問も出て、保育に真摯に向き合っている保育者の熱意を感じた。講師からは、悩んでいることに対する的確なキーワードと、園内研修を高めたいという保育者の意欲につながる助言があり、それを基に研修の振り返りとして園訪問を通してアドバイザが見守っていくことも大事にしていきたいと思った。

R6.2月26日（月）だしのこ園研修会

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

大・仙・美保育実践発表

研究テーマ「粘り強くやり遂げようとする子どもを目指して」

～積み重ねよう読み取り・記録・語り合い～

だしのこ園主査保育教諭

今野 郁絵

参加者 23名（他園 14名、だしのこ園 9名）

<参加者アンケートから>

- ・研究を通してだしのこ園の保育者一人一人の意識の高さを感じた。また、保育のスキルアップにつながっていることやチーム力が高まっていることがわかり自園でも真似てみたい、真似るべきと感じる点が多くあった。
- ・Dメモ、だしのこマインドマップなどだしのこ園ならではのネーミングを取り入れることで職員全体がより親しみやすく気軽に記録できる雰囲気づくりにもつながっていたと感じた。
記録を通してより子どもの姿を読み取ることでまさしく「記録がいきる週案」へとつながっていると感じた。

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

<地区別幼小連絡会>

R5.4月20日（木）

仙北市立神代小学校・神代こども園

子どもの様子、情報交換

育てたい姿について

R5. 5 月 16 日 (月)

仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
授業参観・保育参観・年間計画（交流）について等

R5. 6 月 9 日 (金)

生保内小学校・はなさき仙北だしのこ園
経営説明（校長、園長）
情報交換・年間計画について・日程調整等

R5. 10 月 11 日 (水)

仙北市合同研修会

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

公開保育 はなさき仙北幼保連携型認定こども園角館こども園（5 歳児）

協議会場 仙北市立角館小学校

参加者 81 名（園 39 名 小学校 32 名 行政、教育関係者 9 名）

＜参加者：小学校から＞

- ・「ねらいに向かった保育になっていました」と言い切ることのできる素晴らしい保育だった。それは 1 日でできるものではなく、日々の活動によって学習が積み重なったものと思う。素晴らしいです。子ども達の話聞く姿に感動した。
- ・子ども達の主体的に遊びに向かう姿から保育者の綿密な計画や工夫の数々を感じることができた。課題解決のための話し合いが自然と輪になって行われていたことである。友達の発言を目と体を向け心で聞く姿。子ども達の思いや考えを認め、受け止めて価値づける先生方の姿。当たり前のように、いつも同じような話し合いが行われているのだと思った。園で育った力を小学校でより伸ばせるようなカリキュラムの工夫が大事なのだと改めて感じた。

＜協議：園から＞

- ・同じ保育参観をしても園側は子どもの育ち、内面、環境の構成、保育者の援助などどのようにつながっているかに視点があった。小学校側では、ひとつひとつの時間配分やどこをねらってどのように進めているか、そのための関わりはどのようにしているかを見ていた。視点は違っても話し合うことでひとつの見方が変わってきたので学ぶことが大きかった。違いを考えていくことで、保育のステップアップにつながり、小学校へつながっていく力をみんなで考えることができると思った。

○学区ごとに授業参観、保育参観は行われているが、午後の協議に参加することがなかなか定着していないため公開保育を通して子どもの姿を話し合うことを重点として開催した。

協議の中で、園と小学校の参加者が、遊びの中で育っている子ども達の力にお互い気づくことができたことが大きな成果であった。

△子どもの姿を園と小学校で捉え、子どもの育ちの話し合いをしていく場の提供やきっかけ作りの工夫を検討していきたい。

●今後、幼小の連携を教育委員会とどのように進めていくかは大きな課題である。

また、合同研修会は小学校が参加しやすい時期を考えて秋休みに行ったが、公開する園側では行事が多い時期などの悩みもあり開催日や内容などを検討していきたい。

＜小学校指導主事計画訪問＞

R5. 9 月 11 日 (月) 桜木内小学校 1 年 (国語)

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 栗津 明子 氏

R5. 11 月 17 日 (金) 角館小学校 2 年 (生活科)

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏

R5. 11 月 28 日 (火) 西明寺小学校 1 年 (算数)

仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 指導主事 武藤 洋史 氏

○教科ごとに単元計画の作成に沿って授業が進められていくことや、実際の授業参観から教師の手立てを探っていく協議などを理解することができた。小学校や園との相互理解につながるように授業参観や協議に参加できるような機会をつくっていききたいと思った。

・仙北市子ども家庭総合拠点（教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園）

＜就学前児童に関する支援機関連携会議＞

- ① R5.4月27日（木）
- ② R5.4月28日（金）
- ③ R5.7月13日（木） 勉強会 講話 仙北市社会福祉課 草薨 拓也 氏
- ④ R5.10月16日（月） 勉強会 講話 仙北市子育て推進課 相澤 克彦 氏
- ⑤ R6.2月13日（火）
- ⑥ R6.2月14日（水）

＜どれみの会＞・仙北市で行う月2回の就学前児童の療育訓練事業である（親子一緒に参加）
通年 講師 宮川 貴子 氏

R5(5/12.5/31.6/9.7/5.7/28.8/10.8/23.9/7.10/6.10/23.11/8.11/22.12/7)

R6(1/10.1/24.2/8.2/22)

年3回（音楽療法）講師 日沼 郁子 氏

R5(6/21.9/22.12/14)

○アドバイザーが活動に取り組む親子の様子を園に伝えたり、カンファレンスの記録を渡したりすることで子どもの様子を知ることができると園には講評であった。

●アドバイザーの園訪問と重なり、訓練にはなかなか参加できないこともあった。

また、記録の作成に合わせて園の訪問にあたるため日にちが経ってしまうこともあった。

＜令和5年度教育専門監等の派遣による巡回相談＞

秋田県立大曲支援学校 教育専門監 大川 康弘 氏

秋田県立大曲支援せんぼく校 教諭 佐々木 奈織 氏

仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 総合学習アドバイザー 小林 千春 氏

R5.6月30日（金）はなさき仙北にこここども園

R5.7月6日（木）はなさき仙北 だしのこ園

R5.7月11日（火）はなさき仙北ひのきないこども園

R5.8月3日（木）はなさき仙北 角館こども園

R5.11月10日（金）はなさき仙北ひのきないこども園

△専門監から、子ども一人一人への助言をいただいたので、園でできることに加えてアドバイザーとして保育の中で悩むことを聞いてあげたり対応に悩んだりした時は、関連機関との連携を考えたりしていくようにしていきたい。

指導主事訪問に同行する

要請訪問

R5.5月31日（水）だしのこ園

R5.6月13日（火）角館こども園

要請訪問

R5.8月2日（水）中川保育園 他園 4名

R5.10月17日（火）白岩小百合保育園 他園 6名

R5.10月26日（木）角館西保育園 他園 7名

幼保連携型認定こども園訪問

R5.7月4日（火）ひのきないこども園 小学校2名（校長・教頭）管理職2名協議参加

R5.9月21日(木) 角館こども園 他園7名

R5.10月18日(水) にこここども園 他園6名 小学校1名

R5.10月20日(金) だしのこ園 他園7名

R5.10月25日(水) 神代こども園 他園5名 小学校2名 協議参加

○指導主事に同行できることは、具体的な園の課題を見いだせるとともにアドバイザーのスキルアップにもつながっている。

(5) 「県との連携体制の充実」

R5.4月26日(水) 令和5年度園長等運営管理協議会Ⅰ

R5.6月16日(金) 幼稚園・保育所・認定こども園新規採用者研修Ⅲ

R5.7月27日(木) 就学前・小学校等南地区合同研修会

R5.8月9日(水) 幼稚園・保育所・認定こども園中堅教諭等資質向上研修Ⅲ

令和5年度 教育・保育アドバイザー連絡協議会

R5.4月24日(月)

R5.6月23日(金)

R5.8月24日(木)

R5.10月24日(火)

市アドバイザーに学ぶ研修会

R5.9月28日(木) 横手市 社会福祉法人 育童会 樽見保育園

R5.11月7日(火) 能代市 能代市湊城幼稚園・ていじょう保育園

○他市の取り組みの良さを実際に見ることができることは、大変貴重な時間だと思う。

○アドバイザー達で保育を参観し「遊び」について協議したが、そこには必ず子どもの姿、環境の構成、保育者の援助に結び付いていくことを実感した。

アドバイザー達が自分とは違った、視点で保育を見ていることも大変参考になった。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

<保育の資質向上に向けて>

○仙北市研修会で学んだ内容を保育や園内研修に活かそうという意識が強くなっている。

他の保育者の保育を見て協議で話し合うことで自分の保育を見直す機会につながっている。

○保育公開や園内での協議にアドバイザーも一緒に参加している。

公開前の指導案の読み取りでは「ねらい」から子どもの姿、保育者の援助、環境の構成などを保育者に質問して聞き出している。質問によって、指導案を書いた保育者は意識していなかったことが見えてきたり、もっと具体的に書いたりすることで保育のイメージが明確になってくることを実感できているようだ。また、参加する保育者も保育のポイントをしばって参観できることが多くなった。

●指導計画の作成に結び付くように、遊びの中での子どもの姿や育ちを週案の裏面等を使ってメモに残す等、各園で工夫している面が見られる。しかし園によっては「自由に記述していい」ということも多く、単に子どもの姿を書き込んでいることが多かった。

その場面で保育者がとった手立てや声掛けなどを書き込むことで次週の保育を考えることにつながることもあると思う。記録をどのように週案につなげていくかをアドバイザーからも提案できるように考えていきたいと思う。

●園の管理職が指導計画を見て、日々の保育と重ね合わせて声を掛けていくような体制を推進しながら保育者の良い面を認めてあげることや保育者の自信に繋がっていくような言葉掛けをしていく支援を継続していくように努めたい。

<仙北市の研修会について>

○研修会に参加した職員が「こんな研修をやってみたい」という声を直に届けてくれるようになり、保

育者達と一緒に作っていく研修会を目指すことで参加意識も高くなっていくと感じている。
管理職も仙北市の研修会でいろいろな職員と参加することで、大事にしなければならないことを再確認できているという声を大事に受け止めたいと思う。

●研修会は、キャリアアップがメインになりがちである。

研修の内容から、この保育者を参加させたいと思ってもキャリアアップの単位不足から参加を考える。処遇改善につながることから参加を決めるなど園の事情もあり、研修内容の工夫が求められることを受け止めていきたい。

△研修の参加者を園に限らず、行政機関や教育、連携機関に広げることでみんなが子どもを多面的に語ることができるかもしれないことを念頭におき工夫していきたい。

＜幼小の連携について＞

○双方の指導主事訪問では、保育参観、授業参観だけでなく協議への参加意識が強くなってきた。学区で子どもの育ちについて話し合うことが大事なことであるという意識が高くなっているので今、行っていることを評価しながら次年度につなげていきたい。

実施市の具体的取組（大仙市）

1 教育・保育の現状と課題

- （１）就学前教育・保育施設と小学校の、子どもの捉え方や育ち・学びへの理解にまだ相違がある。
- （２）小学校入学後の生活、学習に適應できないケースがまだゼロではない。
- （３）園小の交流活動・参観は行われているが、連携体制が組織されていない小学校区がまだ数校あるため、幼児教育から学校教育への接続を円滑に図るための十分な環境・体制づくりが必要。

2 令和５年度の目的、重点、実施内容

【目的】

教育・保育アドバイザー２名で活動。市内の教育・保育施設及び小学校への事業年度計画や重点の周知。園内研修等の支援を通じ、保育士個々に留まらず園全体の保育の質が向上できるよう関わりを深めていく。また、各小学校区の連携組織が実効性のある充実したものになるよう関わり、相互参観はもとより協議参加を定着させ、相互理解をより深め接続が更に円滑になるよう働きかけていく。

【重点】

- ・園内研修や地域による学び合いを更に充実させ、参加した個々の保育士に留まらず、園全体で保育の質が向上できるよう関わりを深める。
- ・実効性のあるスタートカリキュラムを園と協同で作成できるよう関わり、幼小の接続が更に円滑になったことが実感できるよう支援する。

【実施内容】

（１）教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

□教育・保育施設へ、年２回の定期訪問を実施。（R4: 28施設→R5: 30施設に）

- ・前期訪問：５／１～６／２までに実施
（園の目標や重点・課題の把握、課題解決への支援、特別な支援を要する子の把握及び助言）
- ・後期訪問：１２月に実施

□単発派遣訪問の実施

- ・主に園内研修の支援……１０月まで１０園で実施（２園が、感染症発生により中止）
- ・保育の改善や園内研修（協議）の仕方への支援及び研修計画等へのアドバイス
 - ① ６／６（火）大曲北保育園：５歳児の保育と協議について
 - ② ６／２２（木）大曲南保育園：園内公開保育の協議の仕方について
 - ③ ７／１９（水）大曲南保育園：３歳児の保育と協議について
 - ④ ７／２８（金）なかせんワイワイらんど：男性保育会 ５歳児の保育について
 - ⑤ ７／２８（金）みつば保育園：男性保育会 ４歳児の保育について

- ⑥ 8 / 9 (水) 大曲南保育園：2歳児の保育と協議について
- ⑦ 8 / 10 (木) 藤木保育園：ポートフォリオ研修
- ⑧ 8 / 18 (金) 大曲乳児保育園：1歳児の保育と協議について
- ⑨ 8 / 21 (月) 内小友保育園：3歳児の保育と協議について
- ⑩ 8 / 31 (木) 西仙あおぞらこども園：2歳児の保育と協議について
- ⑪ 10 / 10 (火) 大曲中央こども園：5歳児2クラスの保育と協議について
- ⑫ 11 / 17 (金) 大川西根保育園：2歳児の保育と協議について
- ⑬ 11 / 30 (木) 協和まほろばこども園：1歳児の保育と協議について
- ⑭ 1 / 15 (月) 四ツ屋こども園：特別支援教育について
- ⑮ 1 / 16 (火) 内小友保育園：特別支援教育について
- ⑯ 1 / 24 (水) 四ツ屋こども園：1歳児の保育と協議について
- ⑰ 1 / 29 (月) 大曲駅前こども園：指導要録とセルフチェックシートについて
- ⑱ 2 / 29 (木) 大曲北保育園：特別支援教育について

□教育・保育アドバイザーによる訪問の具体的目標に対する現在の実施回数及び内容

◆目標回数： 149回 実績回数146回

《回数》

保育園：公立0園、私立15園、保育所型認定こども園1園 (目標60回のうち65回)
 幼保連携型認定こども園9園 (目標40回のうち36回)
 小規模保育施設1園、認可外2園、事業所内施設1園 (目標9回のうち8回)
 小学校20校 (目標40回のうち37回)

《訪問内容》

事業周知活動 (事業内容伝達、事業への協力依頼等) (目標50回のうち50回)
 状況把握 (保育の状況観察、園長等への目標や施策の聞き取り) (目標56回のうち64回)
 園内研修支援 (保育及び協議の改善、研修方法など) (目標25回のうち16回)
 県と同行 (指導方法研修、課題共有、指導内容の明確化) (目標23回のうち24回)
 幼小接続 (相互参観及び協議参加、園小連携協議会等) (目標：小学校20回のうち16回)

【成 果】

○保育や園内研修を向上させるためにアドバイザーを活用する園が増えた。前回アドバイスしたことが、その後の訪問時は改善されレベルアップしていることが多く、手応えを実感している。

【課 題】

●園や保育士等のニーズに対応できるよう、アドバイザーとして更に研鑽を積む必要がある。
 自分の経験や保育観に偏らないよう知識を深め幅広い見識をもって当たらなければならない。

【今後に向けて】

◇園内研修の協議の仕方について課題を感じている園が多いので、ある程度の道筋を示しながらも、園全体で話し合いながら自分達で主体的に考えていけるよう支援していきたい。

(2) 専門性向上のための研修の充実

□法人や施設形態の枠を越えた「学び合い」の体制の推進

昨年度までは指導主事訪問の機会を通じて実施していたが、今年度は、各園の園内研修一覧を作成・配付し、指導主事訪問以外でも園内研修に参加し合うことができるようにした。

その結果、学び合いの機会が次のように増えた。

<指導主事訪問での学び合い> 10月20日現在まで

- ①大曲北保育園に ←協和まほろばこども園から
- ②みつば保育園に ←はなだて保育園から
- ③すくすくだけっこ園に ←中仙東保育園・おおたわんぱくランドから
- ④大曲駅前こども園に ←協和まほろばこども園・なかせんワイワイらんどから
ウエルネス保育園大曲から

- | | |
|--------------|--|
| ⑤おおたわんぱくランドに | ←四ツ屋こども園・大曲北保育園・大曲東保育園から |
| ⑥大曲東保育園 | ←大曲乳児保育園・せんぼくちびっこらんど・角間川保育園から |
| ⑦西仙あおぞらこども園 | ←かえで保育園大曲・どれみ保育園から |
| ⑧協和まほろばこども園 | ←4園から参加予定が、感染症発生により中止 |
| ⑨はなだて保育園 | ←みつば保育園・つきの木こども園から |
| ⑩せんぼくちびっこらんど | ←ウエルネス保育園大曲・大川西根保育園から |
| ⑪藤木保育園 | ←大川西根保育園・日の出ベビー保育園から |
| ⑫大曲南保育園 | ←すくすくだけっこ園・ウエルネス保育園大曲
四ツ屋こども園から |
| ⑬内小友保育園 | ←みつば保育園から |
| ⑭角間川保育園 | ←西仙あおぞらこども園から |
| ⑮なかせんワイワイらんど | ←ウエルネス保育園大曲・大曲北保育園から |
| ⑯大川西根保育園 | ←つきの木こども園・ウエルネス保育園大曲から |
| ⑰つきの木こども園 | ←日の出ベビー保育園・中仙東保育園・大曲中央こども園から |
| ⑱日の出ベビー保育園 | ←かえで保育園大曲・西仙あおぞらこども園から |
| ⑲四ツ屋こども園 | ←なごみ保育園・どれみ保育園・大曲駅前こども園 |
| ⑳大曲中央こども園 | ←はなだて保育園・西仙あおぞらこども園
なかせんワイワイらんど・藤木保育園 |
| ㉑大曲乳児保育園 | ←おばここども園 |
| ㉒かえで保育園大曲 | *感染症発生により他園からの参加はなし |

<園内研修を通した学び合い> *指導主事訪問以外に園同士でやり取りして参加

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| ①大曲乳児保育園 | ←内小友保育園から |
| ②内小友保育園 | ←大曲乳児保育園から |
| ③四ツ屋こども園 | ←大曲東保育園から1名の予定が、感染症発生により中止 |
| ④西仙あおぞらこども園 | ←協和まほろばこども園・中仙東保育園から1名ずつ |
| ⑤大曲東保育園 | ←四ツ屋こども園から1名の予定が、感染症発生により中止 |
| ⑥大曲南保育園 | ←大曲乳児保育園 |
| ⑦みつば保育園 | ←すくすくだけっこ園から |
| ⑧大曲中央こども園 | ←みつば保育園から |
| ⑨協和まほろばこども園 | ←大曲東保育園・かえで保育園大曲・せんぼくちびっこらんどから |

【成 果】

○他園の保育を参観し園内研修に参加することで、互いに新しい考えや方法に触れることができ、自分や自園の取り組みを振り返ったり見直したりするよい機会となり、保育力のレベルアップにつながっている。

【課 題】

●園内研修の「学び合い」は、アドバイザーの仲立ちがなくても園同士でやり取りして進める体制が整ってきているが、大きな法人以外の園の関わりが未だ薄いため、保育力にも課題を感じている。大仙市全体の保育力の底上げに向けた「学び合い」を更に進めていきたい。

【今後に向けて】

◇昨年度、指導主事訪問を初めて要請した園が2園ある。今年開園した園や、これまで一度も要請したことのない園にも、信頼関係を築きながら要請する良さを機会ある毎に伝えていく。

□保育実践力の向上に向けた研修の実施

◆保育実践力向上研修会 I

- ・内 容：指導計画及び指導案の書き方について
- ・日 時：令和5年6月29日（木）13：30～16：00
- ・講義題：「指導計画および指導案作成のポイント」



～子どもも保育者も目が輝く保育を目指して～」

・講 師：秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

・対 象：市内就学前施設職員

副園長・園長補佐・研修リーダーから1名、担任1名の、計2名

＊参加レポート、研修アンケート実施

＜アンケート結果＞

・講義について

非常に満足…35名 満足…17名 普通…なし やや不満…なし 不満…なし

・演習について

非常に満足…35名 満足…17名 普通…なし やや不満…なし 不満…なし

＜参加者の感想より＞

- ・子どもの姿を見取るとき、何となく漠然と見て理解したように思っていたが、「把握と推測」を繰り返しながら3つの視点で見ることで、適切な見取りができることが分かった。
- ・よりよい指導計画の作成のためには、しっかりした見取りがまず大事だと改めて思った。
- ・園から複数参加により、子どもの捉えや願いなど、担任から改めて聞き出す機会となった。質問したり答えたりする中で方向性が見えてくることを感じる事ができた。園でも、このような時間をもつように心掛けたい。

◆保育実践力向上研修会Ⅱ

・内 容：乳児の発達の理解について

・日 時：令和5年10月31日（火）13：00～16：00

・講義題：「子どもの見方で保育が変わる

～子どもの発達の理解に基づいた記録と計画～」

・講 師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

・対 象：市内就学前施設職員

副園長・園長補佐・研修リーダーから1名と

3歳未満児クラス担任1名の、計2名

＊参加レポート、研修アンケート実施予定

＜アンケート結果＞＜参加者の感想＞は、実施後に報告。

【成 果】

○これまで、コロナ禍もあり、研修会への参加は1園1名に限っていたが、参加対象を園から2名にしたことで、園内での研修内容の共有がより図られるようになった。

【課 題】

●園や保育者のニーズ（要望）と、アドバイザーが必要と考える研修内容のバランス。

【今後に向けて】

◇子ども支援課の事情により、研修会の回数が毎年2回に限られていて他市に比較しても少ない。適切な回数について検討する必要がある。

（3）小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

- ・各小学校区での保育参観、授業参観及び協議への参加を、園小連携協議会等の年間計画に盛り込むよう勧め、通常取組となるよう関わった。
- ・子どもの育ちや学びの連続性と円滑な接続の重要性を学ぶ、園と小学校の合同研修会「就学前小学校大仙地区合同研修会」を実施し、幼児教育から学校教育へのつながりの理解を深めた。

□相互理解を深めるための保育参観、授業参観、協議参加への働き掛け

＜保育参観及び協議への参加：小学校 → 園へ＞◎＝協議参加

①大曲北保育園 ←花館小学校から校長◎、1年担任◎

②みつば保育園 ←西仙北小学校から校長、1年担任◎

③すすきだけっこ園 ←神岡小学校から校長、1年担任

【成 果】

○感染症発生や行事などにより参加できなかった場合を除いて全ての小学校区で相互参観及び協議への参加を年間計画に入れ当たり前のこととして進められるようになった。その結果、「主体的な学び」について園の方が小学校より意識が高いことに気付き、授業改善に結び付けようとする小学校が増えている。



【課 題】

●小学校側から「鉛筆の持ち方」や「話の聞き方」などの話題が出たとき、園側の職員から適切な説明をすることがなく、小学校の要望に応えようとする傾向がまだある。

【今後に向けて】

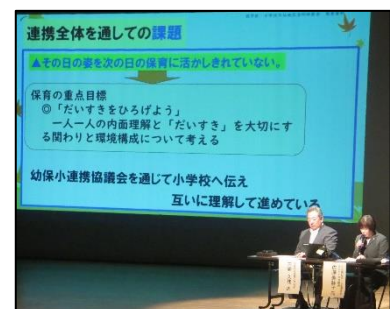
◇「幼児期の遊び」が「深い学び」になることについて小学校側が深く理解できるように、保育参観の際の子どもの遊びを見取る視点を示していけるようにしたい。

□教育・保育の質の向上と小学校との円滑な接続を図ることを目的とした「就学前・小学校大仙地区合同研修会」の開催

- ・期 日：令和5年9月29日（木）
- ・内 容：全体会、実践発表、小学校区を基本としたグループ協議、指導講評
- ・会 場：大曲市民会館小ホール及び大曲交流センター
- ・発 表 者：大仙市立花館小学校 校長：三浦 久佳 氏
社会福祉法人大曲保育会 はなだて保育園 園長：佐藤 美詠子 氏
- ・発表内容：花館小学校区の園小連携、幼小接続の取組
「つながりの先にある笑顔 ～園小連携を通して～」
- ・対 象：市内就学前教育・保育施設職員及び小学校職員
- ・グループ協議の内容
：子ども達が小学校生活を意欲的にスタートさせ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようになるために、園や小学校で大事にしていること

*保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

*参加レポート提出、アンケート実施



<アンケート結果>

- ・実践発表について
非常に満足…32名 満足…12名 普通…1名 やや不満…なし 不満…なし
- ・グループ協議について
非常に満足…34名 満足…12名 普通…なし やや不満…なし 不満…なし

<参加者の感想より>

[実践発表について]

- ・明確なねらいのある、直接の語り合いのある園小連携により、子どもにとって余計なストレスが軽減し、楽しさ、期待、自信が膨らみ、円滑な接続・目指す姿につながることを改めて感じた。「できることからスタート」で自信につなげていきたい。
- ・校長先生の、園に寄り添い理解を示されている姿が大変ありがたかった。

[グループ協議について]

- ・やはり、時間を作って見合うこと、話し合うことがいかに大切で有益か感じた。
園での、小学校への接続を意識されて教育・保育されていることを知り、とてもよかった。
- ・別校区とも同じグループとなったことで、それぞれの実践例が大変参考になった。
- ・協議の視点が分かりやすく、活発な意見交換ができ充実した時間となった。

【成 果】

○3年前は、幼児教育側からと小学校教育側から2名の講師により、接続の重要性について意識を高めることができた。それを踏まえて昨年度は、幼保の指導主事を経験し小学校の校長となった講師から、スタートカリキュラムの作成について必要なことを、具体的に学ぶことができた。今年、実際の現場で園小連携や幼小接続に力を入れてきた小学校区の実践発表を行ったことで、段階的に理解を深め、より実践に結び付けることができたと思う。



【課 題】

●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の要領解説を、研修前に配付したが、スタートカリキュラム作成の時期にも配付した方が有効ではないかということで実施した。

【今後に向けて】

◇合同研修会までに相互参観や協議参加を各小学校区にお願いしてきたが、年度はじめ事業周知の訪問の際に、参観する視点も示すようにしたい。

◇9月は、園も小学校も行事が立て込む時期なので、夏休み中に行うことに決定した。

□連携だよりの定期的発行の継続

連携だより「だいせん元気っ子」を月1回程度発行し、連携の具体や内容、保育の様子や1年生の授業等を随時紹介したり、研修会の内容を改めて確認したりして、より接続や連携の意識を高めるようにしてきた。

（4）県との連携体制及びアドバイザーネットワークの活用

- ・県主催の協議会や所管研修へ積極的に参加し、情報交換・意見交換を通してアドバイザーのスキル向上を図るようにした。
- ・県指導主事要請訪問や認定こども園訪問の同行を継続し、保育改善の方向性を捉え、園に分かりやすく具体的に下ろしていくよう心掛けた。
- ・市主催研修会の講師として活用した。

【成 果】

○指導主事訪問の同行や研修会及び連絡協議会への参加によって得た知識や考え方やスキルを、園の保育改善につなげることができた。

○潟上市と男性保育士同士の交流を行うなど、アドバイザーのネットワークを活用して、学びを広げることができた。

○県指導主事等を市主催の研修会の講師としてお願いし、要望以上の内容で講義をしてもらい、保育力の向上に直結する非常に有意義な研修を行うことができた。

【課 題】

●県指導主事の園への指導助言が保育改善に確実に結びつくよう“翻訳”して伝え、保育士等の自信や意欲をより高められるような関わりを今後も模索していきたい。

【今後に向けて】

◇幼児教育の所管研修内容は、小学校側にも聞いてほしい内容が多いと強く感じている。園小の連携と同じように、義務教育課と幼保推進課の連携もあれば、さらに接続の意識が変わっていくのではないかなと思う。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

【成 果】

○市内各園の「園内研修一覧」を作成し全園に配付して、他園との「学び合い」を指導主事訪問時の他にも広げたことで、市全体の保育力の更なるレベルアップにつながってきていることを訪問の度に実感している。

○昨年度初めて指導主事訪問を要請した2園が、今年度は「学び合い」の受け入れも行うようになり保育力を向上させようとする意識が高まり広がってきている。

○これまで交流はあったが組織が作られていなかった小学校区も、連携組織を立ち上げ年間計画を作成することができた。組織的計画的に連携が図られる土台が、全小学校区で確立された。

○小学校側が、幼小接続を意識した園小連携に取り組むようになり、入学した子ども達が、小学校生活を意欲的にスタートさせ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう姿が今まで以上に見られるようになった。

【課題及び今後に向けて】

- 力のある保育士等を3歳以上児（特に年長児）担当にする傾向があるので、乳児の保育の重要性をより理解し、園内研修でも学ぶ機会を増やしていくよう働き掛けたい。
- 保育を見合う園内研修の際の協議において、ファシリテーターの負担感が大きい。ファシリテーターの力量に左右されることなく協議を深められるような全員で創る協議にしていきたい。
- 保育を語るとき、関わりや声掛け、その場の援助などに話題が偏る傾向にある。指導計画の作成においても環境構成の記述が弱いと感じる。もっと環境構成の重要性に目をむけられるよう研修会等で取り上げたい。
- スタートカリキュラムがカリキュラムデザイン作成に終わらず、全体計画における基本方針や、何を大事に入学した子どもたちと関わり、どのように育てていくのかを明記し、それを意識しながら進めていけるよう園小両方に関わっていききたい。
- 架け橋プログラムに係る架け橋期のカリキュラム作成について、今まで以上に市教委と連携し、見通しをもって方向付けしていく必要がある。

実施市の具体的取組（にかほ市）

1 教育・保育の現状と課題

- （1）各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。
- （2）教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

1. 教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。
2. 行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等）
3. 小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

【重点】

教育部局と円滑な情報共有を図るために連携体制の強化と円滑な接続に向けた合同研修会の実施。

【実施内容】

（1）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・子育て支援課と小学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、円滑な幼保小連携のための情報共有を図る（随時）
- ・小学校の訪問、情報共有により就学までに身に付けるべき資質・能力の向上について検証する（各校を年2回訪問）

○幼保小連絡協議会へ参加し、各小学校と情報共有を図り、小学校との連携強化が図れた。

●幼保小連絡協議会では児童の情報共有が中心であったが、今後、円滑な接続に向けた子どもの育ちと学びについても協議を行っていききたい。

（2）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・子育て支援課に教育保育アドバイザー1名を継続配置

- ・教育・保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言を行う（８施設：７２回訪問）
- ・子ども家庭総合支援拠点、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う

○教育・保育アドバイザーへ助言を求めるなど、アドバイザーの役割が浸透してきている。

園内研修の指導・助言により、保育の考え方について先生たちの意識に変化が見え始めている。

- 園と規模と体制により教育・保育アドバイザーの活用機会に差があるため、引き続き各園の環境やニーズ把握に努めながら、アドバイザーを通じた支援を継続していく。

◇令和５年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（にかほ市）

派遣実績 計 ８施設／全 ８施設 １４９回	
回数	・保育園：私立４園（３６回） ・幼保連携型認定こども園：私立４園（３６回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画） ８園（４３回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備） 園（回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等） ８園（１６回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査） ８園（８回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明） ８園（８回） - 施設（回） - 校（回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） ２園（２回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等） 校（回） - 園（回）
理由	・各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。 ・家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

- ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施。（年２回）
- ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する。（年２回）

①乳幼児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（０歳児）」を開催。

開催日：令和５年６月８日（木）

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 ８名

※キャリアアップ研修として開催

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの姿から学びや経験していること、育っていること等の内面を理解することが重要だと学んだ
- ・日々の保育をその日限りで過ごすのではなく、ねらいを持ちその子の気持ちや小さな変化に気付ける視点をもって保育をしていくことが大切だと思った。



(写真左：講義、写真右：演習による実践)

② 1・2歳児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（1・2歳児）」を開催。

開催日：令和5年6月29日(木)

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 10名

※キャリアアップ研修として開催。

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの内面理解や日々の指導計画は、保育を見る「see」から始まることを念頭に置き、子どもしていること、その中に隠れている経験や学びを自分なりの言葉で記録していくことから始め、計画立案や実践に繋げていきたいと思った。
- ・「名前のつかない遊びを受け流さない」この中で子どもたちなりに無自覚に様々なことを学んでいると改めて理解できた。



(写真左：講義、写真右：演習による実践)

③ 3歳児以上児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（3歳児以上児）」を開催。

開催日：令和5年7月26日(水)

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 高橋 亜希子 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 9名

※キャリアアップ研修として開催。

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの表面とは裏腹な気持ちに気付いてあげるのが大切で、子どもの様子、心の動き、育ちや学びから何が必要かを考えた環境構成や関わりしていくことを大切にしたい。

- ・子どもの思いを受け止め、言語化することや共感し励ますこと、子どもの成長と一緒に喜んでいくことが大切だと学ぶことができた。



(写真左：講義、写真右：演習による実践)

- 保育者の意識の変化に繋がり、保育の見直しのきっかけとなった。
- 演習では活発な意見交換が行われ、園同士の交流が図られた。

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（年1回）

- 接続期の子どもの育ちを共有し、相互理解を深める「幼保小合同研修会」を開催。

開催日：令和5年8月8日(火)

場 所：仁賀保公民館講堂

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 チームリーダー 井上 英樹 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 10名、小学校教諭 7名

【参加者アンケート抜粋】

- ・幼保小が繋がることで、子どもの資質・能力も繋がっていくということを実感した。
- ・幼保でやってくださることをとてもありがたく感じた。このような学びが小学校の学習を支えてくれているのだと改めて思った。
- ・幼保小が連携し一人一人の子どもが安心して就学できるような環境をつくっていくことの大切さを再認識した。



(写真左：講義)

- 「幼保小合同研修会」の実施を通じて、相互理解を深めることができた。
- 情報交換の時間を設け、自由に話す機会を設けたことで、連携を深めることができた。
- 教育委員会の指導主事に参加してもらったことで、幼保小接続の重要性の認識の共有を図るこ

とができた。

- 参加した先生の相互理解を深めることができたが、組織全体に浸透させることが今後の課題。今後は、校長先生等管理職の参加を促したい。

(5)「県との連携体制の充実」

- ・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る（要請訪問による指導年2回・市の計画相談年2回）
- ・県就学前教育推進協議会（年1回）、アドバイザー連絡協議会（年5回）等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用
- ・県アドバイザーによる支援訪問に市アドバイザーが同行支援（1園1回）
- ・県主催「市アドバイザーに学ぶ研修会」にアドバイザーを派遣（開催地：横手市、能代市）
- ・県幼保推進課所管研修会にアドバイザーを派遣（「園内研修リーダー養成講座Ⅰ」「保育実践力習得研修」「園内研修リーダー養成講座Ⅱ」）

○資質向上のための研修の実施にあたり、助言・指導を受けながら、充実した内容の研修を実施することができた。

○アドバイザーに学ぶ研修会では、他市のアドバイザーの関わり方を見たり、意見交換を行ったことで、業務の進め方の参考になった。

○アドバイザー連絡協議において、他市の取り組み事例が参考になった。

- 業務の進め方について、各種協議会等で他市のアドバイザーと交流から参考となる事例を学ぶ必要がある。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

○研修の実施により、保育士の保育に対する意識の醸成が図られた。

○令和5年度は、幼保小の円滑な接続の推進を重点的に取り組んだ。各小学校との幼保小連絡協議会へのアドバイザーの参加や昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった「幼保小合同研修会」を開催した。特に幼保小合同研修会については、初めての試みではあったが、参加率も高く、相互理解を深めることを目的に開催した。アンケート等からも同じ子どもの姿でも読み取り方が園側と学校側では違うこと、円滑な接続のためにはその読み取りについて共有していくことが大切である等、相互理解を深めることができた。

- 継続して円滑な接続を進めるにあたり、相互理解を組織全体に浸透させていくことが課題と思われ、校長等管理職の先生方に研修の参加を促し、理解を深めていきたい。

実施市の具体的取組（能代市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。
- (2) 就学前施設、小学校職員双方において、接続期におけるこどもの育ちや学び、保護者支援に対する理解が徐々に進んできたが、組織内で共有することが課題である。
- (3) 特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

2 令和5年度の目的、重点、実施内容

【目的】

乳幼児期は人格形成の基礎が培われる最も重要な時期であるとの認識のもと、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会の実施等、学び合う体制づくりを進め、接続期のこども理解や保護者支援に対する相互理解を促進し、教育・保育の質の向上を図る。

【重点】

幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や研修機会の拡充等を通して、幼保小におけるこども理解や保護者支援の相互理解を促進する。

【実施内容】

（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・昨年度に引き続き、幼児教育・保育アドバイザー 1 名を学校教育課へ配置（所属は子育て支援課）
 - ・事業への理解促進のため学校教育課及び子育て支援課職員による就学前施設への訪問の実施（年度当初、年度末）
 - ・就学前施設長情報交換会の開催（年 2 回）
 - ・学校教育課及び子育て支援課の意見交換、情報共有の機会拡充による連携強化
 - ・他市町村における取組事例等を参考に、幼保小の円滑な接続に向けた課題等の把握（通年）
- 昨年度末、学校教育課及び子育て支援課職員による就学前施設への訪問を実施したことにより、事業への理解が進んでいる。特に学校教育課の担当者、特別支援教育関係職員の訪問が効果的だったため、今年度末にも実施する予定である。
- 架け橋期のカリキュラム開発をはじめ、子どもの育ちや学びを小学校に円滑につなぐための体制づくりや取組の充実に向け、今後も部局間の情報共有、意見交換が必要である。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等

- ・就学前施設における園内研修等でのアドバイザーの活用促進
- ・就学前施設及び小学校における課題、ニーズの把握及びサポート（随時）

◇令和 5 年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（能代市）

派遣実績 計 25 施設／全 25 施設 100 回	
回数	・幼稚園：私立 2 園（8 回） ・保育園：公立 3 園（21 回）、私立 8 園（40 回） ・幼保連携型認定こども園：私立 4 園（16 回） ・その他の施設：小規模保育施設 1 か所（ 回）、認可外保育施設 1 か所（1 回）、事業所内保育施設 1 か所（ 回） ・小学校： 7 校（14 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、10 園（16 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、 園（ 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、 園（ 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、18 園（33 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、18 園（18 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、10 園（10 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、7 校（7 回）） ・（目標のうち、9 園（9 回））
理由	・事業周知及び実態把握等のため、各園、小学校に定期的に訪問する。 ・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。 ・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

- 公立 3 園で公開保育について協議する機会を設けたことにより、経営主体の異なる園からも保育参観や研究協議に多くの参加があり、互いに研修し合おうという意識が高まってきた。
- 訪問等において、他園での幼保小連携の取組を紹介することで、小学校に対して保育参観期間を設ける園が増えてきた。さらに研究協議への参加につなげたい。
- 保育や園内研修へのアドバイザーの参加に関して、園により温度差が大きく、気軽にアドバイザーを活用してもらえるような取組の工夫が必要である。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

①就学前施設のニーズに沿ったテーマでの研修会の実施

第1回保育研修会 参加者 23 名

開催日 6 月 26 日 (月)

場 所 能代市役所

内 容 講話「『正しさよりも優しさ』～温かい言葉を笑顔で～」

講師 能代市特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏

グループ協議「困り感のある子どもへのかかわりについて」

〔参加者の感想〕

- ・「たくさん甘え、満たされた子どもが自立する」という考えに心打たれた。講話の中の先生の温かい言葉、優しい言い回しを真似して保育したいと思った。
- ・「なぜできないのか」「どうしてやる気がないのか」ばかりを考えるのではなく、見方を変えて子どもに優しく味方になることが大事だと改めて感じる事ができた。保護者への対応はとても気を使う部分だと思うので、しっかり信頼関係を築き、子どもが生活しやすい環境を園と家とで連携して作っていくことが大切だと感じた。
- ・保護者への伝え方の難しさについて話し合いをした。他園の先生方と意見交換、園の子どもの状況などを話し合い、共感し合ったり、新しいアドバイスをもらったりできた。新しい発見もあり、とても有意義な時間となった。

②保育実践力の向上に向けた研修会の実施

第2回保育研修会 参加者 15 名

開催日 12 月 11 日 (月)

場 所 能代市役所

内 容 講話「園内研修の進め方について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

グループ協議・演習「ファシリテーターとしての園内研修の進め方」

〔参加者の感想〕

- ・保育者や保育の質を高めるためにも、一人一人の指導力、保育力の向上等、PDCAサイクルがしっかりと確立されていることが大切と痛感した。
- ・今回の協議を通して、ファシリテーターを経験し、講話で学んだポイントを心がけながら取り組んだが、実際にやってみると難しさを感じた。経験の回数を重ねながら、今回学んだポイントを頭にしっかりと入れて、自分自身成長していきたいと思った。
- ・日頃から園で取り組んでいるが、資質・能力の向上になっているかどうか、園内で見直す必要があると感じた。研修の目的、手立て等を明確にして取り組んでいきたい。



○子育て支援課主催の研修会を今年度も2回計画した。1回目はニーズが高い特別支援教育をテーマに行い、充実した研修会となった。

○各園とも研修の在り方を模索している実態にあるため、年度後半ではあるが、園内研修についての研修会を行い、有効性を確認した。

△次年度は専門家による保育の在り方等についての研修を実施したいと考えている。

△園内研修に関する研修会を計画的、継続的に実施し、各園の園内研修に活用できるようにしたい。



(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設及び小学校職員を対象とした合同研修会の開催

就学前施設と小学校との円滑な接続における課題やニーズに応じた合同研修会の実施

令和5年度就学前・小学校合同研修会 参加者 22 名

開催日 8 月 1 日 (火)

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

〔参加者の感想〕

- ・幼保小の架け橋プログラムの重要性を再確認できた。再度、熟読するとともに、1 年担任だけでなく、全職員間の共有が必要だと強く感じた。
- ・「小学校入学がスタートではない」本当にそうだと感じた。子ども一人一人に今まで育ってきた背景があり、それを踏まえて指導する必要があるなと思った。幼保小の連携がとても大切だと思った。
- ・保育園の先生方の子どもの姿からの読み取りや内面理解がとても深く、小学校での児童理解にも大変勉強になった。情報交換したことを基に次年度のスタートカリキュラムの改善に生かしたい。
- ・様々な視点で考え子どもの見取り方や意見を出し合い、すり合わせたことにより、より深い子ども理解になったと実感した。情報交換の場としてもとても有効であると感じ、園にもち帰り、職員共有や就学において、円滑につなげるための楽しんで行える手立てを工夫していきたいと思った。園同士での情報共有ができるのも大変貴重なのでありがたい。



- 市主催の合同研修会により、保育の様子から子どもの育ちを読み取ることなど、幼保小の相互理解が一段と進んだように感じる。

能代市初任者研修Ⅰ 参加者 8 名 (小中を含め全 25 名) *採用 3 年目までの教員対象

開催日 5 月 31 日 (水)

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 教育長講話

演習・情報交換

「これまでの成果と課題から改善策を話し合う」

〔参加者の感想〕

- ・普段の保育について、他の園の保育者と共感できる部分が多く、再びこのような研修に参加したいと思った。また、悩みや課題についても、自園ではできていないことを他園の保育者からアドバイスをもらったり、情報を共有したりして、とてもよい機会となった。今回の研修での情報交換を生かして、今後の自分の保育をよりよいものにしていきたい。
- ・グループで話すと、他の方も同じことを思っていることや悩んでいること、逆に改善策が見えてきたり、アドバイスになったりして、とてもよい学びになった。



- 市の小・中学校の初任者研修に就学前施設からも参加することで、社会人としての自覚をもち、勤労意欲の高まりにつながる研修ができた。

②就学前施設と小学校の相互理解促進のための幼保小連携推進協議会の開催

第1回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 25 名

開催日 5 月 16 日（火）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話「幼保小交流における子どもの姿を見取る視点について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

講話「令和4年度の学校・園訪問より」（教育・保育アドバイザー）

グループ協議 「小学校区ごとの年間計画の作成」

〔参加者の感想〕

- ・交流年間計画を話し合う機会はとてもよかった。それに加え、入学した1年生の様子（子どもと実際に触れ合い、人となりが分かり始めた時期）を伝え、幼児期の様子を聞くことができたのも、これからの参考になった。
- ・保育参観の視点を具体的に示していただき、大変勉強になった。また、「遊び」のもつ意味・力の大きさを再認識することができた。小学校の生活科にもつながる内容で大切にしたいと思った。
- ・幼児期の遊びの大切さを改めて感じ、様々な経験が小学校以降での能力などに直接つながっていくことを学ぶことができた。そのために一人一人の子どもの姿を見取る視点を考えながら、小学校へつなげていきたいと思った。

第2回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 24 名

開催日 11 月 9 日（木）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 行政説明「幼児教育スタートプランの実現について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

演習・協議「持続可能で効果的な連携及び交流活動の在り方を考える」

〔参加者の感想〕

- ・この協議会が始まってから、本園のように市内6小学校へ就学する身として、連携がしやすくなった。小学校の話のほか、他園の実施状況を知ることができ大変ありがたく思う。
- ・まずは各組織での確かな情報伝達が必要だと思う。担当が変わっても継続していけるために大切だと考える。また、連携をして互いにどんなよいところがあったかどんな育ちにつながっていると感じたかを伝え合い、互いを知ることが持続可能な連携のために必要だと思う。



第3回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 40 名

開催日 2 月 22 日（木）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

○幼保小連携推進協議会の年3回のサイクルが軌道に乗ってきた。第1回で小学校区の交流計画を立案し、第2回は管理職を対象とした意見交換、第3回は連携の振り返りと就学児の情報交換というねらいで実施している。



③幼児教育・保育アドバイザー通信「てのひら」の定期発行（月1回）

- ・能代市の就学前施設（17施設）及び小学校（7校）に配付

○幼保小連携の研修会や交流の情報、園訪問で参観した保育の様子、園内研修の情報などを掲載し、就学前施設や小学校の連携等に活用できるよう、定期的に発行している。

（5）「県との連携体制の充実」

- ・県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援
- ・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加
- ・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用
- ・県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

○幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができ、参加者の事業への理解が深まってきた。

○県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会だった。

○県主催の連絡協議会は、講話や演習等参考になることが多かった。また、他市と情報交換ができる貴重な機会だった。

○他市アドバイザーに学ぶ会は、他市の教育・保育の推進体制づくりや、園へのかかわり方等を実際に学ぶ機会として大変有意義だった。

○11月7日（火）に湊城幼稚園・ていじょう保育園より保育参観の場を提供してもらい、他市アドバイザーに学ぶ会を開催し、県内8市のアドバイザーが参加して研修会を行うことができ、貴重な機会となった。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R5)の成果と課題

○幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や通信等による情報発信を通じて、保育の質向上のための園内研修の在り方について、意識を高めるよう取り組んできた。徐々に研修意欲の高まりにつながってきている。

○保育研修会の実施や幼保小連携推進のための研修会等、園相互や幼保小の職員同士が情報交換を通して研修できる機会を拡充することができた。

●架け橋期のカリキュラム開発に向けた取組を通じて、部局間の連携及び幼保小の連携強化を図っていく必要がある。

●各就学前施設における課題や願い等を把握し、幼児教育・保育アドバイザーを活用した教育・保育の質向上に向けた主体的な研修の充実につなげたい。